大正六年九月十四日第三種郵便
物認可・昭和十五年一月廿五日
印刷納本　・　昭和十五年二月
一日發行・毎月一回一日發行・

第廿三輯第二號　昭和十五年二月一日

建築と社會

新進建築家の建築論特輯號

事變と建築家……山口正
建築行政と都市構築……菅陸二
滿洲國建築展望……渡辺雄
地方都市と建築行政……中村俊一
建築家と建築……遠山正壽
建築家と都市構築……實崎靖

紫烟室　日本病、ベルツとダウト、堂々たる咳、田舍に歸つてみて、
文献　農耕地帶システム　古建築新抄　新建築欄　會報　第22輯總目次

日本建築協會

田島應用化工株式會社

大阪支店

大阪市北區中之島五丁目三〇番地

電話土佐堀(44)一三二三・五六八二番
六二二一・七二九四番

倉庫 櫻川(64) 一七二五番

本社 東京市足立區小臺町六三三番地

電話 淺草五五一三・六七九九番
王子二三三〇・二三七〇番

出張所 滿洲大連・朝鮮京城

工場 小臺・宮城(東京市足立區)

營業種目

三星印

ルーフイング及フエルト
砂付便利瓦
サイドリユーム(床舖材)
各種アスファルト加工品

一枚のルーフイング・一滴の瀝青をも使はず而も絶對防水の新工法
トタン・スレート・陸屋根如何なる屋根の雨漏りも完全且つ迅速に手直出來る修繕材



陸屋根斷面

スレート屋根防水斷面

輕量屋根斷面

◇戰時國策に應へ如何なる屋根の故障も雨漏りも簡單に手直し出來る修繕材

1. 糊狀液狀に分れ兩者の合理的配合に依り適確なる修繕目的を達す
2. モルナイト自體寒暑の影響を受けず龜裂脫落無く耐久力半永久的且黑色スレート色、灰、錆、白、綠各色あり
3. 施工簡易素人にも簡單に使用出來る

◇ルーフキング防水層に依らず一滴のアスファルトを使用せぬ新時代の簡易防水工法

1. 熔融せるアスファルトを使用せざる爲現場で煮焚の必要なし
2. モルナイトは氣溫に對する感度殆どなく爲に龜裂剝離を起さす絕對完全防水となる
3. 新築工事の場合の外既設防水修理の場合も大小に不拘自由に修繕可能
4. 施工上特別の技術を必要とせず

御照會の節は「建築と社會」廣告の旨御申添下さい。詳細カタログ仕樣書送呈

特殊塗料と建築材料

大阪營業所

大阪市西區土佐堀船町16

電話土佐堀(44)3208 振替大阪13903

本店 東京市京橋區槇町三丁目　工場 東京市足立區千住町

建築と社會

第23輯　第2號　昭和15年2月發行

二月號

目　次

卷頭言……（1）
事變と建築家……山口正（2）
建築行政と都市構築……菅陸二（9）
滿洲國建築展望……渡邊雄（15）
地方都市と建築行政……中村俊一（20）
建築家と建築……遠山正壽（33）
建築家と都市構築……實崎靖（36）

☆紫烟室☆

日本病……中筋麻芳（47）
ベルツとタウト……堀口甚吉（49）
堂々たる咳……山口正（51）
田舍に歸つてみて……大石忠夫（55）

☆文獻☆

農耕地帶システム……鹽井幸次郎（57）

☆古建築新抄☆

支那式建築……義原義一

☆新建築欄☆

日本・橿原神宮外苑、橿原道場（奈良縣）
外國・工場の貯水塔（ドイツ）・チユーリツヒのスイス國民博覽會（スイス）・ローマに建つアフリカ省建築競技設計當選案（イタリー）・デツサウの劇場（ドイツ）・村の專門學校・グリーニツチ市役所（イギリス）・Foerstner 會社工場（ドイツ）・ロンドンのアパートメント（イギリス）・オレゴン山中の木造住宅（アメリカ）野外住宅（イタリー）・サンマー・ハウス・住宅（アメリカ）・Aosta の新住宅計畫（イタリー）

會報……（67）
昭和14年度「建築と社會」總目次……（72）

卷頭言

事變開始以來第4周年目に入つて此處にその當初からの懸案であつた住宅難・都市の防火・物的人的資源の缺乏等諸問題への實際的解決の必要さが益々其の深刻味を加へて來た。本會は夙にこれ等の諸問題に着眼して、適宜それが指導對策に萬全の努力を注いで來た。そして實社會に於けるそれが全般的な對應策はその都度現れる事象に照し合せて既に一段落練り終つた貌である。而るに現實の問題の改善實施は遲々として進まず、反へつて時の經過と共に益々恐る可き結果を累積してゐる。

厚生省の勞務者住宅難緩和への對策は、昭和14年度の住宅不足數として發表された數字に對して、果して何割の實施が之に伴つたか。都市武裝のためには最も緊急な防火——在來の薪の山然たる都市の防火改修が、事變前と今日とを比較して如何程の効果を增したか。支那空軍の徹底的壞滅は之が實行を遲延してもよい何等の理由にもならない。敵は支那一國には限らない。殊に最近の靜岡の大火はこの問題が單に戰時にのみ取り上げられるものでない事を入念に教へてゐる。

物資の統制は益々其の度を高め、緊急必要な所へ向はしめる筈の處、不渡切符の横行は如何なる結果を招來したか。技術者の人的資源の不足は、必然的に全體的な最大能率獲得のために再分配を必要とし乍ら、一部に總動員法に依る徵用令の發動を見た以外、殘りの大部分は舊態依然である。一方には夜を日について働いてゐる者があるかと思ふと、他方には統制强化に託けて、無聊を嘆いてゐる者がある。

これ等は今直面してゐる未曾有の事態に處する一時的轉換期として、或は止むを得ない事かも知れない。然し、其の轉換期に於ける過程は、既にこれで充分である。

方針は既に確定した。徒に甲論乙駁の時機ではない。唯實行あるのみである。各自はその部署に附け。指導的立場にある者は練り來つた方策についてその運用に萬全を期せよ。他は唯默々として示された方針に從つて順序よく一つ一つを築いて行かう。一人一人が第一線に立つ將兵の如き眞劍さと熱とを持つて。斯くしてこそ光輝ある紀元2600年は御東征の御壯擧にも準へた一大偉業完成への華々しい首途となるであらう。

事變と建築家

山口正

1.

戸を叩く風の音に夢を破られ、はて、風か、鼠か、或ひは盜人ではあるまいか、と暫しは耳を澄し、息を凝らす。夜半のこの一時、時間の空費、神經の消耗、安眠の中斷と無益な疲勞と。これ位無駄な事もあるまい。その無駄をなくするために、新たなる無駄が建築家に課せられる。塀を高くし、門には閂を備へ、戸口には錠をかける。しかも尙充分なる安心は得られず、又しても、夢を破られ、耳を澄まし、息を凝らす。自然の暴力に備へて耐風に、耐震に、と工夫を凝らす事は、建築家にとつては喜びを以つて背負はされた務めである。が、盜難の如き、或ひはその他の、例へば送信とか、過失とか、虛榮とか、偸安とか、いふが如き、人間社會に於いて、各個の努力により相戒めて完全に防ぎ得る事が、人間相互間の約束、諒解の不足に基き、つまらぬ無駄を各個が背負はされ、それに對して建築家が苦勞しなければならぬといふ事は、當の建築家にとつては無論の事、その無駄費を負擔する施主にとつても堪へがたい事であらう。

風とか、地震とか、豪雨とか、そういふ自然現象の發生は人力の如何ともなし能はざるところで、僅かにそれに供へて、筋違を入れ、屋根を輕くし、堤防を築くが如き努力のみが人間に殘されてゐる。それはそれでよい。然し、人間相互の努力によつて、或る程度まで除去し得る如き事に對して、その根本的除去の抜本的療法を試みず、徒らに末梢的枝葉工作にのみ沒頭する如きは聊か愚の謗無きにあらずで、この枝葉工作を負擔してゐる建築家として一言したくなつて來るのである。

特に事變は、建築技術者の需要を急增し、如何なる建築家も机上に仕事を山積し、しかも一方材料の不足は增々工事の進行を遲延せしめてゐる狀態である。この時に當り、社會の反省により、建築家の負擔を少しでも輕くする事は、建築家にとつては技術の向上をもたらし、施主にとつても亦最も望しき事であらう。

我々は、かかる罪のない、迷信のない、過失のない、といつたユートピア的社會を想像する場合、それを夢みる事と、それを諦める事とを交互に味はされる習慣を經驗に持つてゐて、身を打ちこんで、このユートピア的社會の享有に熱情を持つ事は出來ないのであるが。若し、多少でも、この社會がかゝる意味で改良されたならば、建築家は面白くもない苦慮から解放されて、もつと樂しい人生への寄與に追はれる事になるであらう。

事變下建築材料は非常に不足して、窮乏の中に僅かに要求を滿して行く狀態である。建築家は、僅かの材料で目的を達するように利巧な設計に骨を折り、重要物資に代る代用品の發明に餘念がない。然し、錠前の代用品の研究に沒頭するよりも盜人の無い社會を作る

方が話は早いのである。唯、ころいふ考は、話が餘り合理的であり過ぎて、誰もが考をそこにもつて行こうとしないけれども、本當は建築家も社會も心を一つにして考へて見なければならない事なのである。

2.

上述の事は、つまり、軍備に、對世界的軍備に全力を傾注してゐる日本が、その國內に於ける對隣人的軍備をやめようといふのである。もつと具體的に云へば、我々の住宅には塀もいらぬ、門も門も、戸口に錠もいらぬ。

我々の住宅は、風雨を防ぎ、寒暑を凌ぎ得たならばそれでよい、我々の住宅から城郭性を除去せよ！とそういふ事をいつたのであるが、かかる目的をもつて社會の改良を圖る事は必然次のような事をももたらさずにはおかぬ。

思ふに、建築といふものは、この社會との關係の深さに於いて、社會を皮膚に喩へれば建築はその皮膚から出る汗のようなものである。汗が、その體質と事情と性格を現はす如く、建築は社會を全的に表現し、その性格を明示する。建築の背後にひそむ社會を、その建築の表現によつて、讀みとる事は容易である。ユートピア的社會の建築ならば、全的な眞理の肯定を示すであらうように、この世の建築は、その屬する社會に於ける、眞理の歪みの程度を示し、或ひは全的な否定を現はす。これはこの世が眞理に對して熱情を持たないために、多くの不合理を抱括するためである。事變の刺戟によつて、この世の中がいくらかでも眞理への歩みを進めるならばいくらかでもよい建築が得られる事は道理である。よい建築が得られるのも、悪い建築しか得られないのも、建築がすべて社會を反映するものである以上、社會そのものの對事變自覺に待たねばならぬのである。であるから、社會の改良は必然、立派な建築が現はれるための素因たり得るのである。

3.

こういふ大きな問題は、あまり建築家の興味を持ち得ないところであらう。何よりも當面の重大問題は、建築材料の不足である。如何にして材料を獲得するか、が建築家今日の緊急問題である。しかも、耐火建築、防空建築等の材料密度の多い建築が要求されてゐるのである。材料の增要と、不足とは助け合つて甚だしい不合理を生んで、勢ひ材料の奪取戰となり、諸々の統制となつた。さて、かかる難局に出遇はして、施すに術なく、呆然として手をつかねてゐる有樣である。何もしない、唯局面の變るのを待つてゐる。その中には物事が順序よく運ぶようになるであらう。我々が從來踏んで來た道、腦裡に描くはこの坦々たる道である、そしてその道が正しいか否かは問題ではない。頗る意氣地のない心境である。道を拓くことに熱情を持つでもなければ、新しい理想を打ちたてて進むのでもない、かと云つて、現實に妥協を示すかといふに、そうでもない。ただ錨を下して晴れるのを待つてゐる。であるから、局面打開に對して何等の努力は試みられない。ただ最も熱心に試みられる努力は、己及び己の關係の圓滑なる流動を圖る事に對してである。する事が

利己的である、個を包むところの全體への關心がない。だから、僅かの材料を奪ひ合ふ、自分達の扱つてゐるところの仕事が、今國家の最も必要とするものかどうか、でなしに、その仕事を如何に素早く成し遂げるか、だけが問題なのである。如何なる建築を國家のために必要とし、又如何なる建築をこの際中止すべきかの、常識判斷位は誰にも容易に出來る筈である。然るに實狀は如何？如何に生計のため、營業のためとは云ひながら、轉げこんだ仕事を摑んだが最後、判斷も糞もあつたものか。かくして國家的ならざる使途にあはれ貴重な材料は消費されて行く。

國家は、こういふ愚かなる行爲に供へて、あらゆる制限の法則を設けた。法則の强壓を以つてしなければ、建築家達は自らの力を以つて自らを正しく律し得なかつたからである。鐵材の、木材の、統制とか、築造許可の制度とか、又住宅の大さにまで制限の寸法を與へられた如きは、建築家の良心的自律の缺如に對して、國家の設けた、塀であり、閂であり錠である。

事變は建築家が正義の道を步む事を要求し國家はその正義に信賴せんと欲してゐる。

4.

かくして、幾多の法則の力によつて、材料は國家的なる方面に向けられ、事變に對する施設が圓滑に行はれる事は、先づ結構な事ではあるが、その材料を多く獲得し得る側の仕事に携つてゐる人々は、かかる便利が實は多くの不便によつてもたらされたものである事を忘れずに一層の細心なる使ひ方を考へなければならない。又、不便を味ふ側の人々も、こんな材料の不足位にその氣を沈ませてはならない。國家が最も恐れてゐるであらうと筆者が想像するところは、多くの建築家達が不自由とか不便とかの蔭に意氣消沈してしまふ事である。我々はこの機會に、從來我々のやつて來た事や、我々の態度等に就いて一應考へなほしてみる必要がある。そこに或ひはもつと容易な道が發見されるかも知れない。我々は平坦なる道を樂々と步んで來た順風に穩かすぎる航海を續けて來た。今事變に出遇はして、よき反省の機會を持つたのである。反省もなく、再びもとの平坦なる道、平穩なる航海にもどれば、正しき道は永久に發見されないかも知れない。我々の設計には餘剩の鐵筋がコンクリートの中に眠つてゐるかもしれない、明るすぎる窓が徒らに却つて視力を傷めてゐるかもしれない、そういふ技術上の些細な事柄にもこの際嚴密な吟味を試みようではないか。

鐵筋に代はる竹筋を考へてみるのもよい、又計算法を進めて鐵筋の使用量を少くするのもよい、又かかる構造物自體の存在の理由に社會的なる檢討を加へるもよい、唯々漫然としてゐる事は絶對に不可である。

又、こんな事も考へてみたいと思ふ。日本は濕度の國である。だから刃物とか、釜とかの如きやむを得ぬものを除いては什器はすべて木製であり、陶製であつた。この事は同じ東洋でも、鐵器、眞鍮銅器等を珍重した大陸や半島とは著しい對比をなすものであつた。

かゝる風土への合理性も、一度びヨーロツパの文化に吹き捲られてからは、什器といはず食器といはず、建築部分品といはず、あらゆる生活に關するものがすべて、銅に、眞鍮に鐵に姿を變へたのである。かゝる傾向は、かかる材料に乏しい日本としては實に無反省な行きすぎであり、又風土への反逆でもあつた。それらに就いても今反省の機會を與へられたと考ふべきであらう。

事變はこうして建築家達に國家の姿を正確にとらへる機會を與へ、今後に供へる方策の研鑽を勸奬する。

5.

この又となき機會に、かくの如く色々の反省をなし、是正を行ふのであるが、特に1項を設けて强調したいのは建築家に都市計畫的な性格を與へ、國家的立論をその業務の上に行はしめる事である。

1戸の住宅を建築するに當つても、我々は色々の事に考慮を拂ふ。盜難に供へて塀を巡らし、地を築いて洪水からまぬがれようとし、或ひは排水を完全にして衛生上の完璧を圖る。然し、いかに塀を高くしても、生活に困る人々への考慮がなければ、その塀を乘り越へる盜人も現はれようし、いかに衛生を顧慮しても、他に非衛生な地域があれば、傳染病は蠅と共に塀を越へて我々に逼るであらう。およそ自分だけの事を考へるのみで、他を考へない場合は、すべてこんな風に報ひは己に返る。天に向つて唾するようなものである。先づ、個に對する考慮をあとにして、さきに全體の事を考へる。個から設計を出發させず全體から個を割り出し、個を規定し、かかる個を以つて絶對とする。

例へば、我々の宅地の廣さは、どの位が標準的か。に就いて、我々は自分の勝手な希望に、世間のしきたりを參考にしたものを以つて標準とする。そしてその廣さが、この國に住む人間として正當に割り當てられたものに合致するや否やに就いては考へてもみない。そういふ考へ方を否定したい。國土全體から考へて、我々にはどの位の廣さの宅地が適當かを決定する方法に從はねばならない。

例へば、我が國の農耕地面積は600萬町歩で農家の戸數が550萬戸あるから、1戸平均の耕作面積は1町1段歩足らずである。といふ風にして、その1町1段歩を標準にして增産の計畫とか、勞働の基準その他の諸問題を考へて行く、こんな風にして全體から個に考へを向けて行かねばならない。さて、どの位の廣さが、宅地の標準であるかは、一律にも行かぬし、ここで判然さす必要もないのであるが、方1町の屋敷とか、或ひはその四半分のものでも、きつとその標準よりは大きいものであらう。であるとすれば、こんな大きなものは、宅地の買溜であり、買占めである。限りある國土をかゝる優先權者に占められては後から宅地を得ようとするものは思ふような、或ひは標準的な宅地を得られない事になる。これは明かに地上權の買溜であつてその周圍を歩ます事によつて、他人の交通費を嵩らせ、又必然他より餘分に物資を消費する如きは、國民的な謙讓の德にも反するし、もと

より近代的な思想ではあり得ない。よく、建築家等が、やれ住宅の廣さはどうの、宅地の廣さは300坪なければいけないの、と、自分の感情に基く、無責任な一人合點を發表してよい氣になつてゐるが、愚も愚、笑ふに堪へないものである。

聊か横道に筆が走つたが、建築家はかくの如く、都市計畫的に、國土計畫的に、見當をつけて設計をする事が必要である。特に、かゝる大きな反省は、今事變の機會に於いて爲さなければ將來再びこのよき機會はないであらう。

6.

都市計畫とか國土計畫とかいふ言葉につれて、是非一筆染めておかねばならぬ事に、時節柄、田園都市出現への要望がある。

事變は夥しい、數の工場の、住宅の、その外色々の新築を要求してゐる。全體より個を規定するといふ考へ方の實踐には好機でもあり、又最も必要とする時でもある。やたらに無統制に、工場を建ててはならない、工場を建てるべき地域を、最もそのために都合のよい地域を設定せよ。今事業家が腦みの種は、工場を建てる敷地の得難い事である。工場地域は大規模なものを以つて理想とする。1ケの縣にも相當する位の地域を以つて大工場地域を設定するのでなければ理想的なるものは得られない。が、極く小規模な、現在實現され得る可能性のあるものに就いていふならば、現在行はれてゐる如き無味乾燥な方法は如何に事變下と雖も、否事變下なればこそ尚更、許さるべきではない。古い事ながら、レツチウオース、ウエルウイン、或ひはクルツプ等の工場を中心としての田園都市に依つて得られた理想的工場都市の理論を實踐にうつすべきである。建築家は、工場建築家は、工場を建て塀を巡らして、それで用濟みではいけない。工場の周圍に綠を植えつけ住宅を建て工場に關係ある人々の福利のための設備を完了し、防空への備へ、厚生への考慮、等、そこに人間生活の理想境を實現する迄に、事業家への勸奬の責を負ふべきである。

事變が長ければ長い程、建築家のこの責務は重大である。どうにか、こうにか働ける程度の工場を造り、附近に運河でもあれば、工場として不足なきものであるかの如く思ひ、徒らに、建設費を切りつめて事業家に媚び、職工は、6帖に3人寢てゐようが、5人寢てゐようが、氣にもしない。こんな建築家が工場建築に從事してゐる間は、工業の殷賑は望むべくもない。そこにあるものは單なる工業の繁忙にすぎない。殷賑とは事業も榮へ、關係する人間が皆幸福になつて始めて云ひ得る言葉である。都市計畫の專門家は何をしてゐるのか。統制ばやりの今、多くの工場を一括して新しく工場地域を中心とする田園都市を開設する如きは、統制流の奥義を以つてすれば、極めて容易でもあり、且つ歡ばれる事心定であらう。

7.

幸福なる筆者は、この一文を草しつつ、忠靈塔圖案懸賞募集の當選圖案の發表に接した。その一等當選圖案をみて、最も喜びとするところは、筆者が密かに恐れてゐたところ

の、日本的なるものへの形象追從が少しも見られない事である。今後、この圖案に對して色々の批判も發表される事と思ふが、如何なる批判も、先づ作者にも選者にも、この點を多とせねばなるまい。この事だけでも、まことに意義深き懸賞募集であつたと思ふ。從來のかかる企てには、きまつて過去の日本の姿が現はれたものである。しかも、かかるものが度々當選の榮譽を擔つたのであつた。建築家の目が過去の美しい形象へ向けられた事は無理からぬ事ではあつた。我々の過去には事實美しい藝術の花が咲いたのである。行きつまつたと稱せられる我々の世界ではこの過去の花が特別鮮かに見えた事に何の不思議もない。今その花を省みて、保存を企て、復興をもくろみ、研究しようとする事に異議はない。こういふ美しい過去を忘れてはならないし、その特長を失つたり、知らなかつたりする事はよろしくない。たゞ、この過去をもう一度現世に咲かせて、それによつて國民的自覺を促そうなどとはもつての外である。かかる意圖に基き、かかる意識のもとに、まともな藝術が得らるべき筈はない。しかも、この過去の藝術の花も、偏狹國粹主義者の觀念になつてゐる如き太古の日本の姿ではないのであつて、太古より今に到る長い文化の持續の間に、それぞれの時代に受け入れられた異國の文化藝術が、あまり永い間この國に根を下したために、如何にもそれが日本のエツセンスの如く見えるに過ぎないのである。

藝術がかく傳へられて月日を經過するには既に作られたものが、これから作られものに働きかけ、次から次へと影響を與へつつ進むものであるから、我々の體內に、遠い祖先の血が流れてゐる如く、我々の藝術には、やはり遠い祖先の藝術が脈打つてゐるのである。かくの如く、次から次へと影響して、經過する事が傳統といふものである。傳統が古いといふ事は、太古から、2600年もの昔から、一つのものが次のものを規定しながら續いて今日に到つてゐるといふ事である。であるから我々が今作るところのものには、かかる傳統があり、その我々にはかかる血統がある。それは純粹な現代の否定であつて、現代は必ず背後に2600年の歷史を持つといふ事である。故に、我々が日本的といふ事に憧れて過去のある時代まで後退して、そこに出發の點を定めんとするが如きは眞に日本的ならんとする道ではない。一つの錯覺的行動である。

かかる錯覺に基いて、文化の流れに澁みを作り、流れを腐らせる事は、藝術の花をも咲かせず、文化の進展をも阻む事である。今次の事變はこの流れの堰を打ち毀して、水に快き流れを與へたといふべきであらう。事變が我々に最も要求するところは、健全且つ愼重なる理性に基いて事を決する事である。我々が氣樂に日本の過去の姿に憧れたり、奈良朝や平安朝に思慕を寄せたり、勝手氣儘な熱を吹いて居れるのは、何が、この日本を支へてゐるからか。それを考へてみなければならぬ。『何が日本を支へてゐるか』これは事變が建築家に與へた最も貴重なる反省への誘である。

8.

事變はかくの如く多くの反省を建築家に與へたのであるが、最後に、事變が建築家に與

へた一つの重大なる課題に就いて考へなければならない。

それは大陸將來の建築藝術の問題である。無論、大陸には建築のみならず、あらゆる他の藝術があり、又文化の諸部がある。が、之れらは何れも獨自の立場を以つて存在を續け或ひは改變して妥當なるものとなり得るところのものである。ひとり建築藝術の如きものに到つては、事が甚だ面倒である。これは建築の如き、他の藝術とは事情の相異せる藝術に限つて起るところの問題である。

大陸には既に大陸自身の傳統を持つ立派な建築があり、又、我々大陸將來の建築を擔ふ日本人には、これまた香ぐはしい日本の血が流れてゐる。大陸本來のものと、日本から移すべきものと、更に大陸のそれにも幾種類かのものがあらうし、それらをごつちやに混ぜて、民族の種類だけの建築を列べるような事になれば、それは百鬼夜行である。そこに建つものは、各々色々の系統を持つものであらうから、それらの雜多なものを統一する力はひとりその植栽地の風土に順應させるといふ事より外にはない。

日本藝術の特性は、ゆかしさと、風情と、內面的な點とにある。これに對して、大陸のそれは、およそこれとは反對の性質を特性とする。色々なものが混合してもかまはぬと云へばそれまでであるが、殖民地的な雜駁浮薄なる混合藝術が國際藝術とか新大陸風とかいふ美名のもとに行はれるような事に、若しなれば、近き將來に於いて、我々は重ねて反省を要求される運命に出遇ふであらう。

かく大陸を殖民地的な視方に於いて、視、しかもそれを民族の力をあげて建設し、護り育てて行くが如き事は何れの民族とても堪へ得ぬところであらう。

自らの國に住みながら、最も自分達に近い藝術と、最も異國風なそれとを同時に所有して行く事は、獨立國の國民には、これまた堪へ得ぬところであらう。

建築のみならず、食物にしても衣服にしてもそうである。日本人は日本食を喰ひ、日本服を着て暮し、大陸人は大陸の食と服とで暮す。車の乘り降りにも不便な日本服は、大陸の氣候に堪へべくもないから、衣服の形式は大陸のそれに合流するでもあらうが、旅行者とか、一生の中の何年かを限つて大陸に過す人達とかならば兎も角、墳墓を大陸に移し大陸の土とならう人々に於ては、何千年來受けつひで來た血の中に宿る魂が、日本藝術の特性への憧れに沸き立つ日のある事を憂ふるのである。淡白とか、脆さとかを特性とする日本人の血が、それとは正反對な濃厚と頑丈を誇示する大陸の藝術と如何なる道に於いて調和を發見するであらうか。正反對な血と藝術とを對立させて、殖民地的な現象を呈する事は藝術上の喜劇でもあり、悲劇でもある。正しくこれを事變が建築家に課した一つの大問題といはなければなるまい。　(15.1.10)

建築行政と都市構築

菅　陸二

1. 前がき

編輯部の方より與へられた「建築行政と都市構築」の題下に最近の都市計畫並に建築行政の趨勢に就て感じた儘を書いて見よう。

極最近まで何千坪の敷地を持つた工場と云へば我々の耳には隨分大規模な工場として感じられた。近頃ではそんな感じは殆ど起つて來ない。「A重工業會社はX町の郊外で何萬坪の敷地を持つた工場を建設することになつた。」「B製鋼會社はY村附近で十何萬坪の土地を買收して工場建設の計畫中であり、第一期工事の建築面積丈でも何萬坪のものが出來るさうだ。」等々の素張らしいニュースが次々に現はれて來るのに慣れて今では大工場と云へば直ぐ何萬坪位かと考へるのが常識のやうになりつゝある。

以上のやうな事實丈から考へても今度の事變を通じて我が日本の生產力が曾て見ざる程飛躍的な發展を遂げつゝあることを感ぜずにはゐられない。之と併行して鐵鋼制限を始めとする事變以來打續いて公布實施せられつゝある諸統制規則に依つて建築の生產機構更に大きく云へば我國の經濟機構が相當根本的に其の形相を變化しつゝあることも亦誰しも認める所である。從つて來るべき時代が良かれ惡かれ從來と餘程違つた社會狀態となるべきことは漠然とながら充分豫想し得る。

2. 半農業的輕工業國より重工業國へ

明治維新以來我國の工業は實に驚異的な速度を以て發展したのであるが、之を世界的な水準より見れば未だ多分に農業本位的な性格を持つた輕工業國の域にあると云はれてゐる。(1) このことは次の諸表に依つても首肯されるであらう。

第1表　列國職業別人口比率　（有業者總數＝對スル百分率）

	日本	アメリカ	ドイツ ザールを除く	イギリス 北部アイルランドを除く	フランス	イタリー	カナダ	印度
農業林業水產業	49.5	22.0	28.9	6.6	35.6	47.3	30.9	66.4
工業・鑛業	20.0	30.9	40.4	37.7	33.6	30.3	18.8	10.7
調査年次	1930	1930	1933	1931	1931	1931	1931	1931

（內閣統計局調—「朝日年鑑」に依る）

第2表　1936年に於ける列國銑鐵並に鐵鋼製產高　（單位百萬噸）

	世界合計	アメリカ	ドイツ	ソ聯	イギリス	フランス	ベルギー	日本	ルクセンブルグ
銑鐵	91.5	31.5	15.3	14.4	7.8	6.2	3.2	2.3	2.0
鐵鋼	124.3	48.5	19.2	16.2	11.9	6.7	3.2	5.2	2.0

（「朝日年鑑」に依る）

(1) 例へばJ. オーチヤード著「日本工業論」

第3表　我國工業の産業別工場數、職工數、生産額の割合

		紡織	金屬	機械器具	窯業	化學	製材木製	印刷製本	食料品	瓦斯電氣	其他	計
工場數	1919年	40.9	5.8	7.9	6.2	6.0	6.3	2.8	15.5	0.5	8.1	100
	1934年	30.2	8.2	11.8	4.6	5.3	8.4	4.0	16.7	0.7	10.0	100
職工數	1919年	55.5	4.7	12.3	4.6	7.1	2.8	1.9	6.5	0.4	4.2	100
	1934年	42.4	8.1	17.6	3.6	8.5	3.4	2.7	6.5	0.4	6.7	100
生産額	1919年	50.4	5.2	11.0	2.7	11.9	2.4	1.0	11.3	1.0	2.8	100
	1934年	31.1	15.6	11.5	2.7	16.1	2.3	2.1	11.1	3.9	3.6	100

（商工省調——部著「工場經營統計」に依る）

第4表　我國工業の産業別輸出比率　（生産額に對する輸出額の割合%）

	纖維工業	金屬工業	機械工業	化學工業	窯業	食料品工業	雜工業	總計
昭和4年	42.0	4.5	6.1	9.9	21.4	8.5	14.0	23.0
6年	32.1	7.2	7.8	9.5	18.5	6.3	9.9	17.8
11年	31.0	7.2	11.9	10.3	21.0	10.9	25.5	18.8

（三菱經濟研究所調査——「統制經濟讀本」に依る）

第5表　昭和11年に於ける我國輸出入品の價格順位並びに價格　（價格單位百萬圓）

順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
輸出	綿織物 484	生絲 393	人絹織物 149	機械類 82	鐵 76	鑵詰類 71	絹織物 68	メリヤス製品 50	毛織物 46	陶磁器 43
輸入	棉花 850	羊毛 201	鐵 192	原油重油 130	豆類 83	生ゴム 73	製紙パルプ 67	木材 56	鑛石 51	石炭 51

（大藏省調——「朝日年鑑」に依る）

以上の諸表に就て見るも、世界爭覇の域に迄發展たし紡織業を筆頭とする輕工業は別として、我國重工業の生産力は所謂一等國の中で從來最も貧弱であつたことを知らねばならない。それは未だ國内産業の域を脫してゐなかつたのみならず原料の海外依存性と云ふ根本的な弱點を持つてゐる。我々は此の現實の土臺の上に立つて戰爭と大陸の建設を同時に遂行しつゝあるのだ。從つて其處には必然的に我國工業の一大飛躍乃至編成替が强要され日滿支を一體とした强力な自給經濟の建設が必至となる。既に企劃院に於ては昭和13年より同16年間に亘り重要重化學工業品の自給自足計畫が立てられた。（其の後日滿支綜合計畫に依り更に修正されたが其の内容は發表禁止になつてゐる。）それに依れば昭和16年には之等の生産力は13年に於ける數倍乃至數十倍となるものもあり、全體としては約2倍に擴大されることになつてゐる。然し斯かる急速なる飛躍的建設が既に見た如き工業水準の上に而も激烈なる近代消耗戰を通じて行はれる以上、鐵其他の建設資材の缺乏を始めとする諸矛盾、諸困難が錯綜進展して行くことは亦止むを得ない歸結であり時局の容易ならぬ

重大性を感ぜずにはゐられない。それは兎も角として、輕工業國より重工業國への轉換こそ今我國産業界が其の凡ゆる困難にも拘らず體現しつゝある現實の姿である。(2)

3. 都市計畫並に建築行政に於ける問題

以上に於て概觀したる我國産業の重工業化への編成替と結び付いて、都市計畫並に建築行政の部門に如何なる問題が生起しつゝあるか、又之等の問題を解決する爲に我々は何を爲すべきかに就て考察しよう。

◇生産の集中と都市の分散

先づ注目さるべきは工場規模の巨大化と地方分散の傾向である。工業企業の擴大集中は勿論今新しく始まつたものではないが支那事變は此の傾向を著しく强化發展せしめつゝある。(3) そして之は又、工場の地方分散傾向の强化と不可分に結びついてゐる。(4) 即ち重化學工業部門に於ける急激なる需要原因たる支那事變を契機として舊來の工場內に於ける生産施設並に生産力は擴張に次ぐ擴張に依つて飽和點に達し尙需要に對する著しい立遲れを克服すべく從來に數倍する擴張敷地を他に求めつゝある。他方に於て資本の集積集中は壓倒的に進展し、中小、零細工場を其の傘下に從屬せしめつゝ、愈々獨占資本としての支配力を擴大强化する。今や一資本の經營する一工場若くは數個の工場のみで裕に人口數萬若くは十數萬の都市を形成する程の規模のものとなりつゝあるのみならず斯かる巨大工場の新設擴張の必要が續々として國家の生産擴充計畫に從つて起りつゝある。而もかゝる大規模工場は舊來の建て詰つた大都市內に其の新設擴張の敷地を見出すことは殆ど不可能であると共に、地價の高い舊大都市又は其の接續部に之を建設することは經濟的に著しく不利である。又一方に於て斯かる大規模工場は其の强大なる資本力に依つて、大都市に於て享受し得る種々の便益を離れて獨立に自己自身の經營發展に必要なる環境條件を建設し得る。即ち既に獨力で自己の都市を形成し得る能力を獲得したのである。之に更に空襲の危險に對する政治的な意圖も加つて茲に巨大工場の地方分散が現實に行はれるのである。以前より唱道せられてゐる農村救濟を名目とする農村副業の工業化に比し著しい懸隔を有するもの

---

(2) 此の重工業化の傾向は然し、支那事變勃發後に起つたものでは勿論なく、既に遙か以前より除々に行はれ、事變前の數年間には特にその傾向が顯著となりつゝあつたのであつて、事變は只之に拍車を掛けたに過ぎない。此のことは前揭の第3.4表並に次表に依つても看取し得る。

生産比重の變化（%）

年次	昭和6年		昭和12年	
産業別	重工業	輕工業	重工業	輕工業
生産額	33.7	66.3	54.4	45.5
工場數	20.7	79.3	28.8	71.2
職工數	23.9	76.1	42.0	58.0

（備考）工場統計表による。金屬、機械器具、化學の各工業を重工業とし他を輕工業とす。

(3) 此の詳細は例へば小島精一著「東亞重工業論」川端巖著「工業再編成論」に於て見られる。

(4) 工場の地方分散も支那事變後の現象でないことは勿論であり、既に都市計畫方面に於てもかゝる具體的な資料に基いて地方計畫への提唱が爲されてゐる。例へば、

飯沼一省著「地方計畫論」（昭和8年）

伊東五郎「大規模工場の立地的調査に就て」（都市公論昭和12年9月）

である。農村に工業が發展する程度のものではなくして、農村が新興の工業都市に取つて代られることを意味する。即ちそれは單なる工業の分散ではなく都市の分散と云ひ得る。我々は今や斯かる實例を群馬、茨城、神奈川、愛知、三重、兵庫、山口等の諸縣に於て見んとしてゐるのであつて、正に我國工業發展の劃期的な段階と云はねばならぬ。茲に於て、個々の都市——而も多くは既成の漸次膨脹して行く都市——を對象として各獨立に計畫整備せんとする從來の都市計畫は其の計畫範圍の狹小さ地域的にも又事業種目に於ても綜合性の不充分さ等の爲に種々の缺陷と困難に曝されざるを得ない。新興工業都市の發展如何は新東亞建設の大事業に絶大なる影響を及ぼすべきものである以上、之等に對する施設計畫はより强化された綜合力に依つて、最も有機的に、且集中的に計畫實施され些かの非合理も無駄も之を絶滅しなければならない。地方計畫乃至國土計畫の必要が最近頓にやかましく叫ばれる所以であり、都市計畫より地方計畫、國土計畫への必然性は益々多くの人々の確信となりつゝある。又此の半面の傾向として既成都市に於ける諸種の害惡を列擧し、更に最近の防空問題と結んだ過大都市防止論が現れつゝあるのも注目すべきである。然し議論に先立つて先づ我々の爲さねばならぬものは計畫を合理的に押し進める爲の調査研究であり理論の確立でなければならない。更に斯かる情勢に呼應して市街地建築物法を中心とする建築行政部門に於ても其の適用範圍を全國的に擴大すると共に、より綜合的な强大なる組織に進まざるを得なくなるは必然であつて、此の方面の事に就ては次項に於て記することにする。

◇住宅問題

急速なる重工業日本への進展に伴つて勞働力も亦新設擴張せられつゝある工場の周圍に集中せられることは明かである。(5) 之等勞務者の賃銀は一般に想像される程決して增大してゐないのが實狀のやうである。(6) 試みに全國勞働賃銀の工均に就て見れば次の如く實質賃銀は寧ろ低下の傾向にさへある。而も他の生計費指數の增大に比し住居費指數の昂騰が最も

	賃　銀	小賣物價	實質賃銀	生計費	住居費	飮食料費	光熱費	被服費	其他諸費
12 年 7 月	107.6	116.2	92.6	100	100	100	100	100	100
13 年 7 月	113.5	140.3	80.9	112.2	103.8	112.1	117.8	129.6	105.3
13 年 12月	120.7	145.8	82.8	——	——	——	——	——	——
14 年 1 月	——	——	——	114.4	104.6	114.0	120.4	136.5	106.1

（商工省及內閣統計局調——「統制經濟讀本」に依る。）

僅小なることは注目さるべきである。一方時局に依る建築用資材の不足並に建築工事單價

(5) 東京及八王子に就ての警視廳の調査に依れば下記の如くである。（「統制經濟讀本」に依る）

	昭和12年末	13年末
工場法適用工場の職工數	384.505	494.987
同　非適用工場の職工數	92.713	98.774

(6) (5)と同じ警視廳の調査に依れば東京地方に於ける軍需工場に進出した女子の平均月收は荒すり工、バルサム工では50圓內外で最高、他は大體30圓前後と云ふことになつてゐる。

の昂騰に加へて家賃制限、に依る採算困難の爲、住宅建築は手控へ傾向にある。[7] 之等の事情を考へ合せる時現在起りつゝある住宅問題が過去の如何なる時代にも增して量的にも質的にも如何に急激であり、且深刻であるかは想像に餘るものがある。之が既成都市に於ては物凄い過密住居となり、通勤距離の增大となつて現れ[8]其の混亂を加重し、生産並に再生産の能率を阻害すると共に、新興工業都市に於ては都市建設を遲延せしめる一原因ともなる。更に重要なるは國民の體位低下勞働力の消耗破壞への絶大なる影響力である。住宅問題は實に戰時下最大の社會問題の一であり、現在の建築行政部門乃至建築界が之に對し何等の積極的且具體的な考慮も努力をも拂はなかつたとすれば我々は後世に於ける怠慢の譏を甘受しなければならないであらう。昨年11月に公布實施せられた「木造建物建築統制規則」は住宅問題の解決に對し側面（建築用資材供給の方面）より之を援助すべき目的を持つものであり、然も之が直接の運用が建築行政の部門に委ねられたることは將來建築行政の進むべき一方向が與へられたることを意味する。然し單に物資配給の圓滑化や建築警察の强化のみに依つて住宅問題が解決し得ざることは勿論であつて、之が解決への主たる手段は豐富なる社會政策の實施でなければならない。又最近に於ける勞務者住宅の建設は工場規模の巨大化に照應した大規模の集團的な形態を採るに至つてゐる。斯かる情勢に於て建築行政は速かに社會政策部門並に都市計畫部門との密接なる提携乃至力の綜合を圖ることが絶對に必要である。更に之と關聯して建築警察は個々の建築に對する消極的な取締本位の形態より一步を進めて集團的な一群としての建築に對する積極的な指導本位の形態へと進まねばならないのではあるまいか。之は既に目下緊急の事業たる都市防火改修に於て既に採られつゝある方向であるが[9]、將來住宅問題に對する對策を更に積極的に遂行する爲には必ず斯かる方向を採ねばならないと信ずる。而して此の爲には建築家の廣汎なる內外よりの援助を必要とすると共に、建築行政機構の綜合的な集中擴大が絶對に必要であつて營繕關係（設計施工を直接擔當する）部門との力の綜合と指導方針確立の爲の調査研究機關（防空に關しては既に防空研究所が設置された）の擴充を絶對に必要とする。若し以上

---

(7) 東京、橫濱、名古屋、大阪、神戸の5大都市及び川崎、尼ヶ崎、廣島、福岡、門司、小倉、戸畑若松、八幡の9市に於ては昭和12年中住宅の新築戸數が合せて61.961であつたものが翌13年には12%即ち7.978戸を減じ、14年に入つては其の減少の度合が一層激甚になつてゐる。
（乾眞介「事變下の勞務者住宅問題と其の對策」〔都市公論昭和14年11月〕）

(8) 能谷兼雄「厚生省の勞務者住居對策」（都市公論昭和14年11月）參照

(9) 現在の時局下に於て住宅問題と並んで建築行政界が當面しつゝある最大の今一つの問題は此の都市を防火的に改造する事業であるが既に防空建築規則も重要都市の大部分に實施せられ改修事業も國庫の補助に依り府縣と市當局の緊密な連絡に依つて遂次着手されんとする形勢にあり、曲りなりにも一應軌道に乘つた觀がある。然し此處に橫はる重大なる困難は我國刻下の總ての方面に共通な惱みである資材不足の問題である。之は住宅問題に於ても全く同樣であつて如何なる議論も名案も此の問題の前に逡巡せざるを得ない。僅少の資材を如何に有效に働かせて山積する大問題を解決するかは我國全體に共通した問題であるが建築界に於ては種々の意味に於て其の程度が甚だしい。「木造建物建築統制規則」の實施を契機として建築用資材を一丸とした統制機構の確立が叫ばれる所以であり、勢ひ建築界の自治的統制の段階に至らざるを得ぬのではないかと思はれるが、其の前に問題となるのは建築界組織强化の問題であるだらう。

のやうなことが現實に行はれるならば現在の建築物法は一方に於て內容や手續を思切つて簡易化して大衆化を圖ると共に、他方に於て必要なる方面の規定のレベルを高級化し嚴格にして眞に躍進日本の現實に即した整理改正を斷行することが可能であり又必要であらう而して此のことは既に記した適用區域の全國への擴大と密接に關聯するものである。

4. 結　び

我國產業の重工業化並に生產規模の擴大に照應して都市計畫、建築行政に於ける問題も亦擴大され强化されつゝある。之と同時に現象形態はどうあらうとも本質に於て個々の建築の全體性は急速に深まりつゝある。從つて又建築家の社會性も加重されねば止まない。今や特定個人の爲のみを意圖して建築を設計し施工し得る機會は益々減少しつゝある都市計畫乃至建築行政に於ける諸問題は最早現在の段階に於ては其の部門內一部少數者のみの專門的な問題ではなく全日本のものであると共に亦全建築家のものである。全建築家の積極的協力と支持なくして斯くの如き大問題の解決は到底望み得ない。（完）

勞務者住宅建設に住宅課懸命

軍需工業の殷盛に伴ふ勞務者の住宅問題は目下の急務として厚生省は昨年勞務者住宅緩和のため既報の如く三ケ年繼續事業を樹立14年度分として勞務者住宅30.000戶、獨身勞務者共同宿舍6.000戶の建設に地方廳の協力を得て着々その建設を進捗する一方舊臘中更に勞務者住宅緩和の萬全を期すため社會局の中に住宅課を新設したが、上記住宅課では新春事務開始と共に從來厚生省が採つて來た地方廳への住宅建設委囑方針に再檢討を加へ、更に同潤會の組織を擴大して厚生省關係の住宅建設を全部委囑すること、半官半民の勞務者住宅建設の國策會社を新設する等のことを俎上に住宅問題の建設方針につき、その萬全策を講ずることになつた。即ち從來厚生省が採り來つた住宅建設を地方廳に委囑する方策は厚生省が資金、資材を斡旋して建設方を各地方に委囑する關係上種々な點で地方廳、厚生省とも不便な點が多く今後このまゝの方策を採る場合は目下の急務である勞務者住宅建設は所期の目的を達成することが出來ないと言ふ見通しがついたのである、茲に於て厚生省住宅課では資材、資金、勞力の合理化に依つて其建設を圓滑にするための前記の建設方策を檢討することになつたものであるが、同住宅課の採る方策は斯業者に影響頗る大なるものとして注目の的とならう。(1.13. 日本工業)

滿洲國建築展望

——新京を中心とする——

渡苅雄

1

滿洲國の建築を語るには先づ第一にその地理的な條件を理解せねばならぬ。最南端の旅順附近と、最北端の黑河省漠河縣では緯度の差異が15°10′であるから、丁度日本の長崎と旭川間位遙ふことになる。日本の緯度の大體の中心が仙臺であるとすれば、滿洲のそれは新京である。滿洲に於ては大陸氣候のため寒暑の差が甚だしく、先づ春と秋がないと云つてよい。解氷期になつて所謂黃塵萬丈たる蒙古風が吹き始めると同時に、荒涼たる枯木も大急ぎで綠化し、9月中旬朔風が吹き始めると同時にそれらの葉は紅葉もせず青黃色い儘バラバラと散つて仕舞ふ。あまりの寒さのため建築工事は約半ケ年は冬眠することが殆んど定律の如くなつて居る。

又地下の凍結により基礎の深さが大連附近では0.9M位で良いのに對し、滿洲里や海拉爾附近では深さから考へれば4M位を要するのである。永久凍土層なるものが存在し眞夏でも間斷なく井戶を使用しないこと、その井戶水が凍ると云ふ狀態である。(最近ではかゝる永久凍土層上の建築の基礎は深いよりも淺く頑丈にすると云ふ傾向になつた。)その他多くの地理的條件よりして、滿洲の建築は防寒のための建築であると云へよう。

そのことは開放的であり夏を主とした建築ではなく、厚い壁と、北側にはなるべく開口部の少ない鈍重な形式を採る建築となつた。日本內地と總ての氣候條件の異なる此の國に日本の建築をその儘持つて來ることは許されないのである。建築資材にしても、一般民家——滿人に於ては木材の豐富な日本に比して泥と高粱殼とが一番入手し易く、然も工事の全部が不器用な滿人の手になる丈に、所謂上等な仕上は望み得ない。

滿洲に於ては各民族が各々それぞれの生活形式を極めて一部の人々を除いては固守して居るのであるから、住家の形式も勢ひ異なつて來るのである。だから住居の形式に關しては特に一つに律することは出來ない。たゞ防寒的な建築であると云ふことのみ、何れの場合にも適用することであらう。

2

滿洲事變後の建築企業は主として日本側に於ては、滿鐵と關東廳が一番多かつたのではないかと思ふ。北の長春を終點とした滿鐵沿線と關東洲全部丈に止り、長春以北の鐵道沿線はソ聯邦の影響の建築、その他は一般滿人が極めて原始的な材料を以て素朴な建築をなして居たものと思われる。

康德4年末の治外法權撤廢までは、滿鐵は沿線の附屬地の經營迄もやつて居たのである

が建築的に見ても一貫して主張と云ふものも無く、建てられた物には多分に殖民地的な氣分が多い様に思われるのである。然し乍ら様式的に見て初期の建築には、直譯的ではあるが驛舍やその他にしても比較的まとまつた形式を具へて居るものが多い。堂々たるルネツサンス式の奉天のヤマトホテル、新京驛前の屋根は生子板葺ではあるがゴチツク式の建物や、祝町の消防署など仲々佳作がある。トラな使ひこなすのに器用な日本人であることが今更ながら感じられるのである。

ハルビンに行くとロシヤ式濃厚なエキゾチツクな建物が多く、われわれの想像も出來ない厚色の教會等が多く、それらの建物が長年の風雨のため所謂さびが付き豊富な街路樹と共に三等巴里の感がある。時恰も帝政ロシヤが東洋侵略のため東洋のモスコーたらしめんとした意圖が都市計畫其の他に伺はれるのである。アールヌーボーからセセツシヨンにかけての様式の建物が多く、その時代の建築であり、その時代に出來た街であることが明瞭に感じられる。鐵道沿線の建築にもロシヤ式のもの多く、ハルビン驛や舊北鐵管理局の建物などはその代表的なものであらう。

建築行政方面から見れば、關東洲を除いて滿鐵沿線附屬地は滿鐵に於て、その他は市公署に於て行つて居た様であるが、極めて不完全な規則であるため附屬地の建物の稠密さは甚だしく、日本内地の都會のそれと異らず冬期採煖時に於ては雀迄も黒く、雪と煤煙と混じたものが降りそゝぐと云ふ狀態であつた。

ともあれ事變前に於ては滿鐵や關東廳の建築が長春以南の建築界をリードして居ることは否定することが出來ない事實であり、それが良かれ惡しかれ今日の滿洲の建築に迄影響せる處頗る多く、今日の滿洲建築にして若しも愚劣なるものがあるとすれば、その責任の一部は當時の在滿建築家が責ふべく、又その反對に良きものがあればそれらの人々に感謝すべきであらう。侮日排日の嵐し吹く不便な當時に、貧弱なデータを便りにコツコツと研究し體驗を以て建設したその人達の努力には一應感謝しなければならぬ。當時の日本の建築界は、大震災前後を中心に各種の建築研究や運動が、燎原の火の如く燃え始めた時であつたが、その時に際して在滿の建築家は恐らく極めて少數であつたと思われるが、比較的生活が安易であつたのため享樂的になつて仕舞つたのと、日本の建築家の大部分が大陸に對して關心が無かつたため、在滿建築家は刺激を受けることもなく遂に時代に殘された形ちと成つたものではなからうか。勿論在滿建築家の全部がそうであつたとは云はないが、もう少しの頑張りと緊張があつたならば、滿洲の建築もより良き方向へ向つて行つたらうにと思はれるのである。

3

滿洲事變を契機として東亞に生れた此の國の建築部門は世界注目の裡に活動を活潑に始めた曠漠たる平原に新らしき首都を建設するため、國都建設局が設けられそれにつれて各種の建築が簇生した。一度にドツと押し寄せる人々を收容するためにそれは大震災の復興

と同様に超スピードで建設された半年前の荒野に忽然として住宅街や商店街が現われ半年の出張先から歸つて面喰つたなどと云ふ事が多くなつた。建國直後に竣工した國都建設局や現在の首都警察廳は、同一の1/200のプラン一枚で入札したと云ふ想像も出來ない忙しさであつたゝために、勢ひ充分の檢討を行ふ暇もなく、只防寒的であると云ふ以外には何等の取得もない建築で埋められて仕舞つたのである。そして博覽會の建築の様なものや、無理に滿洲調を採り入れた建築や、慌てたゝめに折角廣大な敷地を持ち乍ら、南向して建て得るにも不拘東向にのみ建並べて、冬期の最も大切な陽光が南の壁に寒むざむと輝いて居ると云ふ光景を呈して、今更ながら煉瓦造二階床スラブの家を向きを變へる術もなく醜態をさらして居る建築群もある。

Architectural Forum で惡口を叩かれたのは此の時代であつた。

先づ住むために辛らうじて間に合ふだけの、充分な檢討もせず、無比判的に建てられた建築の如何に恐ろしきかを、しみじみ憶ふのである。

4

今日兒玉公園前より南進して、遙に大同廣場を望む新京の Civic Centre の大同大街は、よしや個々の建築に愚劣なるものがあるにしても、確に認識不足の內地人の目を見張らせずには置くまい。電柱のない、バスを主要な交通機關として計畫された此の大街もラツシユアワーには早くもバス地獄を呈して居る。人口の加速度的な增加により、建國草創の都市計畫は今や修正と再檢討を要する時期に直面し、更に地下鐵が要望されて居るが、世界に誇る吉林の水力電氣建設局のダムが竣工の曉には、粘土質の垂直に根切をなし得る地質は地下鐵の工事には最適と云ふべく、滿洲に於ける最初の地下鐵を有することゝなり、市民交通上にエポツクを劃するであらう。

新京の地域制は現在の新京驛の北東方を工業地域とし、商業地域は小賣地域と商館地域に分類して、之を路線式に實施し、雜種地域として後年改良を要すべき所謂城內の既成市街域其他を設けてある。住居地域は滿鐵線に沿ふて南方に擴がり、凹地を公園として居る。官廳建築は將來の帝宮豫定地より南方へ走る順天大街の兩側にあり、大同大街と呼稱して甚だ興味ある存在である。前者の滿洲調(？)に比して後者の近代調は、この國に判然たる二つの潮流が流れて居ることが看られる。日本內地に於いて建築造形上の日本主義の解釋上の相對立は滿洲に於ても存在する様な氣がしてならないのである。斯る官廳の建築が一應整然と並んで居るために一種獨特の景觀を有して居る。滿洲調を盛るために强いて無理をして、復雜なる屋根を付けたゝめに解氷期に雨漏りの原因となつて居る建築や、土木家より建築家は何故にかゝる所に柱列を必要とするかと聞かれたと云ふ話も思ひ浮ぶのである。必要なる屋根は勿論否定すべきではない。屋根を付けることは近代精神に反して居ることではない。要は必然的であるか、でないかの問題であらう。併しながら、必要でもない屋根を付けたが故に故障の原因となつたとしたら、正に醜態此の上もない話しでは

あるまいか。

一級住宅街に於ては、そこは世界各國のあらゆる住宅様式（外觀丈の）が見られるのである。英國風の隣に淡黃色のモザイクタイルを貼り詰めた近代住宅あつて、一定の規準美ではなく、雜然たる美しさと云へよう。少なくとも新京郊外寬城子の北鐵時代の露人官舍の一定せる美しさではない。特殊會社のアパートや、個人經營の集合住宅などとは如何であるか。こゝにも建國草創の檢討不充分な態度が明瞭に看られるのである。けれどもこれらの總てが愚劣なるものばかりではなく眞面目な制作態度が伺はれるのもまれには存在して居る。

最近に於ては內地の優れた新進建築家が續々進出して、何れも眞面目な作品を製作しつゝある。それが漸く井底の蛙式な建築家を啓蒙する結果となつて來たのは喜ばしいことである。在來の滿洲建築家の總てが盲目であつたのではない、刺激のある昂奮劑をほんの一服盛ることにより良き作品が生れる方向へ向ふとすれば、明日の輝かしき前進の爲どの位役立つか知れないのである。この意味に於て支那大陸の大同や上海の大都市計畫に始めから新進建築家が參劃したことは羨ましい限りである。

現在の滿洲國の建築企業は建築資材難のために、當分の間は國防施設の整備、生產力擴充、住宅難の緩和に重點を置き、不急工事は極力抑制し緊急不可缺の工事に限り實施せしむることになつた。その結果煉瓦壁內法100M2以上の個人住宅は殆んど不許可となり、アパート事務所等の諸建築物に於ても、構造用鐵材50トン、セメント350トン以上を使用するものは抑止されることになつた。その結果必然的に規格の統一が叫ばれることになり、代用品を使用する處も多くなつた。各般の產業の開發は滿洲國に課せられた最大の國策であるがために、この國策の遂行に伴ふ人口の膨脹により住宅難の深刻化は避け得られない狀勢である。これを緩和するために勅令により滿洲房產會社が設立され全滿に亘る住宅の建設に乘り出したが、資材の不足は如何とも致し方がない。堂々たる三階建の集中煖房の住宅を少なく建設するか、應急的バラック建築を多量に建設するか、會社に於ては腦みを重ねて居る樣である。

學會方面に於ては設立後20年を閱する滿洲建築協會と康德4年設置せられた建築學會新京支部とが緊密な提携の下に、昨夏〝今日の滿洲住宅展〟が開催された外、機會ある毎に講演會等を催して居る。更に昨年度に於ては、大陸科學院に建築研究室が設けられた。同研究室の事業は未だ準備時代を脫し切れないが、近き將來に於て必ず見るべき成果を擧げることゝ信ずる。

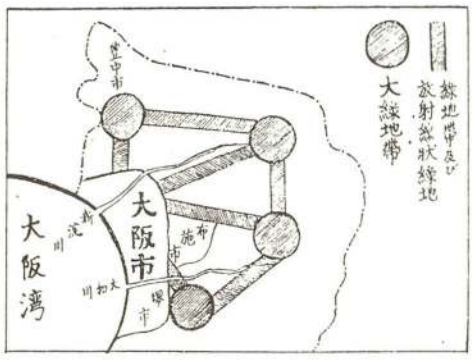
滿洲國の建築は個々の建築は勿論のこと、農村、都市の計畫等々に、今尙未解決の、これからの研究に待つべきものが數へ切れない程ある。青年建築家層中の有志によつて創亞建築聯盟と云ふ團體が造られ新大陸文化の建築の分野に於て研究を始めて居る。青年建築家が、今迄の樣にやゝもすれば安易な生活に溺れることなく、滿洲建築の再檢をなし輝か

しき明日の建設へ參加することこそ、幾多の血と汗によつて樂土滿洲國を確立した先人への感謝の花束ではあるまいか。（7.1.11）

附記　滿洲國の建築の中特殊なものとして開拓民住居があるが、筆者の非才を以てしてはその片鱗さへも紹介することが出來ないのは甚だ殘念である。何れその人を得て紹介をして貰ふ心算である。

商都に大環狀綠地帶計畫

內務省では紀元2.600年記念事業として全國都市に大小61ヶ所の綠地帶を開設する計畫をたて生產都大阪にはその重大性に鑑み既報の如く大阪市を圍繞する郊外地域に各500.000坪の4大綠地帶を、又市內には各20.000坪の小綠地帶を造ることに決定したが綠地帶開設の目標は一に年々膨脹しつゝある都市の過大を防止するにあり、殊に大阪の如く我國產業の中心をなす重要都市が徒らに膨脹してゆくことは防空あるひは保健衛生上の見地からしても由々しき問題で、例えば大阪市が現在の形態のまゝで發展してゆくとしてその40年後を考へてみると250.000.000坪の大阪平野が10.000.000人の大人口で埋められることになる譯で、かうした所謂過大都市への運行を防止するため、大阪府當局では早くから大阪市を中心とする衛星都市の造成に着手し、堺、岸和田、などの舊都市のほか池田、布施、豐中などの新興都市が續々現れ、來る四月には更に吹田市を誕生させて大阪市の膨脹を防ぐ事に努めてゐるが之等衛星都市も忽ち人口が飽和狀態に達し大阪市と衛星都市との間も年々距離が縮められて行く有樣なので府では更に八尾、古市、富田、藤井寺、富田林各町など14の衛星都市を指定すると共に大阪市及び布施市を包む大綠地帶の開設計畫を樹てゝゐたのが今度の內務省の紀元2.600年事業により愈々實現の運びとなつたものである。此4大綠地帶は豫算800.000圓を以つて着工中の服部綠地帶の外、茨木附近、布施市東方附近、大和川下流附近の4ヶ所で土地買收並びに施設費は約10.000.000圓、この大綠地間相互を結ぶ線は幅1キロ、面積20.000.000坪と云ふ大環狀線を設け風致地區、空地地區を指定し、同時に大阪市から各綠地帶に之また幅1キロの放射線狀の綠地帶が設けられることになつてゐる。



地方都市と建築行政

中村俊一

1. はしがき

地方に於ける建築行政が世人の注目を惹くのは今後の問題である現在は唯專門家の間に研究せられ又は此の方面に趣味を持つ人々のみの間に論議せらるるの外凡そ行政を云々する者の中ではその存在をすら認識せられて居らない有樣である。然し乍ら我國情及地方の實情はこのまゝで建築行政を葬り去つて仕舞ふことを許さない。既に都市計畫と市街地建築物法を中心に萠芽した建築行政は生成の息吹を感ぜしめ新たに國內に生起し來る諸般の重要政策と關連して愈々之を發達せしめずには置かない情勢にある。このときに際し數に於ては甚だ寥々たりとするも全國各地の建築行政當局に連なるものは唯技術の名に陰れて生存を全ふせんとする者でないこと、官僚舊型の御役人風を以つて民衆に接するものでないばかりでなく實に構築行政を官界に植着け東亞文化先進國に適はしき文化事業遂行の爲にはあえて身命を惜まない者であることは何よりも建築行政成長の資實を備へて居ると云つてよいのである。

苟も建築行政と稱する以上國家の目的と乖離した單なる建築の爲の行政はあり得ないのである。從來我國の行政活動は構築部面に對する技術考慮を缺いて居つた結果自然の暴威の前に幾度か文化國としての恥辱を重ね來つて居るのである。續いて襲ひかゝらんとする空襲に病魔に風に地震に津浪に火災その他幾多の災禍に對し吾々は智慮ある防備を進めんが爲營々獻身的努力を捧げ反構築的反經濟的行爲の啓蒙に闘ひ抜いて世界に冠たる日本的文化に寄與せねばならないと思つて居る。建築行政の仕事はこれから初められるのである。

比較的構築技術綜合技術に、馴れて居る建築家は亦經濟及社會各般の事象に交涉が深く然も建設的性格を備へて居るのであるから更に活眼を開いて生々の國土を眺め都市を眺めたとき個々の建築の中にはかなり立派なものがあるにひきかへそれが建築群、聚落、都市地方の構築狀態について見ると其處に大小幾多の矛盾を發見する。この大建築物を設計し監督するものが無かつた爲に此の矛盾を來したこと及既成建築群が容易に修正し得ない病弊を持つた奇型集團の姿となつて居ることは返すがへすも遺憾とするところである。この根本の構造的病弊には世人は未だ氣附かずに地方開發に風致保存に國民保健に災害防止に夫々の立場より渦をまいて居るのである。

國土構成上の病根を診斷出來たものが此處にありとすれば其の人は自ら起つて國土計畫なり地方計畫なり又は都市計畫若くは工業立地、觀光立地、保健立地乃至は住宅政策等の綜合的究明施術に當り良藥を投ずるか若くは療法を說かなければならない責務があるであらう。本文は地方都市と建築行政の題下に筆者の親しく承知する和歌山縣地方を對照とし

てこの病弊の二三を摘出し之が簡易施療の方法に就いて概說せんとするものである。

2. 地方中小都市の興隆性

地方に於ける中小都市は現在更新しつゝある。東京、大阪等の過大都市に比すれば其の膨脹率に於て問題にならないものであるが慥かに膨脹の趨向を持つて居る。又過大都市が洪水の如き膨脹發展を見つゝあり之を如何にして規制すべきか考へ及ばないのに比して地方中小都市の發展は其の動因と內容をはつきりと摑み得らるゝものであり、且つ發展の陰に努力しつゝある指導者の動向迄はつきり分るのであつて都市と地方との物資集散の關係の如きも小都市になればなる程全貌が摑み易くなつて居る點に於て性質を異にて居しる亦地方都市發展に就いて見逃し得ないものゝ一つは其の都市住民の意氣の相異即ち人爲的要素の差異が馬鹿にならないと思はれることである。

先づ和歌山市に就いて一言すれば舊藩時代に戰術的都市計畫を以て築かれた城下街が地方中樞官公衙の所在地として往時の繁榮を其の儘受け繼がれ最近に至る迄無計畫發展を遂げて來たものであるが產業發展の先頭は紡績業であつた續いて染色其他綿業關係の商工業が興り市の北東部面を擴大した然して聯隊の設置學校の設置等に依り市は西南方に住居地を延長せしめ其の間各部に小商業街を增加し交通機關の漸次增設に伴つて今日の體形を爲すに至つて居る、市の產業は大體に於て平和產業であり大阪を取引先として居るものが多いのであつて重工業の振はない點は注目に價するものがある。市の周邊には尙發展を爲し得る餘地を存し乍ら戰時下重工業勃興時機に於て他の同勢都市に起ち後れて居ることは只に通運水利等舊藩時代に殘された其儘のものを利用し盡したと見られるばかりでなく實に永年の間工業の共同施設經營に手を觸れる者無く個々の自由自在の發展に委せて來た結果であると云ひ得るのである。現在に於ては皮革工業、染色工業、製材業、化學工業が活況を呈し最近大阪方面の下請鐵工業、莫大小工業等が增加し又建具製造の如きも活潑なるものがあつて全國的に名聲を博して居るものが多いのであるが今後是等工業の發展を如何に導くかと云ふときに構築上の無計畫を初めて覺るに至つて居る有樣である。即ち廣き工業地域を持ち乍ら工場利用地の行詰りを感ずるに至つたのである。かゝる點は獨り和歌山に限らないと思はれるが都市計畫に對する認識も後れて居だことを殘念に思はれる。都市計畫とは道路の技術者が街を碁盤目に設計すること位の認識より無かつたことが今に至つて眞に醒めんとしつゝあること及び運河區劃整理等に注意が及んで來たことは築港と工業地造成及之等の脈絡組織につき計畫構築の曉を告げて居るものと云へよう。實に都市發展に人爲的要素が影響あるか指導が影響あるかと云ふ適例である。

尙人爲的興隆の一例として紀ノ川上流の新興高野口町を擧げて見やう。高野口町は元省線高野口驛によつて高野參拜者の旅宿として町を新生したものであつた。大阪高野山間に電車の通ずる迄の間は客の財嚢をあてに繁榮を見たものであるが交通機關の變遷によつて急激に打擊を蒙つたものである。五千の町民は全く糊口に迷つた擧句附近の物產である再

織の家內工業を取入れ、優秀なる製品を出すに至り續いて產業組合、商工業組合の運用宜しきを制し旅宿高野口町は縣下筆頭の產業高野口町に轉換し纖工業を誘致して町の財政情態に於ても他の町が羨望の的となるに至つて居る。曩に町內を貫流する平行小四川合流の土木事業を遂行し今日では都市計畫法、市街地建築物法の適用を見るに至り區劃整理事業に着手せんとするに至つて居る。町の理事者も町會議員も町內の指導者も青年によつて滿たされ活氣橫溢して居る爲に今後に於いても相等の事業が成されるものと期待されて賴もしい存在である。

次に有田川口に在る箕島町が新興市街として擧げ得られる此の町は元有田蜜柑の集散地として發展したものであるが近時蚊取線香製造の本場となり紡績工場を誘致し又同地の漁業組合の如きも漁獲品の集散加工の爲聚落改造を行ふ等稍々活潑なる事業計畫を持つて居るが如き先覺指導者の恩惠少なからざるものあるは蓋ふべくもない。最近附近に重工業を誘致さるゝに至り遠からず都市の新設的發展が期待されて居る。

上述二三の事例に覩はれる如く地方の中小都市は常に機會を摑んでは起ち上らんとする勢狀を備へて居るものである。

交通機關の新設變遷は亦地方都市に興亡の影響を與へるものであるが鐵道が新たに開通する場合都市の新興又は更新を促すことは公知の事實である。之が爲に陰れたる勝地、保養地古跡靈場が世に出て來る、都人士の殺到氾濫を來し其の收容又は休養設備を魁として都市形成を促すに至つて居る。又通運施設、築港の如きは工場建設に最も必要なるものなることも多言を要しない。交通運輸機關と附近開發計畫との關連宜しきを得ば都市開發は期して待つべきものがあらう。

3. 既成地方都市の弊竇

今日迄地方の都市に都市計畫の無かつたことは吾人をして返へすがへすも遺憾に感ぜしむるものがある。或る地方では發展に先んじて立派な都市計畫を實施して居る敬服すべきものもないではないが、未だ無計畫發展を尻目に見て名ばかりの都市計畫により其の實施の時機を逸しつゝあるものもあつて、建築行政のみ發展に追はれつゝあるものもあるのである。

無計畫の既成都市は如何なる弊を趾して居るか、一口に云へば共同生活の本據であるべき市街、聚落はさながら個人主義の展覽會場たらしめて居るのである。現に人口三萬を有する某商工業都市に就いて見るも最近擴幅された主要街路面は稍々市の面目を保持して居るが如くであるが二三の改修街路面を除けば殆ど總ての家屋は幅6尺以下の不規則なる露路に面して居り兩側の私有地は完全に建物で塞がれて居る。然も之が其の街の商店街であつて住宅は幅3尺內外の更に狹い露路の奥に詰つて居るのである。屋根は多く瓦葺にして居るが生活に必要なる日光を入るゝ窓、空地の如きは殆んど持たない、かゝる不良街衢に市の約五分の一の人口を收容して居り大部分は漆器製造の家內工業を營んで居る勞務者で

あつて其の職場であり且その家族の生活本據は冬期作業の關係上窓を締切つてその建具の隙間に目張紙を施こして裸體で屋内作業を營む習慣がある、その兒童が學校其他遠方に出ない限りかゝる陰鬱なる環境に育まれるのである。この環境は如何に住民の體位に影響するか、傳染病の根絶する見込なきは勿論徴兵檢査の成績も最も不良なりと聞いて居る。幸にして土壁多きと濕度の高いと云ふ様な原因で未だ大火の經驗を持たないが一朝變災に見舞はれた場合を想像すれば戰慄するの外はないのである。

上述の如き家屋集合狀態は人口千を超ゆる聚落が殆ど總て共有して居るところであつて比較的地價の高き和歌山縣下聚落の特徴とするところである嘗て特殊の聚落に對して不良住宅地區改善事業の施されたのは前述の狀態に更に一層非衛生的條件を持つた一部の地域に過ぎないのである。

次に商工業の發展に對して如何なる矛盾を生ぜしめて居るか左に一言を費すことゝする都市計畫として幹線街路と用途地域が既に決定せられて居る某都市を見るに其處には確定されたる廣區域の工業地域を持つて居るが工業地域内の各部計畫と工業地域と港灣との連絡施設充分ならざるものがあつて遺憾乍ら工業地域が工都としての機能を發揮し得ない狀態にあるものがある。無論用途地域の設定は住居地域の安全を保護して絶大の效果を擧げて居るのであるが、工業地域には水運設備工業地適區劃整理が實施されない限り現狀に於ては利用地が行詰りを來たして居るのである。

工場生産の過程に於て瓦斯發散を伴ふ化學工場は如何にして現在の經營地を占め得たか化學工場は多く周圍住民より嫌はれものである、その建設には幾多苦難を經て居るのである。漸くにして一工場が經營地を得たる場合年を重ぬるに從つて其の附近に同種類の工場が集まつて來て一化學工場街を形成するに至つて居るがそれが今日都市計畫區域の中心部に位する結果となつたことは皮肉な現象である。

又舊藩時代に造成された運河の兩側に製材工場が集合して其の事業が大いに發展し愈々全國的に名を知らるゝに到つた今日最早水面は筏で埋まと筏も舟も動きのとれない狀態に陷つて居るのである。是等は計畫の規模に誤算があつた爲ではなくて全く無計畫に早い者勝ちの利用に委せた結果窮したものゝ適例と云ひ得る。

次に發展途上にある温泉都市は如何、鬱蒼たる綠樹に蓋はれて居つた未開特異の泉境は汽車の開通後遂に全國他の温泉地と選ぶところなきの慨を抱かせるに至つた。其他無計畫開發の事例は既成市街の巷に尙幾多横はつて居るのであつて少しく注意して見るとき何れの地方に於ても其の例はあるのである。

以上に依り都市構築が無計畫に行はるゝ結果の弊については獨り大都市に於てのみ痛感せらるゝものではなくして中小都市、地方聚落と雖も相當大きい弊をもたらすことを知ることが出來る。

4. 地方都市と建築に關する諸問題

☆工業立地計畫と觀光立地計畫

最近工業部門の人々によりて工業立地計畫を確立すべしと稱へられる樣になつて來たことは喜ぶべき傾向の一であり又建國當時以來其儘に悠久變らざる山海の大景觀が鐵道開通に伴ひた易く都會の人々に紹介され其處に新興市街を生ぜんとするとき觀光立地計畫を要望するのも亦喜ぶべき傾向の一である。建築行政は此等の輿論と握手し以て計畫構築の指導に遺憾なからしめんが爲重大な役割を持つものである。

現在の建築行政の根幹は都市計畫の一半を分擔する市街地建築物法の施行を主とするものであるが、計畫立案者と建築行政機關との間は緊密なる連繫ありとするも尙稍もすれば立案機關は活社會と隔絶した境涯に陷り易く、現實の對照よりも寧ろ生ぢつかな學說等に捉はれ易い傾向を生じ建築行政機關は餘りに現實の應對に多忙の結果巧遲より寧ろ拙速を尊ぶ傾向を生ずる點に於て尙或る程度色彩を異にするものがある。計畫機關の中にも逸材があつてよく地方開發の指導に任じて居るところがあるのであるが若し又一市街の街路計畫立案のみに十年の日子を費すが如き凡そ世の進展と無關心なる消極退嬰者であるならば如何に立派な機構を持つても、又如何に理論が承服するものであつても活きた都市の器を設計することが出來ない況んや都市發展の指導者となすが如きことは思ひもよらないところであらう。

地方に於て都市計畫とは都市の街路を碁盤目型に設計することであると心得へしめ街路配置計畫以外に都市計畫の領域がないかの如き狹い認識を植付けて居ることについては折かくの都市計畫機關が從來餘りに活動せなかつた點に起因するところも少くはないと思ふ。又假に都市計畫が進まないとしても建築行政が進んで居つたならば或る程度現地の建築發展に即した指導を爲し得たであらう。

先す建築家の方面より工業立地計畫に就いて考ふるにこれは國策としての產業計畫經濟政策に基礎を求めねばならない。假に國家が或る化學工場を幾許必要とする企劃を成し得るならば之が分布配置につき全國に適地を求めなければならない。その爲には資材の生產地若くは入荷場所及製品の送附先との關連性を持つの外、國防上、生產企業上種々の附帶した問題が考慮の中に入れられる。建築行政は之に對して如何なる關連を持つかと云へば先づ第一に警察問題の考慮が爲される、附近住民との間に如何なる關係が發生するやの考慮がなされねばならない。かくの如く諸般の問題と建築警察との關係を考察するとき建築行政は單に一都市の區域內に設定されたる工業地域が之を解決し切れないこと及單なる都市計畫區域內の都市設計がよく滿足し得ないことを發見するのである。即ち都市の區域外に目を附ける必要が痛感される。區域外未開地に諸種の條件を滿足し得る適地があるとき地方計畫又は國土計畫と云つた都市計畫の外に權威ある計畫を求め化學工業經營の適地を定めて其處には化學工業を中心とした都市を發展せしむることを得るのである。然らずして一方では國策として化學工業發展を奬勵し一方では建設の適地を得る爲の摩擦が意外に

大なるものがある様な矛盾を繰返して其の調節に當るべき計畫を持たぬ様なことであつては國力の增進に少なからざる支障あることを考へねばならないのである。

又觀光立地計畫に就いて考ふるに俗塵にまみれた都市生活者をして大古の儘の日本の大自然に浸らしめ其處で身神の洗禮を爲さしむることは國家として最も必要なることの一つである。交通の便開け都市住民か未開の地に殺到するに從ひ景勝の地は矢鱈に都會の暗黑面を延長した様な生活環境たらしめ自然の恩惠を蹂躙せしむるに至る傾向かある國立公園の設置はかゝる憂を防止し得るとするも國立公園區域以外に尙同様の景觀を生かせて開發せなければならない場所が地方に幾多存在するのである。かゝる部面の開發計畫は相當の統制を要すること論を俟たない。此處に於ても國土計畫の道路ばかりでない綜合統制計畫を要望するものがある。

現今地方に於て都市計畫か未だ全機態を發揮して居らぬ狀態にあり乍ら地方計畫、國土計畫を要望することは理想に輪をかけるものとの誨りを逃がれまいとは思ふが都市計畫家にしても建築行政當局にしても眼界を國土計畫、地方計畫に向け得る餘裕なきに於ては正鵠なる仕事は爲し得ないと思ふ。

又建築行政に於て局部的の問題を捉へるならば或る場所を工業に與ふべきか風致保存に與ふべきか一建築に關する去就を決すべき問題にも遭遇する、都市計畫、國土計畫にも賴るべきものなき場合建築措置の適切を要求されるものがあることは見逃し得ないものである。

☆災害豫防對策と建築

20年目に一度訪れるか百年に一度訪れるか其の周期の定かならぬ颱風、地震等の巨大なる自然の暴威に對し現に改發されつゝある市街、聚落は何等かの考慮を拂ふものがあるかと云ふに大體に於てかゝる考慮をなさないのが定石の様である。或る土地に於ては市街地建築物法の規定に依り一區劃整理區域の地盤高を指定して津浪の害を避けんとする用意のなされて居るものもあるが、それは全地方より見れば極めて一小部分の災害豫防對策に過ぎない市街地建築物法適用區域外に於ては何等の注意もなされて居ないと云つてよいのである。

地震帶と津浪の屢ある聚落に關しかつて紀伊水道沿岸につき極めて粗雜乍ら調査を爲したことがあるがその中に一二注意すべきものある模様につき改めて多少綜合的な調査を爲し根本的災害豫防策を進める必要が生じて居るものがある。その對策として積極、消極各段のしかも諸般の安全性方法を取らなければなるまいと思ふが建築關係方面よりの對策として或は積極的に聚落移轉とするか消極的種々の對策を講ずるか等防浪林、防浪堤の施設以外幾多の方法が考へられねばならないと思ふ。

☆防空防火と建築

防空建築規則が地方の多くの都市に未だ適用に至らなかつたのは殘念なことである。こ

れは資材の關係に依るものであるが火災に對する我國の建築は最も遺憾の點を以つて居るのであつて防空にしても防火にしても建築の擔當すべき問題はかなり大きく且多年の一大問題として今に解決の燦光をも見出し得ないもの一つである。今や警防の訓練に於ては或る程度の進歩を認め得るに到つて居るが、尙今後に於て可燃燒都市を造成して行くことは日本文化の一大失態である。經濟と關連して防火都市造成の歩を進むることも建築に荷せられた業責と心得ねばならない。建築家の責務も此の方面に重大なるものがある。

都市の防火地區も餘り地方都市に進出して居らないことに就いても尙各般の條件と對照して省察考究の餘地を殘して居る。然し乍ら特殊の建築物に就いては稍々改革を見るに至つて居るのであつて都市全般に防火地區制を運用し又は防火改修を施す等に付其の實行方法が現在の經濟狀態と調和せしめ漸進的方途を講ずべき研究を大いに進める必要が痛感せられる。

☆住宅問題

時局下の住宅問題として現に大都市方面に擡頭し之が解決を焦眉の急とされて居るものは勞務者に對する住宅供給の問題であり之と關連して現に不急の建築抑制の爲建築統制を見るに至つて居るが地方に於ける多數の中小都市にはそれ程迄に住宅供給の問題は必迫して居らないものがある。然し乍ら國民保健の問題と關連して現在の中流以下の住居、及住宅街を見るとき其處に大きな住居改良の問題が潜んで居るのである。これは全國的に住居の文化水準を一歩向上せしめなければならない問題である。醫療施設、體育運動施設が最近著しく進歩整備を見つ一あるのであるが環境（廣い意味の住居）施設に就ては都市計畫地方計畫を基幹として改善を進めて行かねばならない。環境が如何に住民の健康に影響を及ぼし、其の精神生活に迄關係あるかは今更多言を要しないと思ふ。環境構築に關し建築行政が組織的計畫と指導を爲すに止まらず、特別の方法（會社の運用等）に依り奬勵の方法を講ずる迄に進展を要するものと考へられるのである。建築行政の最大の問題は住宅問題でないかと思はれる。

5. 地方に於ける建築行政の現狀

地方に於ける建築行政の現狀は六大都市を除いた以外の地方は略々大同小異である。亦六大都市を含んで見ても仕事の內容は大體一致して居るのであつて唯仕事の對照物が大小の差を以つて居るだけの違いである。建築行政とは云ふもの一助長行政は餘りに行はれて居らない。都市計畫と建築警察との二つの事項が行はれて居るに過ぎない。法律としては市街地建築物法を唯一の中心として居る。これに關連した現下の經濟統制事務の一部をも分擔して居るものである。

今和歌山縣に於ける建築關係法令の適用情況を簡單に示すときは大要左の表に示す通りの法規を有し其の事務は主として縣警察部が管轄して居る。專掌者としては警察部保安課に建築技師一、建築技手四、警察技手一、雇一の職員がこれに從事して居るのである。尤も

建築に關する統制、取締事項は年々增大しつゝある爲、之に從事する職員數は著しき不足を告げて居るのであつてこの少數の職員が如何に抱負を持ち勇氣を持ち亦精力を持つて居ればとて着々建築行政の效果を擧げて行くことは至難であることが容易に覗はれるのであつて假にも業績が上つて居るものがありとすればそれは縣民がよく協力して呉れたのに外ならない。建築關係業者の教養これ等組合の利用等が最大の能率を擧げて居るものであつて、市町村當局との協力連絡も亦能く行はれ、建築職員、警察官だけで仕事の出來て行くものでないことは申す迄もないのである。然し乍ら建築行政當局が何事にも積極的に亦指導的に働くのでなければ關係各方面の協力は到底得られないこと勿論である。

左表に揭げられた警察命令に包含されて居る建築關係規定には今日の建築文化に適はしからぬ非技術條項が多數あつて是等は除々に改正若くは整理されつゝあることを附言せねばならない。

☆ **市街地建築物法適用區域表**

適用都市	同上人口數	適用規定ノ範圍	都市計畫決定事項其他
和歌山市	約 19萬	全規定適用(防空建築規則ノミ未適用)	地域、幹線街路網決定、區劃整理地區六
新宮市	同 3萬	地域、建築線、高空地構造一部適用	未計畫
海南市	同 3萬	同上ノ外特殊建築物規則適用	未計畫
田邊町	同 3萬	同上	同上
筏島町	同 2萬	同上	未適用
瀨戶鉛山村	同 5千	同上	幹線街路網決定
高野口町、旭其村	同 1萬	同上	未計畫
那智町、勝浦町	同 1萬	同上	同上

☆**市街地建築物法以外の適用法令表**

イ 經濟統制關係のもの

臨時資金調整法第四條の二關係規定

輸出入品等に關する臨時措置法に基く建築關係規定

1. 木造建物建築統制規則
2. 鐵鋼工作物築造許可規則
3. 銅使用制限規則第2條關係

ロ 保安及衞生上の必要に基く地方警察命令

高層建物取締規程

工場取締規則

煙突火竈取締規則

石油取締規則

自動車運輸事業以外の自動車に依る運送事業規則施行細則

浴場及浴場營業取締規則

興行取締規則

映畵法施行細則

土木建築請負業取締規則

貸座敷營業取締規則

宿屋營業取締規則

料理屋及飮食店營業取締規則

形像取締規則

廣告物取締規則

水槽便所取締規則

胞衣產穢物取締規則

精神病者監護法施行細則

ハ　上記法令中に建築に關する事項を包含せるもの

工場危害豫防及衞生規則

工場附屬寄宿舍規則

土木建築工事場安全及衞生規則

壓縮瓦斯及液化瓦斯取締規則

鐵砲火藥類取締法令

診療所取締規則

齒科診療所取締規則

☆市街地建築物法適用概況

地域に關す規定の運用せられつゝあるのは和歌山都市計畫區域のみにして尙用途地域以外の制度は都市計畫決定事項未進捗の爲何等の施行を見られない。防火地區、美觀地區、空地地區、工業專用地區、住居專用地區及び都市計畫法に基く風致地區の如きも和歌山市には必要を感ぜられて居るものがある。用途地域に關し法令の運用には差して困難を感じないが、法令の精神により現行規定以外に爲すべき仕事が發見せられるものがある。即ち製材工業發展の爲適地集約の方策を講じ又、工業地域內特別地區の指定が無い爲化學工場の或る種のものには假令工業地域內に建設するものと雖も其處には周圍との關係上適、不適の便法を講ぜなければならない爲、法規以外に、建築警察を實施せざるを得ないものがある。

建築線の規定は全適用區域に於て、都市構築問題に關心を有するものから或る程度の賞讃を博しつゝある。稍々大きな火災の跡地には復興の先驅として多小纏つた建築線を指定し順調に復興を進めつゝあるものが二三區域あり。又天然紀念物保護の目的の爲に其の周

圍に建築線を指定したもの驛前の交通禍防止の爲に地主の意に反して建築線を指定したもの等の例外的な運用も爲しつゝある。これ等例外の强制的指定建築線に依る所有數整理の問題が殘されるのであるがこれは區劃整理組合の設立により解決せんとするものである。

街路造成の爲に建築線指定を强行して後日問題を起したもの二三の例があるが何れも當局が誠意を以て計畫し誠意を以つて解決に當る時解決せざる何ものもないことが分るものである。

高、空地採光等の規定適用に關しては市民の保健を强調しつゝ法の運用に臨みつゝあり構造に關する規定に關しては、主として地震風水害等の實例を背景として施行を爲つゝあるものである。

特殊建築物規則に該當する建物もぼつぼつ出來て居るが最近の經濟統制下に於て後を絶つに至つて居る。

新興溫泉地、新興觀光都市に於ては市町村當局の計畫を助成する方針を以て、法は運用されつゝあると云つてよいのである。

☆經濟統制規定及其の他警察取締規定實施狀況

經濟統制關係規定に基く主として資材使用制限及び幾多の警察取締規定實施狀況は嚴格に徹底して居るの一語に盡きる、これは田舍程徹底するものであることが一種の原理であるかの如き感を抱かせるものである。然し乍ら此處に地方の發展を抑制する限度については夫々土地の狀況に應じ、相當の彈力性を有する運用の必要が痛感せられる。產業を萎縮せしむる點なきや、生業に非道の壓迫を加へ陛下の赤子の生活原動脈を絶ち切るが如き結果を產まざるや、他に救濟の方途を考慮する必要なきや等當局者は充分の注意を要するところである。

☆建築指導に關する事項

災害豫防對策として家屋の構造缺陷を指摘し自發的改修を加へしめんとする目的のもとに時機に應じて一般に建築物構造に關する常識を普及すべき工作が爲されてゐる。防空對策の如き印制物を各種團體の手を通じて配布され、測候所其他自然科學部門の人士と協力して講演會を催す等普通木造建築災害豫防施設は次第に法規の適用地外にも浸潤しつつあることが見受けられるに至つて居る。建築向上を目指す團體を利用して災害のあつた際之が調査を爲さしめ、社會に注意すべき事項を發表するが如き、又新たに耐火木材が生產せられるに至つたことを周知せしむる爲燒夷彈を使用して耐火實驗を爲し之を一般に公開する等種々の方法が講ぜられるのであるが之は唯認識の增進に資する程度に過ぎないのであつて、更に具體化した建築指導が必要とされて居ると思はれるものである。

6. 關係業者の取締とその指導

☆請負業者の取締規定制定狀況

現在西日本に於ける多數の府縣には土木建築請負業取締規則が制定せられて居る。其の

規則の共通的内容は業者の就業につき警察の許可を要件として居ること及び警察取締に依り業者組合を強化せんとする點である。各府縣は夫々の規則につき如何なる程度の效果を擧げつゝあるや詳かでないが和歌山縣に於ける制定以來の業績を察するに警察としては可成厄介な規則であつて往々之が廢止を議せられた模樣である。然し乍ら一應業者の氏名は警察に登錄され知事の認可を得た組合が成立して居つたのであつたが最近の經濟統制下に入る迄は組合としても見るべき實績を擧げ得なかつた樣である。

☆各地請負業取締規則共通の缺陷

請負業取締規則が地方の警察命令として發令されて居ること、各府縣に於ける規則の內容が區々であること、制定されて居る地方と之の無い地方とあること等より規則そのものは一つの奇型的存在である。法律論に於てもその適否に就いて尙相當の議論はあらうと思はれる。筆者は地方建築界の現狀に照應して見て此處に些か批判を加へて見度いと思ふ。第一に此の種警察命令を以つて凡そ請負行爲を爲すものゝ總てを請負業者と見る「定義」に問題がある。又規則制定を要望した當時の請負業者なるものの內容は大體に於て大工事請負を業とするものを意味するものであつて、これ等請負業者には技術が無くとも資本さへあれば充分の資格あるものとされて居る者である。實社會の建築生產情態を見るに中小建築物の多くはかゝる純然たる請負業者の手になるものは極少數であつて大部分は技術若は勞力を資本とするものゝ手に爲されて居るのである。平たく云へば大工棟梁が多數の建築を事實上請負つて工作しつゝあるのである。此の大工は請負業者なりや、職工なりやと簡單に片附け得ないものがあるに拘らず純然たる請負業者の云ふ通り大工は請負業者に非ざるを以つて請負業者の仲間に容れることが出來ないとされて居るのである。現在に於て大請負業者と大工の如き小請負業者との間には利害の一致しない大きな隔たりがあるのである。大請負業者は無資本の請負業者を以つて請負の能力無しとし之等の請負行爲を禁止されんことを希望し請負業界の發達を企てゝ居るものであるが世間の小建築需要者は多く小請負業者に工事を依賴しつつあるの現狀である。此の間に處して請負制度を支配するが如き命令が各地方區々に出されて居るのであるから其處に幾多法規としての缺陷のあることは見逃し得ないものが存在するのである。

☆和歌山縣に於ける業者指導狀況

和歌山縣では請負業者取締規則實施に際し大工、左官手傳等の職を主とする業者は請負業者に包含されずとの見解に依り取扱はれて來た。請負業者は之に依つて大體既成請負業者結成の組合を維持し別段の問題も起らず今日に至つたのであるが其間當局に向つて要求する唯一の念願があつた。それは規則の中に組合加入强制條項の挿入にあつたのである。組合に加入せる以外の業者の營業を禁止する結果を來たす內容を含んで居る要求である。これに就いては當局に於て相當愼重の考慮を要する問題であつて小請負業者より職を奪ふ結果及他府縣業者進出阻止の弊其の他種々の點に影響あるを察して容易に此の要求を容れ

なかつたのである。

最近物資の統制は釘針金、其他建築重要資材に及ぶに至り業者間に新たなる問題が出現するに至つた。それは多年市街地建築物法普及を中心に發達して來た大工棟梁連中の組合に釘の配給の途がなかつたことであつた。之等の業者は小賣店より之を求めなければならない狀態に置かれた爲であつた。百方努力の結果漸く大工の組合に對しても配給の便法を講ずるに至り之に伴ひ縣としても大工棟梁の組合をも一請負業組合として之を認め業者も請負業者として取扱はるべく規則の改正を見、强制加入事項も加へらるゝに至つた。又改正規則は二以上の組合が在る場合之等を聯合した組合を組織せしめ相互の間に問題の生ずる憂を無くするに至つて居る。然し乍ら是等の措置は要するに地方的の一時の便法に過ぎないのであつて、全國的にはかかる地方の狀況を考慮に入れたる根本的指導對策を講ずる必要に迫られて居ることが痛感されるのである。

7. 建築行政の將來

☆建築文化事業の組織的指導

都市計畫、地方計畫、國土計畫、住宅問題、保健問題國民精神養育と環境との關係其他構築に關する事業は各般の問題と關連して發達せねばならないことを思ふとき建築は現狀の如き個々の建築發達をのみ念願として歐米の文化に追隨するだけでは滿足し得ないものがあることは前述の地方建築行政の現狀から察しても明かに觀取し得られる處である。現下の時局は防空建設と住宅供給を强く要求されて居り乍て次第に統制建設の發達を促すに至ることゝ思はれる。獨逸に於て試みられ農村建設事業の如き着想は日本にも取り入れ日本的發達を遂げしめる必要が痛感せられる。建築に關し組織的經營を爲す方面に關しては我が國の現狀は甚だ恥ずべき幼稚の狀態に在る。

その原因としては種々あらうと思はれるが從來建築技術は國力增進とは何等關係無く我が經濟力は建築に力を入れる餘裕を持たなかつたことを最大の理由とせねばなるまい。現在の建築技術者にしても個々の建築に關する事項だけが建築の範圍と心得、多くの行政部門に於ても建築技術者を入れて居る最大の事由は個々の建築に關する問題に遭遇することが多い爲技術者を併置して置くことが何かにつけて便宜であると云つた極く輕い要求のもとに置かれて居るもので所謂法律技術者程に重要視されては居らなかつた結果である。

又建築技術界は永年模倣と過去の追求のみに日を過して來て居る。氣魄に於て世界の指導者たるの慨を缺いて居つた。筆者の知る範圍に於て他の技術界を見渡すとき例へば造船技術、造兵技術、者は總て世界無敵の技術發達に邁進し其の覺悟に於ては軍人と何等變るところないことを承知して居る。又我が製紙事業の發達について見るも其の技術者の意氣込には實に敬服するものがある。其他目下躍進途上にある諸般の技術界は仲々偉大なる生長力を藏してゐる。建築界に於ても構造の點に於て賴もしい發達成長を見つゝあるものがあるが大體に於て他の技術に追隨し寧ろ後れて居ることは假に原因が周圍の狀況のみに

ありとしても尙自ら反省し自奮を要することは否めないと思ふ。然して筆者の云はんとするところは建築行政は更に一般建築技術界の不振よりも一層甚だしきものである事である

住宅問題にしても都市計畫にしても歐洲大戰後の産物である。今や我が國は滿支兩大陸の文化建設の大任を背負つて之を完遂しなければならない。建設の事業は物資統制下に於て既に開始せられて居るのである。文化建設事業の一面には構築事業も含んで居るのである。今後の構築事業は必ずや大局的見地に立つた計畫に基き組織的經營に依るのでなけれ大構築事業は失敗の誨りを後世に殘すであらう。

☆建築行政の刷新と其の進路

構築の組織的經營を指導するものは建築行政である。建築行政機構が現在都市計畫の一分派的存在である間は到底其の目的を達し得ないであらう。現在の都市計畫は建築行政中の一分課として今後一層發達せしむる要があるのであつて現に建築指導の衝にある者も建築技術者出身の都市計畫家も建築技術の定義が一個の建築技術に止まるが如き感念を一擲して大東亞建設事業の內構築技術は我々技術者の擔當せなければならないと心構へ現在の行政機構を見直して見なければならない。機構についても刷新を要する問題が幾多横はつて居るが餘り專門的の檢討は此處には割愛する。

唯讀者にして建築行政の將來に望みを嘱し捨石として建築行政の神たらんと志す者があるならば待遇地位を沒却して進んで建築行政に參劃せられんことを希望して矣まない。何れの部門もさうであるが特に建築行政部門に於て人材を要求して居る。

建築行政の機構はこれから建設されねばならないのである、それは當局者の努力も容易でないものがあるが建築界の指導を以つて任ずる民間の諸團體も之に協力せなければ出來ない仕事である。啓蒙運動の餘地も尙殘されて居るがも早や時勢は建設期に入つて居ると思ふ。甚だ抽象的文字のみを連ねて具體的方策を割愛した點を御詫びし擱筆したのであるが此の論旨に依り賢明なる讀者の研究に對する「ヒント」ともならば筆者の幸甚之に過ぐるものはないのである。

茶都（靜岡市）建設の根本策決る

靜岡市復興を目指し縣並に市當局では17日夜以來徹宵の協議を續け、更に18日午前10時縣當局の原案を中心に大要下の如き對策を練つた、即ち復興の根本眼目を飽くまでも近代防空耐火都市への再建に進み12間國道に沿つて幅員8間の幹線道路を縱横に設ける外更に今回の火災の如き大慘事に備へ3間幅の小道路を作り、靜岡市特有の袋小路を解消せしめる、更に今回の災害地の外廓7箇所に小公園式の綠地帶化を圖る、之と同時に防火水道の新設、市內廣場の擴張が擧げられてゐるがこの防火對策により當然靜岡市新市域の擴張が豫想されてゐる。（1.19報知）

建　築　家　と　建　築

遠　山　正　壽

光輝ある紀元2600年の春を迎えた今日靜かに座して過去を顧み又將來の見透をつけ樣とする時感慨又一入なるものがある。

過去數年前迄は此年を迎えるに國民擧つて壽ぐ爲には最も華々しい計畫を樹てたものであつた。其數々の計畫の中には東京に於ては萬國博覽會を開催する事が發表せられ其規模も曾つて見られざる大掛りなものとされ既に會場に建つ各種の建築物の概要も模型に依つて示され久しく沈滯して居た建築界に大きな刺戟を與へるんではないかと期待されて居た

又一方たまたま本年はオリンピツク大會の開催期に當り我代表の涙ぐましい努力に依つて幾多の有力な候補國を一蹴して我國に於ては最初の大會を招致する事に成功し期せずして此の二つの大きな事業が國民に輝やかしい喜びを一段と加へ其爲に各方面に於て夫に萬全の準備を整へ建築界に於ても着々設計に苦心を重ねつゝあつたと聞いて居る時圖らずも暴戾なる國民政府の政策は將に東洋平和の秩序を亂さんとし遂に盧溝橋事件に端を發して暴支應懲の戈を採らざるを得なくなつた。

最初の我方の事變不擴大方針も彼の反省する所とならず戰線は擴大し局地的の解決は全く不可能となり其後事變の推移は前途の見透しは豫測を許るさゞる情勢に立至つた爲に萬國博も一時中止となり又萬難を排して招致したオリンピツク大會の開催も他に讓る事となり豫定せられた記念事業は別の意味で事變下にふさはしい嚴肅な事業に置き變へられる事になつたのである。爲に建築界に於ても豫期してゐた華やかな企畫も一朝の夢と消えたとは云へ代つて幾多の問題を與へて呉れたが其中の二三を拾つて見度いと思ふ。

事變は今夏で滿3年を迎へ樣とし戰ひは長期の體制を取り日を重ねるに從つて我戰史上曾つて無い經濟戰となつて自由經濟から統制經濟へと進展して來た。

斯くして凡ゆる物資は物動計畫と生產力擴充の爲に心要な方面に向けられた結果平和產業の自由は抑制されて來るのは戰爭がかく長期に亘り又戰線も歐洲第一次戰の時よりも大である時かくなるのは當然でやむを得ない事である。建築に於ても生產力擴充の用に供せられるもの〻外鐵鋼銅の使用制限を始め近くは木造統制又は資金調整等に依つて統制を受ける事となり過去に於けるが如く資材を潤澤には得られなくなり制圖板の上で思ひの儘線を引きそれが實現する事は困難な時代となつた。鐵鋼の統制に依つて工事中の高層建築物は2階3階迄で打切られたり、無筋コンクリート造の事務所が出現したり曾つては夢想だもしなかつた現象が見られるのである。然し乍ら資材の不足に依つて建築が無くなつたと云ふ事では無く寧ろ反對に生產力擴充に伴ひ重工業方面は益々活潑になり工場の擴張に次ぐ擴張で其規模を大にし今迄名も知られなかつた工場が一躍堂々たる構へを以つて浮び上

つて來る例も少なくない。又都市に於ける工業の發展は當然人不足を來し必然的に地方へ人的資源を要求した結果都市に於ける人口集中は物凄い勢で上昇した爲に一二年前から各都市に於ける住宅難は可成深刻なもので殊に勞務者の住宅の拂底は今迄に發表せられたる各種の統計に依つても明かである。

次に現在の國際情勢は如何と云ふに既に第2次歐洲戰爭が起りつゝあり獨逸に對し英佛は共同戰線を張つて相對峙して居る。其れに周圍の大小國は其渦中に卷込れて將に爆發點に達せんとして居る。而も自國の利益の爲には主義主張も平然とかなぐり捨てゝ昨日の敵は今日の味方、我々日本人から見れば誠に亞然たるものがある。從つて將に複雜怪奇な情勢の中に興亞の大業を果さんとして居るのであるから思ひもよらぬ邪魔が入らぬとは誰が斷言し得やう。今日迄も支那を喰物にして來た他國の無謀な介入も嚴然たる態度で之を排除し來つたとは云へ不幸なる新事態が發生しないとは限らないのであつて決して油斷はならぬのである。それに備へて銃後に於ける國防の充實こそ望しいのであつて其爲に過般防空建築規則が施行せられ防護室に對する施設を要求し又木造建築物の防火に對し新たな規則が出來た。加ふるに重要都市に於ける空襲に備へて防火第一主義で進む可く木造建物防火改修事業が實施せられつゝある。

以上簡單に擧げ來つた諸問題は我々建築家に取つて將に一大試練である。

資材は自由に使用出來ない事は我々にとつて何よりも苦痛である。其苦痛の癒される日は未だ遠い許りでなく今後益々急迫するであらう。資材の不自由は耐へ忍べる丈忍び之の爲に建築界が停滯する事が無い樣に之を一大轉換期として明日への飛躍に備へる屈身であらねばならぬ。

住宅難の問題は各方面に依つて取り上げられて居る樣であり、其具體化の一つとして厚生省内に住宅に關し主務課が新設せられ萬全の策を取られる樣承つたが實際問題としては殊に勞務者住宅の拂底は怖る可きものがあり仕事は得ても住む家がないと言ふ保健上由々しい悲慘な事例を聞く時かゝる大きな問題は全建築家が協力して解決に全力を盡さねばならないのである。

最後に防空は先にも述べた通り一日も忽せには出來無い事であつて實際資材に不足を來す今日右から左へと運び兼ねる場合が多からうが之れとをも完成して都市防衛上完きを期し度いものである。

私は少年時代かの關東大震火災に會つたその日の夜近くの江戸見坂の上から下町一帶が文字通り火の海と化した光景を見たがあの夜の凄慘な情景を今でも想出すものである。若し空襲を受けたとしたならばあの樣に燒夷彈の雨に會つて一夜にして灰になるのではないかと思ふだに肌粟を生じる思ひである。

防火第一主義之は現在の樣に都市が木造で建設されてある以上捨てるわけには行かぬ事である。防空建築規則が出たからもう之れで良いと言ふのでは無い。資源が不足して居る

今日鐵筋コンクリート造の如きは望めないので木造に當分頼る外は無いのであるから之を少なくとも緩燃燒構造にする可く材料も施工も絶えず新しい構想に依つて研究される可きであらう。

要は我々建築技術に據る者としてこの時局下徒に拱手傍觀して居る時ではなく進んで聖戰に參加しなければならぬ諸問題を解決し技術報國の實を擧げる可である。過日多くの仲間を建築戰士として大陸の第一線に送つたが今後も多くの人々を送り出す事であらう。內に外に建築の分野は大きい。それ丈になさねばならぬ仕事は山積して居る。

以上くどくどしく述べ來つた事も究極は緊褌一番しつかりやらうぜと我々仲間に呼び掛けると同時に自分自身にも言つて聞せ度いからである。

——第8回・小住宅設計圖案・懸賞募集規定——

1. 設計の要旨

過般住宅難緩和策の一助として「木造建物建築統制規則」の發令を見、銳意小住宅建築への資材を確保すべく努められてゐるが、尙、小住宅一殊に殷賑工業地帶にありては急激なる膨脹により、その拂底のさま名狀し難きものありと聞く

この時にあたり、本會は銃後生活刷新の精神を體し今日この未曾有の住宅難に對處せんが爲、その設計を下記の如く汎く一般に募集す、その設計は、一戸建住宅もとより可なれどこの時局下にありては住宅難解決の資となるべき有力なる案の出づるを望むこと切なり

2. 應募設計要件

（イ）「木造建物建築統制規則」の適用を受くること勿論にして又、何れの地にありても市街地建築物法の適用を受くるものとす。

（ロ）敷地　その位置、大きさ、方位、道路、隣地との關係など任意に想定すべし（その狀況については設計說明の項に明記するを要す）

（ハ）建築坪數「木造建物建築統制規則」に依りて延坪100平方米以內なるも「京間」によりて設計せるものはその建築坪數をメートル數換算し明示するを要す

（ニ）所要室　任意とす

（ホ）樣式、材料、構造、任意とするも、創意工夫あるを望む、これにつきては設計說明の項においては適宜說明すべし

3. 所要圖面及び設計說明

（イ）平面圖　各階縮尺100分の1（北を上方になし、2階があればその位置を第1階平面圖に朱點線を以て示すべし）

（ロ）立面圖　2面以上（透視圖に表れざる側を含むものとす）

（ハ）透視圖　外部

（ニ）設計說明はその概要を簡明に圖面の餘白に記入すべし

4. 入選者の人數並に賞金

入選　3名　賞金　100圓宛

佳作　5名　賞金　50圓宛

但し入選作のうち審査會に於いて全員一致優秀なるものと認むるものには特賞を附す

5. 締切期日　昭和15年2月15日正午

6. 當選者發表　審査の結果は『住宅』4月號（昭和15年3月20日發行）に發表す

7. 審査員（ABC順）

大阪市役所營繕課長	工學士	富士岡重一氏
大阪府警察部建築課長	工學士	井上　新二氏
大林組設計部長兼住宅部長	工學士	今林彦太郎氏
神戸高等工業學校講師	工學博士	伊藤　正文氏
住宅改良會顧問	工學士	葛野壯一郎氏
京都帝國大學教授	工學博士	村田　治郎氏
三越住宅建築技師	工學士	岡田　孝明氏
及び		
住宅改良會主		西村辰次郎氏

8. 應募心得

（イ）圖面は大きさ天地50糎、左右70糎の白色畫用紙に鑿書し、陰影又は色彩を施すべからず、透視圖は此限にあらず

但し前記圖面は必ず1枚の用紙に納め、用紙は必ず上記寸法に切つてをくこと

（ロ）圖面には暗號を（文字に限る）右下隅に附し、別に暗號並に住所氏名、職業（勤務先共）を記せる紙片を密封し、封書の表面には前記暗記を記すべし

（ハ）審査の結果に對して說明を求め、又は異議を申し立つることを得す

（ニ）應募圖案に關する一切の權利は本會に歸屬するものとす

（ホ）應募圖案は一切之を還附せず

（ヘ）應募圖案發送先

大阪市西區土佐堀船町8番地

住宅改良會宛

以上

住　宅　改　良　會

建築家と都市構築

實崎　靖

目　次

前記
Ⅰ 緒言……
Ⅱ 支那事變と建築界……
Ⅲ 技術者運動の概見（展開期と技術者）……
Ⅳ 國土計畫と建築技術者……
1. 國土計畫の確立と都市構築機能の擴充……
2. 建築行政當面の改革問題と一般社會への期待……
Ⅴ 結語……

前記

建築家と都市構築なるテーマに於ては，種々なる觀察點が存するであらうが，筆者は「建築家は都市構築に如何に寄與すべきか?」と解する者である。從つて，實際としては，都市構築に於ける建築關係，乃至技術的に寄與すべき全般に亘り觀察するのが至當であるが，本稿に於ては，都市構築上の二大部面である，都市計畫と建築行政の分野のみを主とし考察するに留め，現下の展開期に於ける技術者共同の課題たる技術者運動に關しては之が概見を試みたのであるが，もとより淺學短才の若輩たる筆者に取つては，決して識者の注意を喚起し，或は指導的理念の下にする野望ではなく，平素の思考の一端を率直に記述したるに過ぎず，從つて理路徹せず，文も亦體を成さざるの點多々ありと思はれる，此點特に識者先輩諸彥の寬大なる諒恕と御叱正を賜はば筆者の最も幸甚と感謝する處である。

Ⅰ 緒言

肇國の精神に淵源する興亞維新の聖業支那事變は，已に三度の新年を迎へた，時恰も，皇紀2600年，悠久神國日本の揮ふ破邪顯正の利劍は益々冴え，翼す東亞新秩序建設の鴻業は，着々其の成果を收め，人類史上に一大エポツクを劃する世紀の大業も愈々其の結實への動向を見，之が曙光の展示されんとする一面，歐洲に於ては之亦第二次大戰が勃發し，怪奇の限りを極めつゝ長期大戰へ轉移しつゝあり。然し乍ら我國の目指すは，八紘一宇の大精神を世界に宣揚し，宇內萬邦の協和，眞正永遠の和平確立にあり，彼等の戰爭目的とは根本に於て其の性質を異にするは今更述ぶる迄もないことである。而して我等は今度こそ彼等の狡智なる術中に陷らざるよう嚴戒裡に，一路興亞維新の完遂に邁進すべきである。現下の事態こそ將に東亞興隆の好機と云ふべく，建國2600年を意義づける可く，全國民は更に一層勇奮，新たなる自覺の下に緊褌一番すべき秋であらう。

Ⅱ 支那事變と建築界

顧つて我國建築界の趨勢を見るに，今次支那事變の影響を蒙ること蓋し深刻なるものがあり，正しく大洋の小舟にも例ふるを得べく，激浪の强烈さを惟はしむるのである。事變の進展に伴ひ累次發動を見た各種統制法の如きは電擊をさへ感じしめるものがある。

然し乍ら我々は如何なる統制も、苦難も、國策に準據するものなれば進んで甘受すべく今日に至つてゐるのであるが、茲に建築技術者として嚴に警戒を要すべきは、建築家の過去に於て體得した諸種の環境は、果して之でよいのであらうか、と言ふ反省であると同時に、國家の眞に要求する建築家とは、如何なる精神的要素と實質とを具有すべきであるか？との解答を見出すにあると思ふ。而して之は建築家自身、汎く工業界に於ける建築及建築家の地位を歴史的に觀察すると共に、國家的見地に立脚し、實證的に將又良心的に具さに省察するの精神的要素が、積極的な熱情化することが望ましく、且時局の透徹した認識に基くものでなければならない。之は同時に、大局を成生せしむる爲め、眼先の小局に拘泥せざることが結果せらるゝことをも冀求されねばならないのである。

而して前者は即座に、衆口一致して（眞實のところ或は同髪具眼の士と云ふのが適切かも知れない）現狀不可を力說し革新の動向として、國家は技術者を尊重し、單に國策遂行への一手段としてでなく、須く之が企劃に參與せしむべし、と云ふにあるは多言を要せずして明かであらう。然らば國家は技術者のかゝる愛國的情熱に應ふるに幾何の手段を講じ與ふるに如何なる地位を以つてし、或は又痛すに如何程の輿論を以てなしたであらうか？今試みに今次事變に連續的發布を見た諸種の統制法に徴するに、多くの技術的內容を有する法の制定にも拘らず、技術者は果して幾何參劃したであらうか、之は卑近な一例である。が然し乍ら事務官僚の適正と稱する之等の統制法は、現代の技術界（建築界）を左右する重點であり、其の浮沈に關係するところ甚だ多大である。技術者は之がお先棒擔ぎに夙夜汗だくの爲體（ていたらく）であると云ふのでは餘りにも悲慘ではないであらうか。固より之等統制規則の全部が惡いと云ふのでは決してないが、苟も技術者なるものが存在する限り、之が技術を國家的に活用すべきが至當であると信ずる。

斯る現狀であつて見れば、技術者としては聲を大にして各階層に呼びかくるは當然の理ではあらうが、只單に〃呼びかけ〃でなく、兩者共に技術活用の環境を成生せしむるに肝要な方途を講ずべきであると思はれる。

III　技術者運動の概見（展開期と技術者）

本稿に於て技術者運動を論ずることはもとより本旨ではないが、現在及將來の都市構築には、本運動に冀求し之が成果を期待するところ實に甚大である關係上、若干之にふれた次第である。

口に革新を叫び、技術乃至は科學の國家總力戰に於ける重要役割は之を痛感し乍ら、加之法科萬能の弊である政治的、經濟的（產業的）社會的、文化的、思想的等々各般の行詰りは如實に體得しつゝ尙且つ意慾的、獨善的に之を墨守し、依然として舊套を脫しきれないのが今日の大勢にして、誤れるも亦甚だしいと言はねばならない。

前述の如く國家は技術者（或は科學者）は、單に國家目的に對する一個の道具乃至は機械的認識の下に、之を遇するを以て足れりとなすものであらうか、國家の眞に欲求する技

術者（或は科學者）は斯様なものであらうか？彼の第一次歐洲大戰に於ける科學獨逸の偉大なる力を育成せる環境は、聖戰已に三年、全國力を擧げて興亞維新に驀進する我日本の採つて以て範とすべきではなからうか、「ルーデンドルフの國家總力戰」は我々に如何なる教訓を與えたであらうか。

轉じて、今我々の眼前に展示され、又されつゝあるところの技術者運動と、之が成果を省察するならば、近年に於ける技術者運動には種々の團體が様々の方法で、所謂技術者の向上を目指して、夫々活動してゐるが、あらゆる分野を包含し且全國的に組織を有し強固なる地盤に立つ團體は未だ成立を見ざるもののようである。現在技術界に於て相當の勢力を有する日本技術協會が、純然たる運動團體であるか否かわ筆者の測り知るところではないが、先づ此の團體には世人の期待するものが可成りあるのではあるまいかと思はれる。

又、本運動（或は之に副ふものとして）の一方の代表的事例を擧ぐれば、客夏「公明遠大なる綜合的技術の立場より高度產業國家としての新體制と之に基く產業國策の樹立實現を圖り官民一體以て新東亞建設の世界的使命達成」を期すべく邁進の意志表示をなすところのあつた產業技術聯盟があるが、社會的には單に技術の水平運動と看做されたか、或は該運動の手段方法を誤りたるか、或は又實踐力の不足に基因せるか、此の理由は暫く措くが、本聯盟に限らず凡そ技術者運動程、强靱性を缺ぐものはあるまいと思はれる。技術聯盟の意志表示の如きは、世の識者と技術家の注意を喚起するに好個の事例であるに拘らず反響は甚だ乏しく又永續性もなきものゝ如く感ぜらるゝのである。

然らば技術乃至科學陣營の國家的現況及該運動不振の原因は果して奈邊に存するであらうか？以下之が原因の主なるものを總括的に列擧すれば次の通りである。

1. 技術者（科學者）自身即ち各個人
2. 爲政者、指導階級
3. 國家機構、教育の根本的缺陷
4. 技術の國家的指導原理の缺如、從つて綜合的技術國策の確立し居らざること（技術の計畫化を意味する）
5. 運動團體組織の根本的缺陷、
6. 其の他

等々であるが、然し乍ら不振の原因が深刻且つ多角的であつて、之が運動の過程に於て如何に錯綜を極め、又難航を極むるとしても、目的達成の爲には先ず斯かる禍根の一掃に邁進しなければならない。其の責めが奈邊にありとしても、今日となつては詮方のないことである。徒らに過去を追求するの愚を捨つる可きであらう。

而して目下のところ他力に依るは到底不可能事なるが故に、結局は技術者（科學者）自身の現在及將來に課せられたる命題であると思はれる。（もとより時代の力及其の他を決して忽諸に附してはならない）。

他を責むるに急にして、之に資する代案を用意せざるは賞むべきことではない、從つて前揭各項目に亘り科學的研究をなすことが目下の急務であると同時に、（何時迄も研究々々と言ふのが能事ではないが要するに程度問題である）應急的對策を考究し速に實行に移すべきである。

即ち當面の諸問題として擧げ得るものは概ね次の如くである。

1. 運動團體は既成團體を擴充强化するか、之を統合するか或は新團體を組織するか、を決定する。
2. 團體構成の各階層の自覺を促すに必要なる方法を講ずる、此の自覺とは「展開期に處する技術者の大使命を植え附ける」にありて一種の啓蒙運動である、（下級技術者を指すのではなく各階級である。）
3. 團體の組織は全技術部門を網羅し且つ各階級に迄徹底的に加入せしむる方法を講ずる。之は理想であつて、次善を選擇する場合もあり得る。
4. 指導原理を究明し、之を全會員及廣く一般社會に提示する、同時に技術教育をも含む技術の計畫化を圖る、之には言語に表現し得ざる（其の仕組になつてゐるが）思想的な矛盾に基因する小兒病的鬪爭及同觀念の迷夢を斷乎一擲し、過去を清算するていの大乘的なものでなければ、凡百の理論も無駄である。或は之が核心的な團體組織の要素であるかも知れない。
5. 團體は云ふ迄もなく細胞組織に着意し、之が機能の强化を重點として結成されねばならない。
6. 其の他種々あるであらうが、要は“足下を堅めて然る後の問題”である。

註、技術の國家的指導原理の確立と之が計畫化は匆々忙中の裡によくものし得るものではなく又凡庸の及ぶところでもない、輕々に扱ふ可きではない、宜しく熟考の上他日を期したい。

IV 國土計畫と建築技術者

1 國土計畫の確立と都市構築機能の擴充

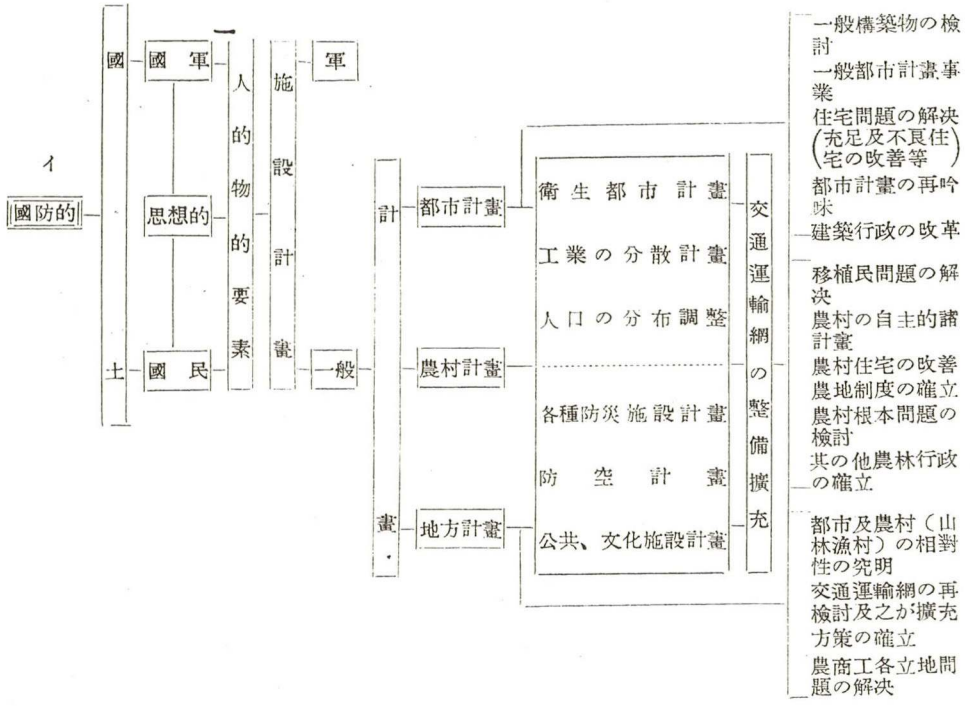
彼のヨーロツパに於ける文藝復興期は、凡ゆる近代文化の黎明であるが、文藝復興以後に於ける異常なる科學文明の發達に伴ひ、都市人口は增加し、從つて都市集積の現社會機構組成の要因となり、而して「都市計畫」なる一分科を必要とするに至つたのであるが、我國に於ける現代都市計畫も亦海外のそれを攝取し、以つて今日に及んだものである。而して、晩近都市計畫の動向として注目すべきは、從來の都市計畫の概念より一步否數步を進め、都市周邊の近郊計畫及農村計畫（農、山林、漁村の凡てを含む）をも包含した、所謂「地方計畫」に移行し、更に國土計畫への飛躍しつゝあるかの如き感を與へ、殊に今次支那事變の進展に伴ひ、國土計畫の如きは漸く論議の焦點となれる——かの傾向が看取されるに至つたことは、遲まき乍ら、從來の一方的既成都市改造計畫の思潮より、一段と高度化されたものであつて、洵に喜ばしきことであるといはねばならない。

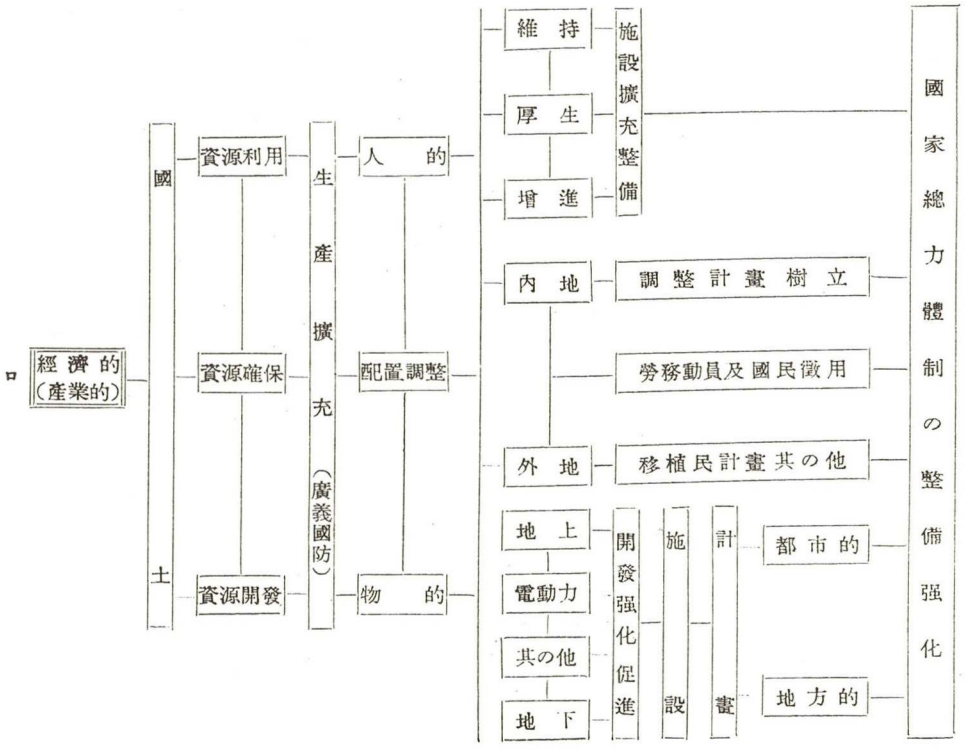
筆者は茲に、國土計畫に關し詳細論ずる餘裕をもたないが、以下建築技術者の立場より現在及將來に於ける國土計畫の技術的部面に關し、若干考察を試みるものであるが、之が爲には、先づ從來の足跡を各般に亘り具さに省察し、然る後之に論及すべきが順序ではあるが、此の點は後日の機會に讓りこゝでは極めて概略を見るに留めた。

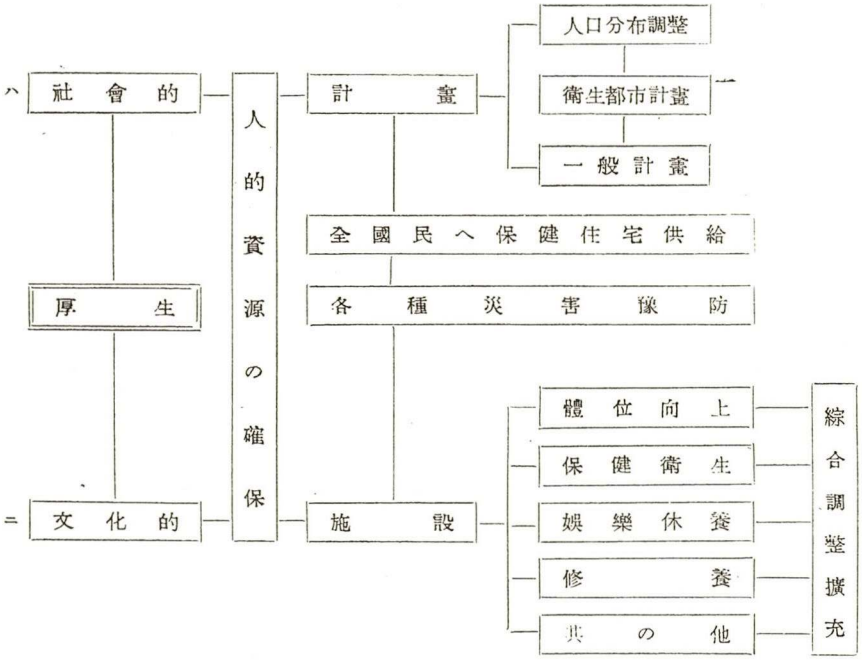
抑〻國土計畫なるものは肇國の當初より存すべき筈のものであるといへる。何故なれば國土計畫は國策の根幹をなすものであり、凡ゆる國策は之に基き樹立さるべき筋合のものであるからである。然るに現實は之と遠く遊離し、各分野勝手な主張のもとに諸種の計畫樹立に對處せるが爲、現今社會情勢に見るが如き幾多の矛盾を生じ、之が行詰りを招來するに至つたのであり蓋し當然の結果であるといはねばならない。即ち最も端的といふならば、現在の都市行政、農村行政の如きがそれである。都市は自個の繁榮のみを翼ひ、農村は凡ゆる壓迫に耐へかね克く獨立を保ち得ずして都市に併呑されるもの、或は近村合併等の手段に依り漸く更生（眞の更生ではなく）の途を講ずるもの、或は又現狀を糊塗しつゝ喘ぎ乍ら一方如何にして延びんかを考へる、といふ有樣で、共に兩者の不可分性及近隣市町村との有機的關聯並に互惠協同の方途は之を究むることなく、偏に個人主義的利己的觀念にとらはれ、他の蒙むる禍は知らず只管自己の成長をのみ希ひ終始鬪爭に專念せるが爲に畢竟共倒れに歸着するに至れるものであることは極めて明白な事實である。國家無くして個人無きに等しく、國家無き所都市も農村も成立しないではないか。都市計畫の過去が種々の意味に於て脆弱であつた理由も亦こゝに存する。即ち國土計畫の背景を有しなかつたことに原因するのである。

斯の如く國土計畫確立の急務であることは、現下諸般の情勢が之を證して餘りあるであらう。然らば此の國土計畫とは一體如何なる計畫を目標とし、之が實質の內容を具備すべきものであるかといふに、私見を以てすれば、國土計畫は「國土に對し、國家の保全を確保し、國民生活の向上發展を期するに必要な綜合的計畫」であると思考する。故に國防的經濟的、產業的、社會的、文化的等の觀點より、興亞維新の大計に即應し得べく、之を科學的に綜合的に計畫するのが本國土計畫の指標となるのである。從つて日滿支を打つて一丸とする新東亞體制に準據するは勿論である。而して之が具體的內容は圖表に示す如く頗る廣汎多岐にして複雜な性質を有するものであるが、先づ着手せらるべき當面の問題は之が計畫機關の創設と全國土の合理的利用開發計畫を綜合的に樹立するに必要な法制の整備である。（機構よりも〃人〃であるとか或は運用の妙を期すれば足りる、となす說は國土計畫の場合は成立しない。現制度の如き一方的な一都市のみの計畫機關では到底要をなし得ないのである）然し乍ら機構改革には先例にも明かな如く幾多の障害を伴ひ、一朝一夕には達せらるべくもないが、さりとて現制度の存續は之を國家的に見て眞に重大問題である。故に此際斷乎として之が目的を貫徹すべく官民の決意を要望せざるを得ないのである。

國土計畫の內容


イ
國防的
國土
國軍
思想的
國民
人的物的要素
施設計畫
軍
一般
計畫
都市計畫
農村計畫
地方計畫
衛生都市計畫
工業の分散計畫
人口の分布調整
各種防災施設計畫
防空計畫
公共、文化施設計畫
交通運輸網の整備擴充
一般構築物の檢討
一般都市計畫事業
住宅問題の解決（充足及不良住宅の改善等）
都市計畫の再吟味
建築行政の改革
移植民問題の解決
農村の自主的諸計畫
農村住宅の改善
農地制度の確立
農村根本問題の檢討
其の他農林行政の確立
都市及農村（山林漁村）の相對性の究明
交通運輸網の再檢討及之が擴充方策の確立
農商工各立地問題の解決


ロ
經濟的（產業的）
國土
資源利用
資源確保
資源開發
生產擴充（廣義國防）
人的
配置調整
物的
維持
厚生
增進
施設擴充整備
內地
外地
調整計畫樹立
勞務動員及國民徵用
移植民計畫其の他
地上
電動力
其の他
地下
開發強化促進
施設
計畫
都市的
地方的
國家總力體制の整備強化



農村問題の根本的改革即ち眞の農村救治策は、大陸への大量的移集團植民が前提條件であると叫ばれ（國防的にも）、一方都市問題は累積し、（都市計畫は貧弱な機能になやみ建築行政又行詰りの不振をかこち、時局の重壓は防空の完璧を望む等々頗る多事である）加之行政機構の不徹底に基く各分野の對立は、徒らに國力を費消するの現狀にあり乍ら、何等の對策を講ずることなく拱手傍觀、能事終れりとなすか？字義通り國歩艱難にして國力の培養を要する今日、進んで百年の大計を樹立するか、將又退いて現狀を糊塗するか？理は自から明白であらう。

次に國土計畫機關として比較的容易に實現性のある一案を示せば次の通りである。

即ち、現在の內務省計畫局を擴充强化し、之を同省の外局程度とするか、或は此の計畫局を主流として、之に厚生、農林、商工の各省の一部及企劃院、興亞院の各一部を合し內閣所屬の下に「國土計畫院」（假稱）を創設するか、此の二者何れを選ぶかである。後者の程度とするには相當の支障を覺悟せねばならないが、之でも國土計畫機關の理想には尙可成りの距離あるを認めねばならない。故に先づ此の程度として置くのが實際的であると思はれる。而して後者を選ぶとすれば、之が構成は如何にするかが問題となるが、概ね次の如きものが考へられる。即ち本院の他に全國を關東、近畿、九州、四國、中國、中部、東北、北海道及樺太の9ブロツクに大別し、夫々「地方計畫局」（假稱）を置く。（之は止むを得ない事情があれば當分の間該ブロツク內の現都市計畫委員會のみで構成する）本院及地方計畫局共に技術、經濟、調査、總務の各部を設置する。本院は全國土の綜合計畫を樹立し、之が指導下に各地方計畫局は管下の都市計畫、農村計畫、地方計畫に當る。而し

て本院には各省並に興亞院、企劃院及內閣諸局との連絡委員會を置き專門諸門兩委員會は夫々に設置する。

以上は計畫機關の大體であるが、更に此の機構改革と同時に技術者（計畫技術）の養成方法をも考慮されねばならないが、之は學校教育の根本的改革への一步を意味するのであつて、現在の都市計畫部面に見る如き、建築、土木、公園、整地等獨立の方法を採らず「計畫技術」なる一分科とし尙現制度の工學、農學、及經濟の各學部の一部を合しこゝに綜合的な「計畫學部」（假稱）を新設するのである。而して之に計畫技術、建築學、土木工學、經營學及農政學の各學科を置く。（專門學校に於ては概ね之に準じて制定する）茲に問題となるのは、建築學及土木工學の兩科を何故「計畫學部」に屬せしめたかであるが之は兩學科の有する國土計畫との關聯性に鑑み、工學部に屬するより遙に有意義であるからである。

2 建築行政當面の改革問題と一般社會への期待

現今の建築行政に於ても亦根本的改革の成さるべきは固より望ましいことであるが、容易に改革の曙光を見出すに困難な我國の實狀に於ては、之が早急な實現は期待し得べくもない。然し乍ら內外諸般の情勢は都市構築をして一日とて晏如たるを嚴に戒めてゐる實狀にあるから、可及的速に之が實施の段階に至るべく、官民の協同と努力を求むる方策を講じ根本的改革を期すると同時に、先づ現下の事態に對處するに必要な最少限度及比較的實限性のある當面の問題より刷新の方途を發見し、之が實施に邁進すべきであると考へる。

建築行政改革の方途を發見するには、何故に現在の如き行詰りを招來するに至れるかを究明することが先づ問題である。之は社會機構、技術國策等の根本的缺陷の誤謬を指摘せねばならないが、同時に建築行政の出發點に於て、監督（取締）行政たるか、或は指導行政たるべきかの指針を明示せず、何れとも似つかぬ跛行的取締行政に終始し、以つて今日に及んだ。換言すれば建築行政をして都市計畫的に取扱はざるのみならず、之に協力せしめざるに基因し、更に建築行政自體の所謂環境の不備が今日の不振を招依せるに至れること、即ち之である。而して此の微溫的取締行政の各方面に及ぼせる惡影響は蓋し甚大なるものがあるであらう。

然らば建築行政不振の主因が此の出發的に包藏されて居り、從つて之を軸として諸種の惡影響の種子が派生的に生じたものであるとすれば、之が革新の方向は自ら明かとなるであらう。即ち先づ現在の取締方針を破棄し純然たる指導行政に變革し、且つ之に若干の取締りの意義を附加すれば可なり。從來の警察行政の如き取締觀念より飛躍したる新たな〝指導精神〟を基調とし、國土計畫に立脚する都市構築に對處せば、こゝに始めて建築技術的寄與を庶幾し得るであらう。

斯くて第二段の問題となる行政の運營部面を革新しなければならない。之には機構の改革をも伴ふことは當然である。換言すれば建築行政に從事する技術者に對し、指導行政に

十二分の眞價を發揮し得る環境を附與することである。即ち

イ、時間の餘裕を與へ、各自所管の造營物に對し十分なる認識を持ち（都市計畫的、建築經營上及建築學上）且つ之を指導し得る識見能力を具有せしめる。

ロ、之が爲に各係各個人間は固より、相互の圓滿なる聯繫協同を圖り、或は調査研究に或は指導に切磋琢磨し、得る環境を成生し加之精神の陶冶及技術的再訓練を圖り、（假之鍛錬道場や技術講座の開設或は共同研究等の如き）機構をも改革する。現狀の永續は絶對に禁物である。斯くすることにより「仕事に對する倦怠」といふ斯界の潜在意識を消失せしめ陰鬱にして退嬰的な氣風（所謂吏道）を刷新する。

ハ、安んじて（轉じて積極的に）現職に孜々勉勵し得る如く生活環境を改善充實し〝うるほい〟を與へねばならない。之が爲には斯界のみならず國家的技術活用の見地より人員人材の配置に再檢討を加へ、且つ幾多の矛盾と苦難に喘ぐ下級一般技術者の合理的待遇改善及圓滑なる人事の交流竝之が登用を企圖し、着々實踐に移すことである。此の事柄は「人事が停滯すれば腐敗す」の鐵則に準據し、年限や分野の如き凡て中庸を眼目とすべきはいふ迄もない。斯くすることは只單に建築行政の部面のみならず、苟くも建築技術者を必要とする分野全般に亘り考慮されねばならない。（之は手取早い方法として有名無實の訓示政治や凡百の科白に勝る）

ニ、技術の細分化及事務（技術的、事務的）の簡易化を圖る。即ち技術的、事務的區分及限界性を明確にし且つ技術内容を細分化するのである。

繁雜な事務的處理事項は之が取扱ひの專門家を入れる。（筆者の見るところ某大都市の如きに於ても數人で結構である）而して技術者は細分化されたる夫々の職能に應じ技術に專念せしめるのである。現在のように新人、中堅、古老等しく十年一日の如き同一内容のみでは退歩は免れず、從つて種々の餘弊を生ずる一因をなすに至るのである。（細分化の爲には、新進氣鋭の少壯技術家の採用及「屋員制」等の方法も併せ考慮せらるべきである。

ホ、幹部養成機關の創設

官吏制度の缺陷として宣傳さるゝ、官學（所謂官製の謂である）の萬能、學歴の過大評價及門戸閉鎖等は我國封建制度の遺風であつて、今日尚改革を見ざる理由には種々あるであらうが、之が究明はとも角として現在の如く官公立にして、且つ上級の學校教育を受けた者が良く、他はこれに劣る——では、大衆は苦だ以つて迷惑（？）とし遺憾至極となすであらうし、從つて必然的に國家も亦多大の損失（有形無形の）を蒙むるのである。本機關の創設は我國教育制度の根本である學校教育及學校經營の問題に觸れて來るが、茲では之と別個に取扱はねばならない止むを得ざる現狀であるから、從つて機關の内容も先づ次のような程度となる。

眼目＝A、人材登用、簡拔（所謂俗稱〝萬年技手〟の打破）

B、從つて全般的レベルは自然的に向上する。

C、人材の逃避を防ぐ。

D、大衆に〃夢〃を與ふ。（夢なき人生は墓場に等しいであらう）

機關の構成

A、教育要員は全國から選拔し、約20名程度とする。特に人物の選定に考慮を拂ふ。

B、每年1回、概ね3～6ヶ月間東亦に於て開講する。

C、講義內容は前述の國土計畫を主とする。

D、本機關に要する一切の經費は國庫より支出する。

E、本部は當分の間內務省計畫局內に置く。

ヘ、可及的都市計畫への協力を期する。

最少限度としても住宅問題の解決及各種災害豫防に積極的企圖を有し然る可きであると思ふ。（此の兩問題解決の擔當者は果して誰か？國家の技術者に期待するところ多大である）

前述の事項は概ね對內的な問題であるが如何に內面的充實を期しても多くは一方的に終り、都市構築究極の成果は得られないのであるからして、同時に對外的工作を忽せにしてはならない。而して先づ問題となるのは次の如きものである。

イ、代書、人制度そのものゝ再檢討を圖るべきで若し止むを得ざる存在とすれば特に之が內容の充實を期すべく方策を講ぜねばならないであらう。

ロ、民間業者、勞務者及他の技術部面をも含む一般社會への協力を期待し得べき方法を考究する。

以上概說を試みた指導行政への飛躍は、諸種の戰時統制規則の發動に基く事務の煩瑣及技術者の拂底等に依る能率の低下せる現狀竝一般社會の斯界に對する態度等を理由として斯くの如き改革は期待し得ない ——とする說も成立たないとは保し難いが、筆者の觀察ではそれは全然杞憂に屬することではないかと思はれるのである。何故かなれば之は、國民の確固たる精神力を以つて斷行すれば、或る程度迄の事柄は解決出來得るのではないであらうか。人生は眞、善、美の探求であり、人間は全智全能を傾注する目的の對象物が存する限り、不思議な靈能を發揮するものである。從つて斯の目的の對象が非常時國家の要求する、技術の最高能力の發揚具現及之に對する協力——である場合に於ては、更に强烈な愛國の熱情へと飛躍するに至るであらう。又夫々のポストを與ふれば人は相當の能力を發揮するものであることは史實に徵す迄もなく明かである。（勿論場所と人にも依り程度問題ではあるが）從つて〃統率學〃に於ける人間の心理現象の應用に加ふるに、前記諸項目の漸進的改革を以つてすれば、勞力の不足、時間の經濟等の問題は比較的容易に解決し得べきものと信ずるのである。要するに熱意の問題であるといへよう。

V、結　言

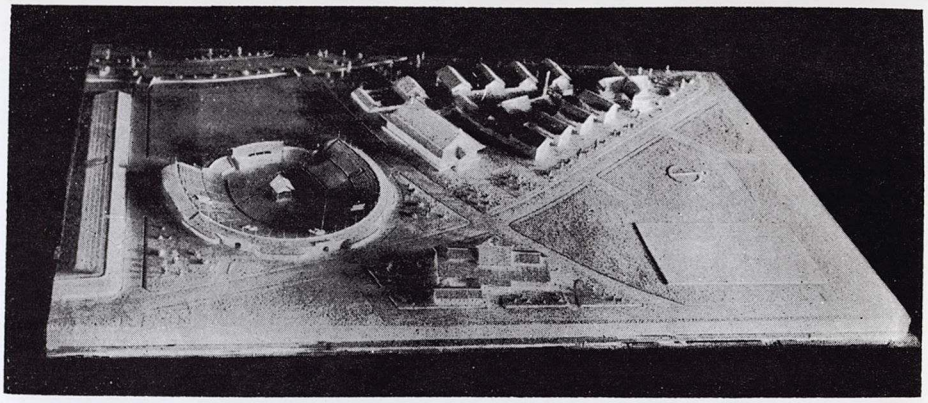
「建築家と都市構築」の題下には語るべき尚多くがある。又本稿の主要眼目である「國土計畫に立脚した都市構築」に於ても僅かに觀察したに過ぎないが、要は、建築界は可及的速に現狀を離脫し精神的にも將又社會的にも新生面を開拓すべきであり、而して之は自主的、積極的なものでなければならないと思はれる。斯くすることが即ち、啻に建築界のみならず國家社會に貢獻する所以でありはすまいかと信じ、をこがましくも私案の一端を茲に披瀝、先輩諸彦の御高評に供する者である。筆者は徒らに急進的改案を企圖するものにはあらず、與へられたる自己の職務を通じて奉公の至誠を致さんとする餘情に外ならず、若輩未だ先賢の辛苦を辨へざるの恐れあるやを思ふ、茲に先輩諸彦の御叱正を乞ふ所以、幸ひ本論の長短取捨御高評を賜はゞ、筆者望外の餘榮と致すものであります。

大阪驛前地下道の完成迫る

1日100萬の人が動く梅田附近は文字通り交通地獄樣相を描き盡く飽和狀態を呈して來たので大阪市では驛本屋の建築、驛前整理と相まつて昭和8年以來總工費500萬圓を投じ一大地下街計畫を樹て綱の目の樣に縱橫に地下道を堀り廻らして物凄い交通量を緩和すべく鋭意工を進めてゐたが工事は豫定通り進捗今夏までには延3300坪に達する一大地下道が完成、省線、阪急、阪神兩電鐵、市電、バス、地下鐵など一點に集中する商都の大玄關附近の交通地獄は一氣に解消することになつた。即ち東は阪急、阪神、地下鐵を結ぶ地點から現在の市電軌道の下を通つて阪神西口に至る高さ230米、幅4間、全長300米に及ぶ豪華地下道は既にお化粧を待つだけとなり大阪驛中央に通ずる幅6間、同東西兩入口に通ずる各幅3間の3本の南北地下道、阪急並に新阪神に跨がる600坪の地下廣場及びこれに附隨する地下街入口10數ケ所も8分通り出來上つて何れも今夏8月頃には完成の運びとなつた第1期計畫の地下街は總坪數3300坪に及び感じのよいタイルを張り完成の上は地下の一大豪華殿堂となる筈で此東西南北を結ぶ地下道の利用によつて東は阪急、阪神から大阪驛東口、中央、西口の三入口、阪神西口は完全に地下で連絡され歩行者は一切地上橫斷を許されない事になる。

尚市では更に驛前交通整理の完璧を期する爲この地下街の大擴張計畫を樹て15年度以降3年繼續事業として工費300萬圓を投じ東は曾根崎署南は阪神ビル豫定地北は阪急を結ぶ地下に總延坪2700坪東洋一を誇る地下廣場の建設に着工することになつて居り、この第二期計畫が完成すれば南北線はじめ御堂筋、扇町、天六の各線から大阪驛に集中する市電、バス、省及省線阪急、阪神電鐵の乘降客は悉く路面に開く連絡口から地下廣場を利用する安全連絡が出來、歩行者は全部地下道を利用することゝなるので地上はロータリー式交通整理で市電、バス其他の交通機關は悉く無信號整理が可能となり現在の交通地獄は一變して最も安全な交叉點とさへなり現在の如く市電、バス、等10數輛が立往生するやうな風景も消えてしまふわけで驛附近の交通は全く面目を一新することになつた。

しかもこの地下街は一朝有事の際には一大防空壕と化し市民の生命を護る重要役割を果すことにもなるものでその完成が待たれてゐる。



橿原道場模型
野外公堂中央の相撲場は移動式でこゝにバスケットバレー其他の競技が行はれる

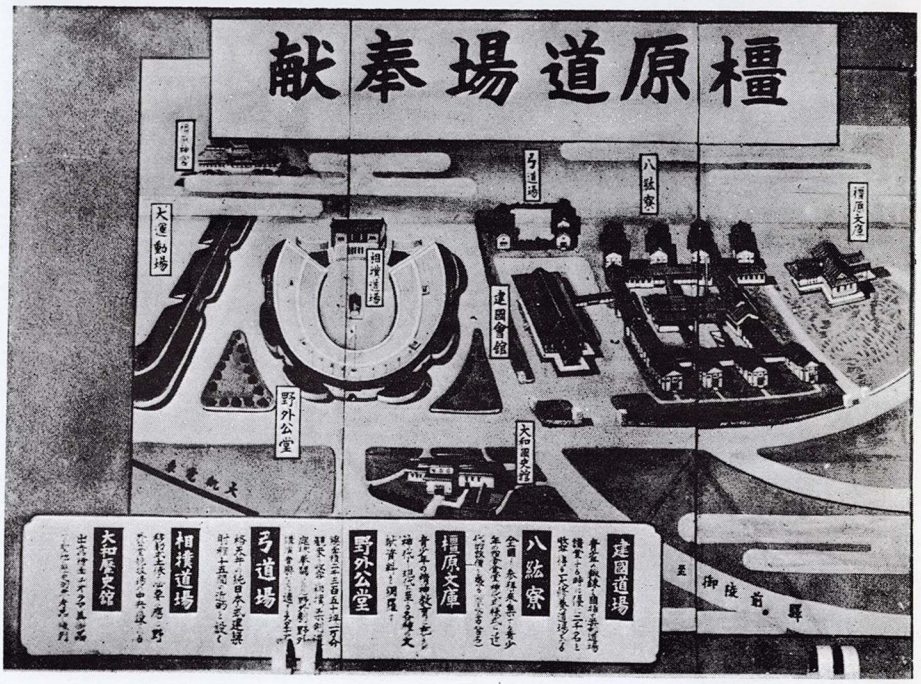
位置
奈良縣高市郡畝傍町橿原神宮外苑

敷地
大運動場（未完成）23,000坪
八紘寮
建國會館
弓道場（未完成）
橿原文庫（未完成）
} 5,480坪
野外公堂 5,030坪
大和國史館（未完成） 1,130坪

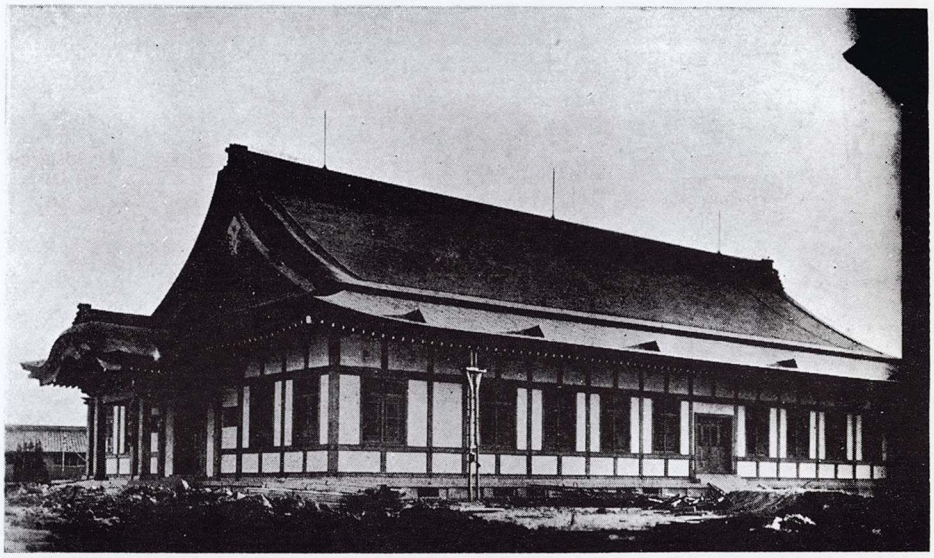
建坪
八紘寮 延 1,400坪
野外公堂 2,400坪
建國會館 350坪
弓道場 80坪
大和國史館 324坪
橿原文庫（未完成） 200坪

設計・施工
八紘寮・弓道場
野外公堂・大和國史館
} 設計施工 竹中工務店
橿原文庫（未完成）
設計施工 天理教會
建國會館（内苑より移築）
設計 奈良縣 移築 竹中工務店

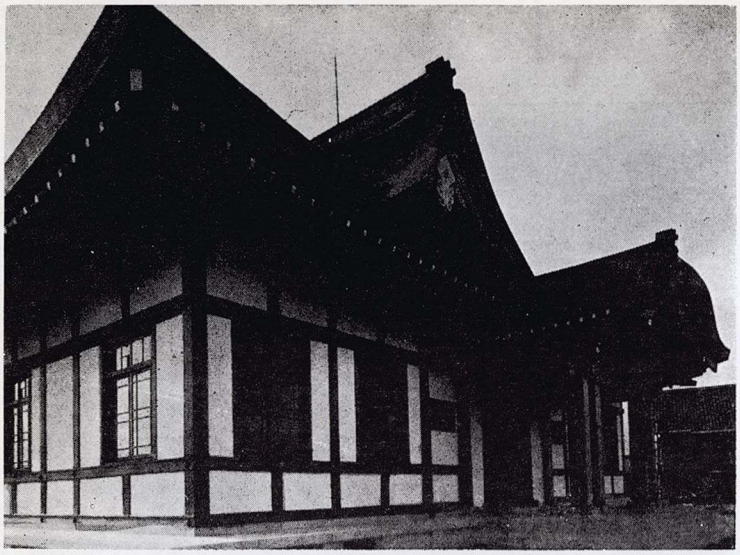
工期
八紘寮 14年3月—15年1月
野外公堂 14年4月—15年1月
建國會館 14年4月—14年12月
弓道場 14年12月—15年3月
大和國史館 14年12月—15年7月
橿原文庫 14年7月—15年3月



同上説明圖（大阪朝日新聞社作成のもの）

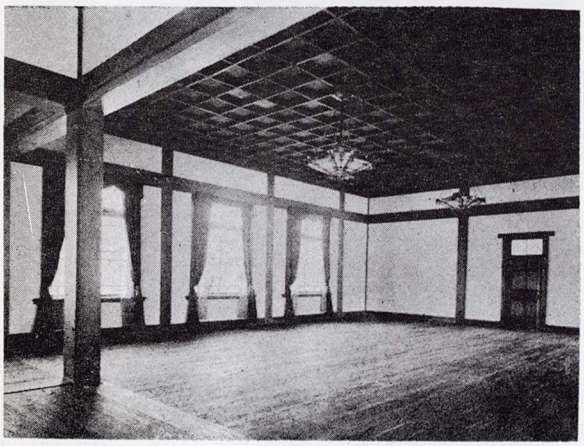


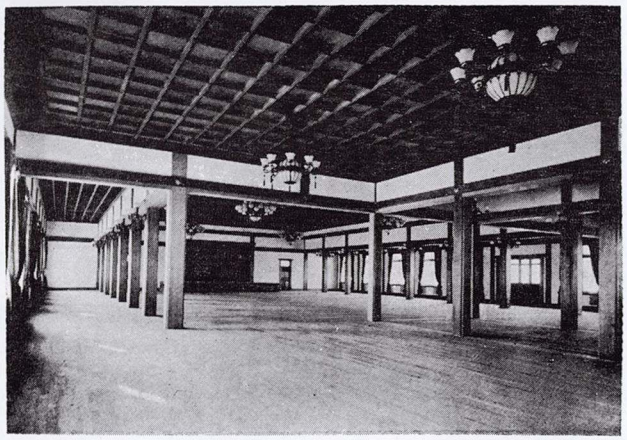
建國會館外觀



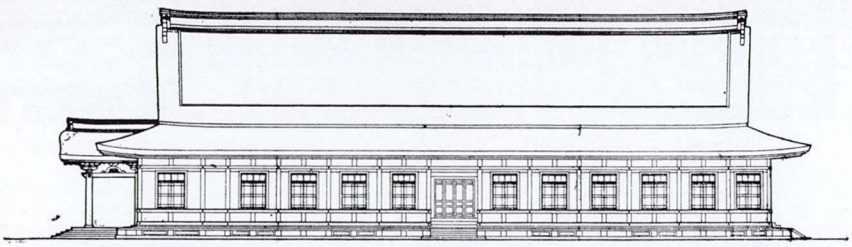
建國會館正面

同上內部正面

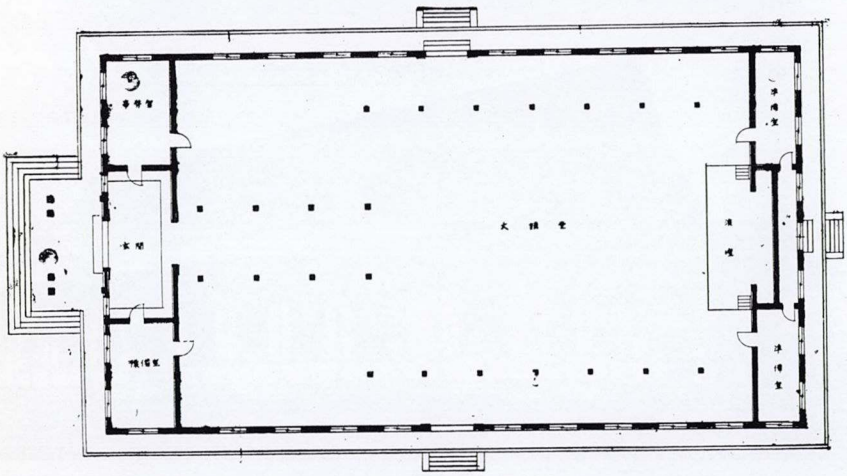




同上內部



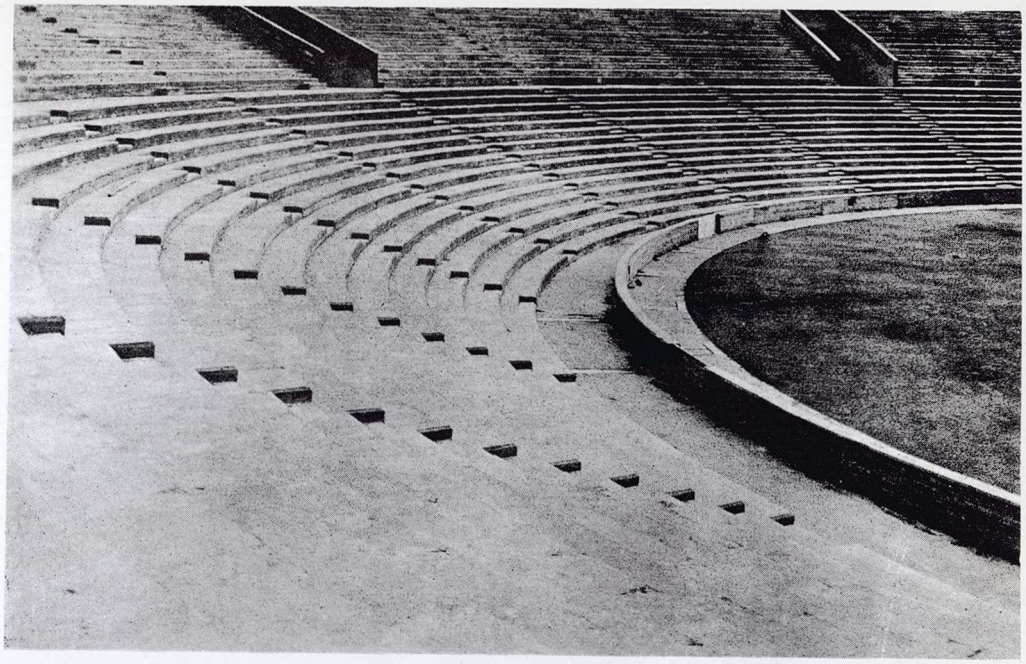
透視圖

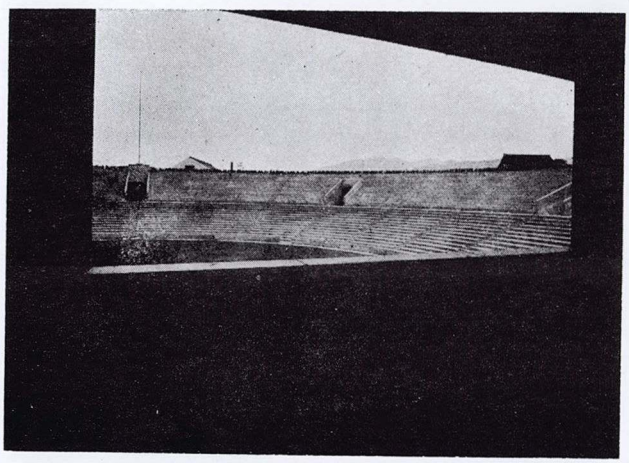


平面圖

11 2 橿原神宮外苑橿原道場・建國會館　設計・奈良縣營繕課　移築　竹中工務店

スタンド内部

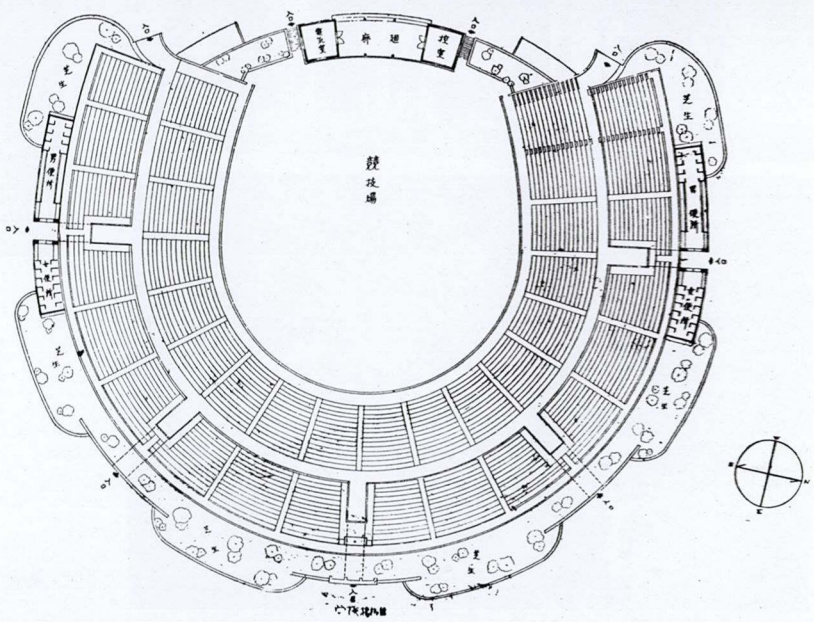




廻廊よりスタンドを望む



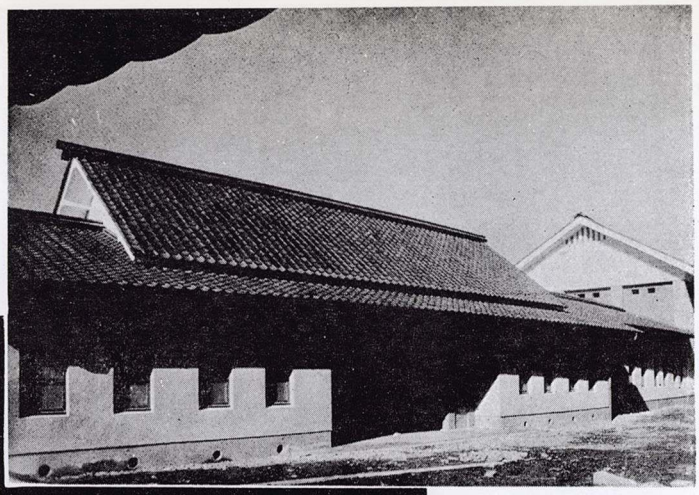
南側スタンドより廻廊を望む

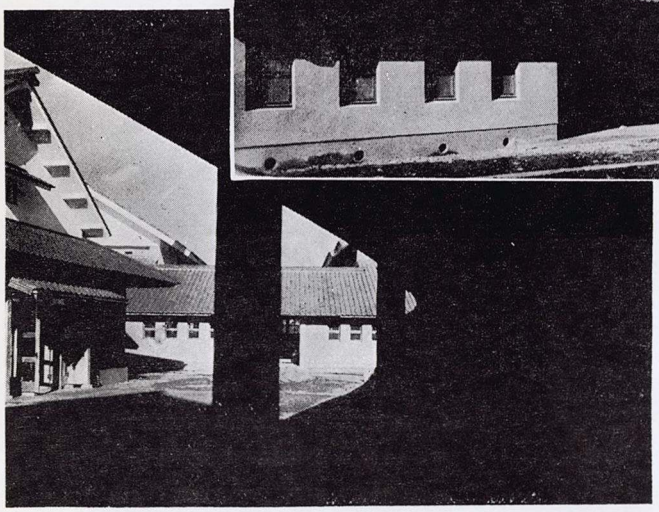


平面圖

橿原神宮外苑橿原道場・野外公堂　設計・施工　竹中工務店

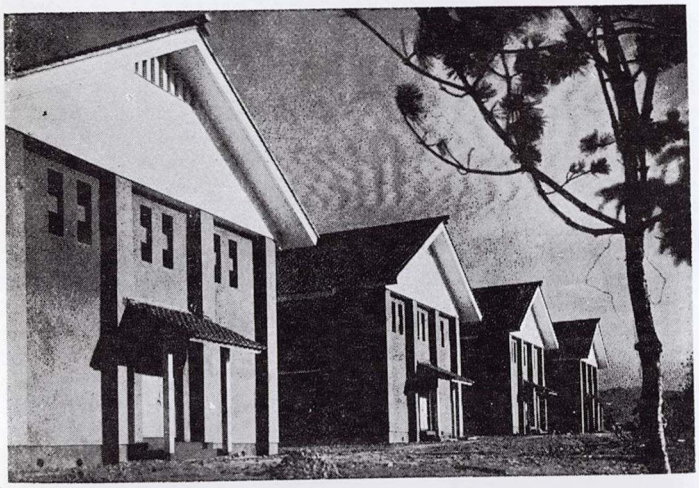
正面玄關
右端に宿舍の妻を見る

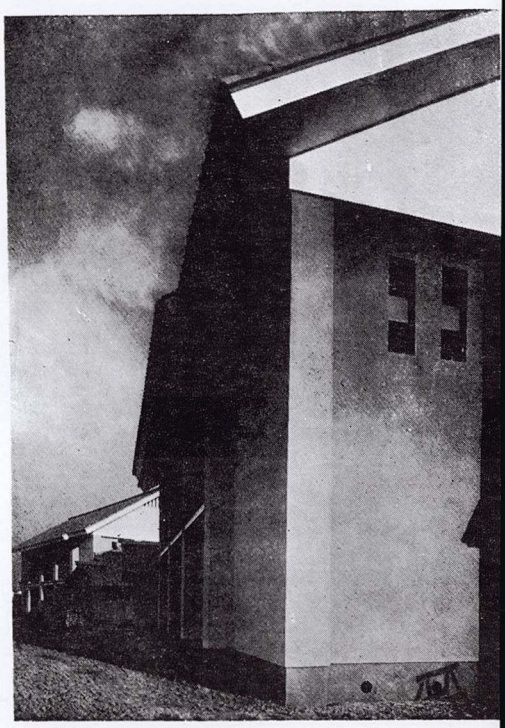




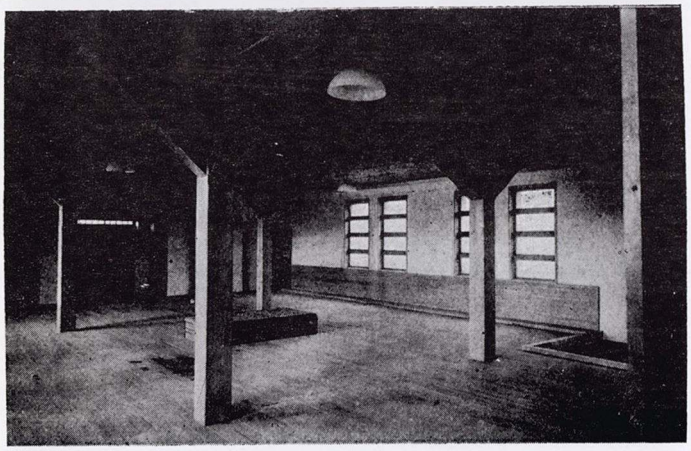
柱廊より中庭を隔てゝ食堂の一部(左)と正面に宿舍昇降口を見る

西側4棟の宿舍並列





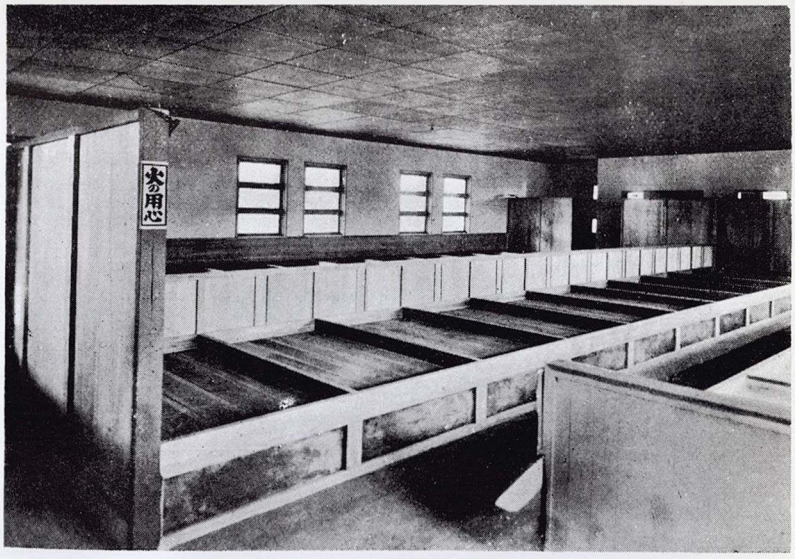
純白とライト・グレーの宿舍壁面



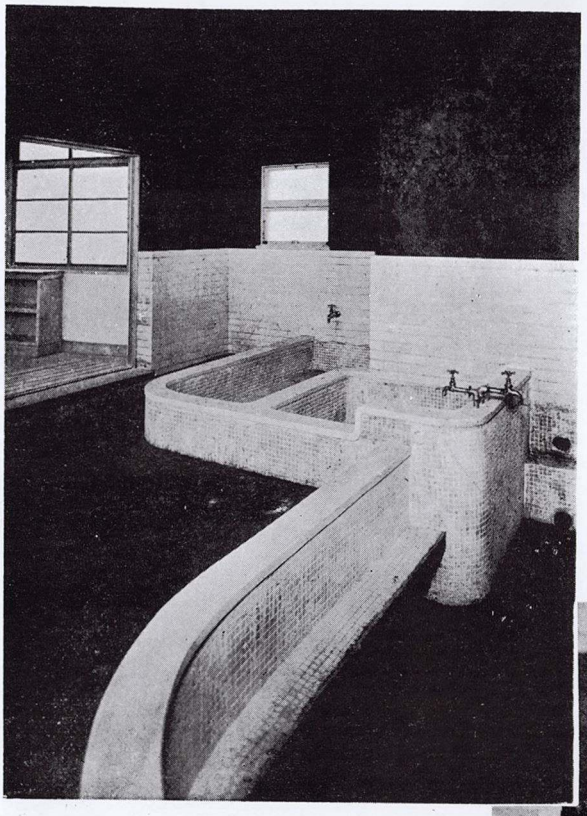
宿舍階下疊敷，50餘人を收容し得

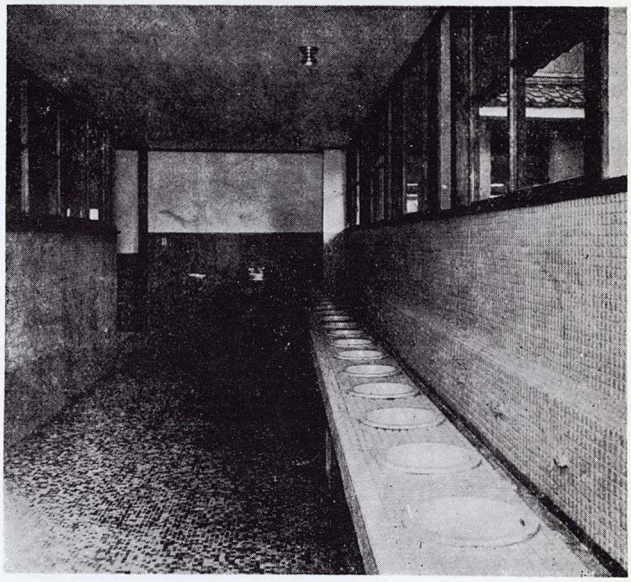
橿原神宮外苑橿原道場・八紘寮　　設計・施工　竹中工務店

舍者上ベット式
50餘人を收容し得

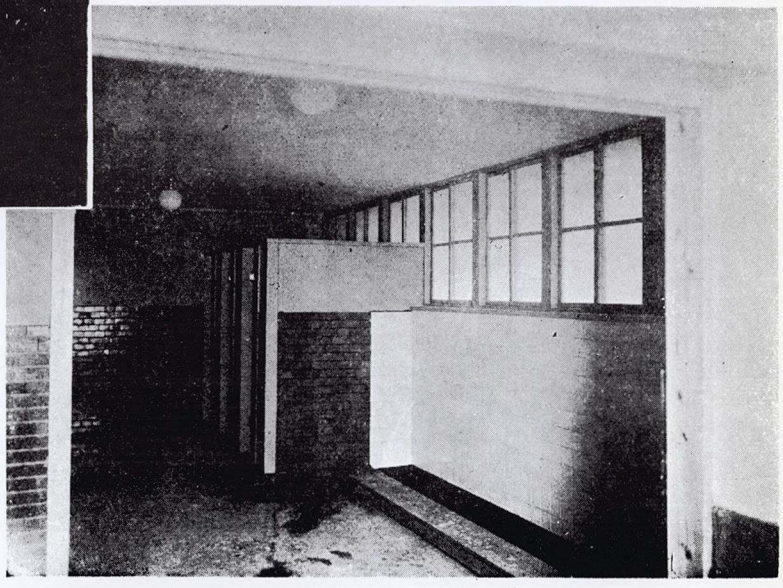


男子浴室
浴槽は入浴人數に應じ
大，中，小の三つに區分されてゐる

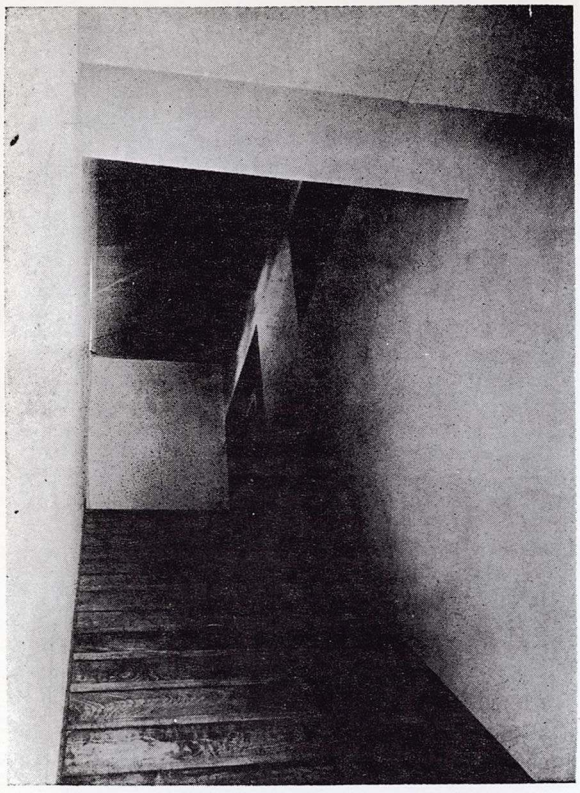




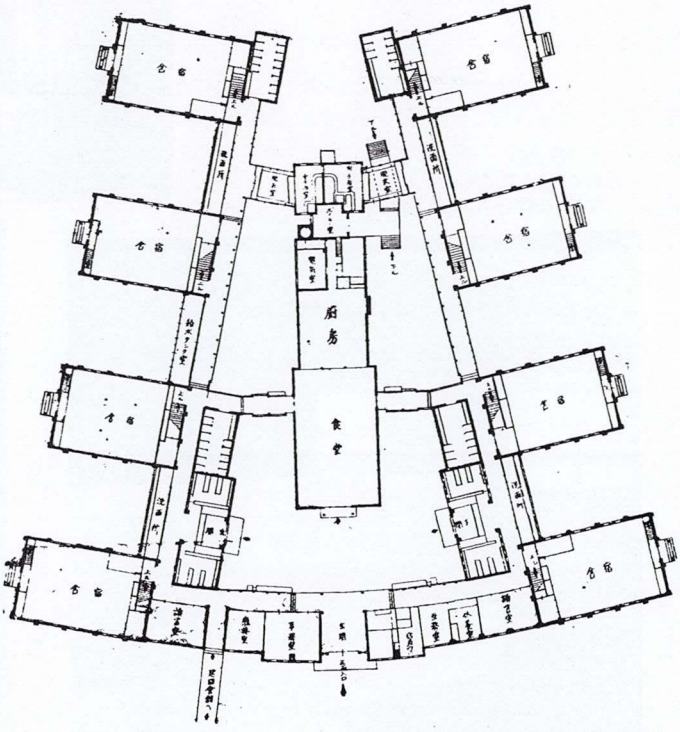
洗面所



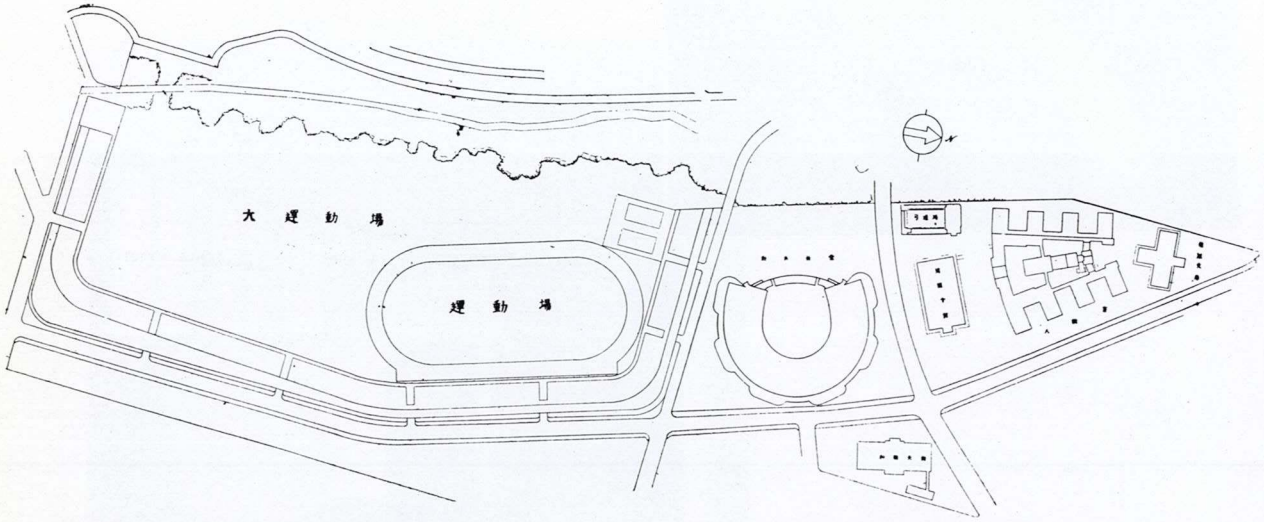
便所の一部



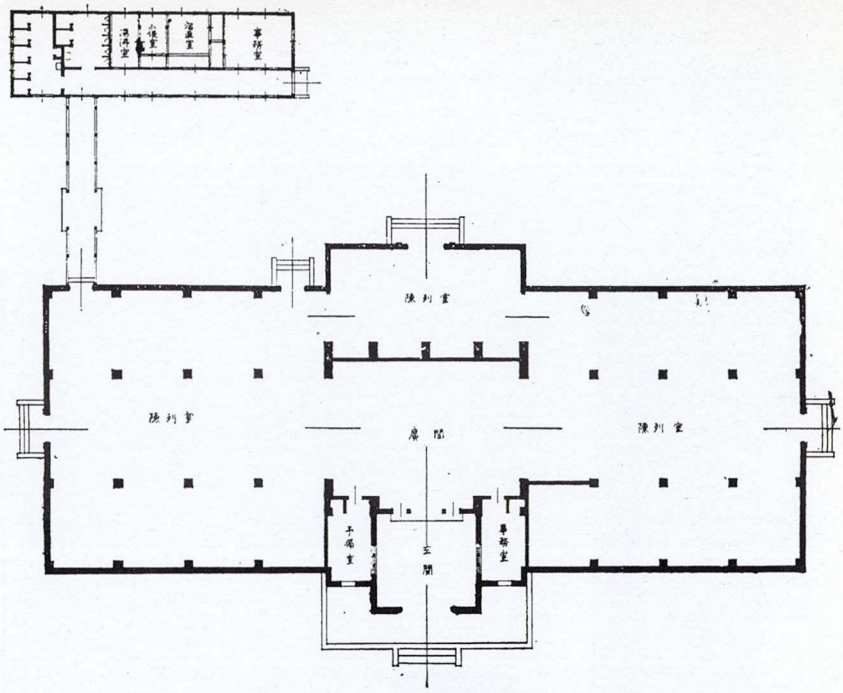
室舍階段室



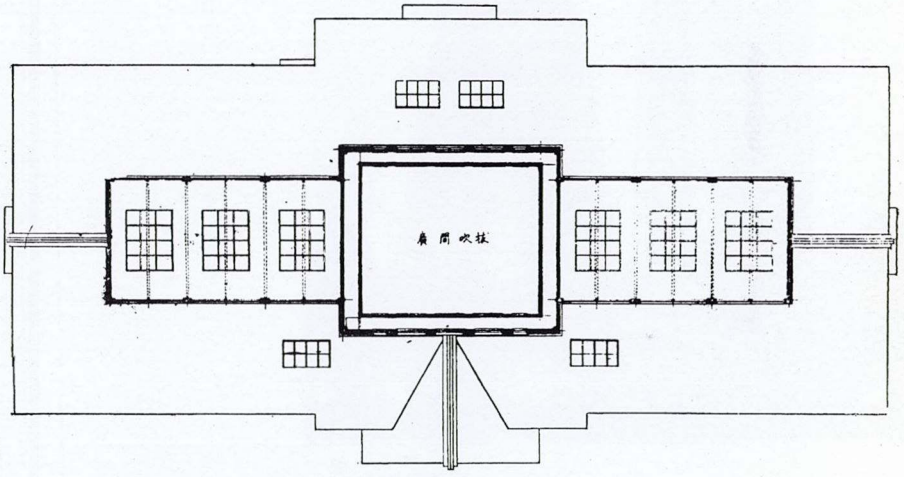
平面圖



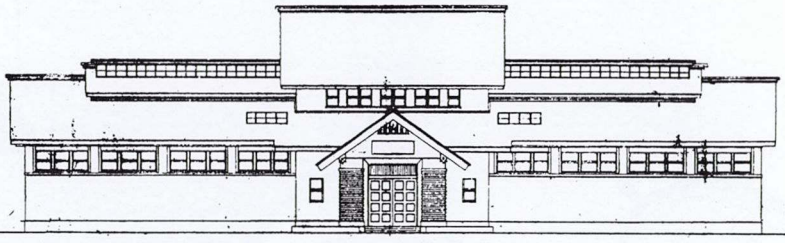
橿原道場配置圖



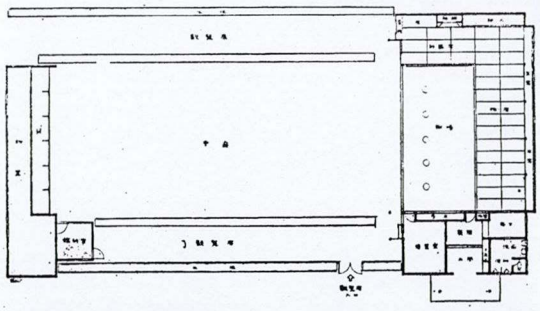
大和國史館（未完成）
1 階 平 圖 面



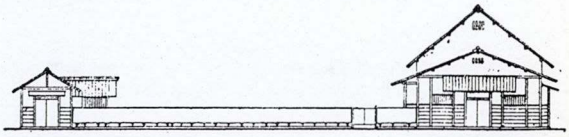
同上2階平面圖



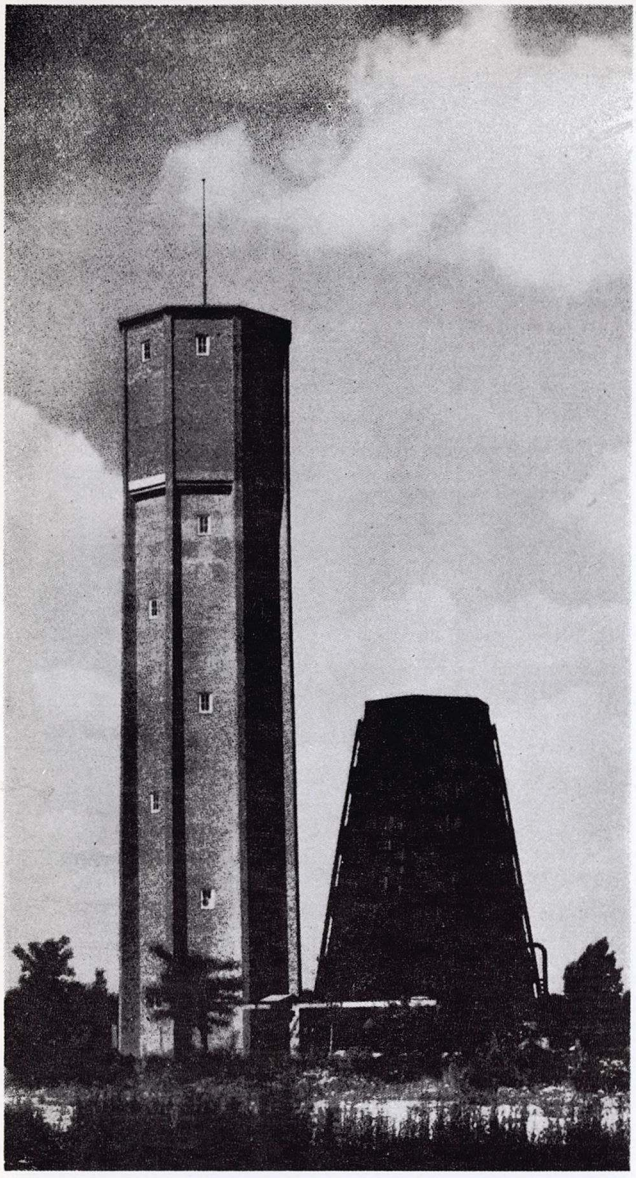
同上透視圖



弓道場（未完成）平面圖

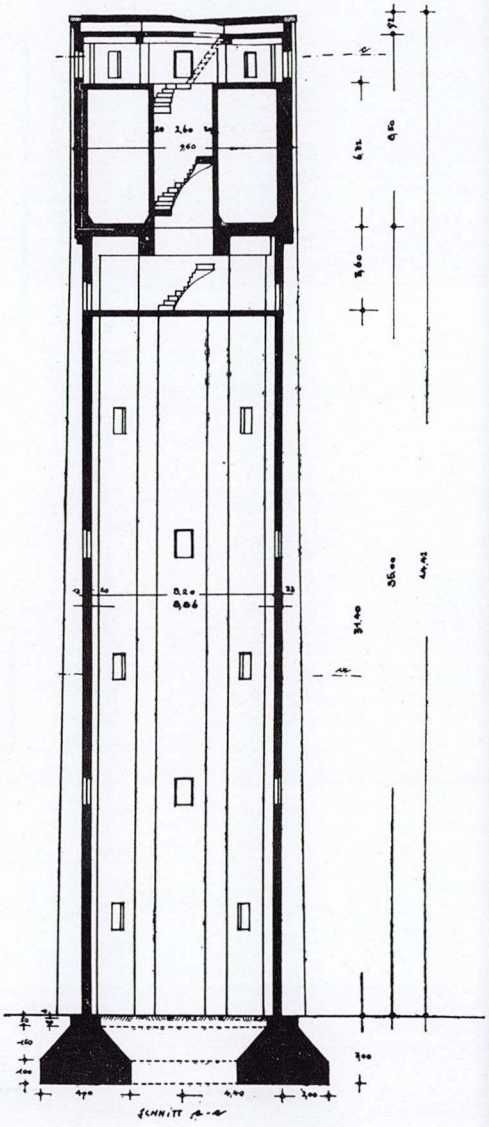


同左透視圖

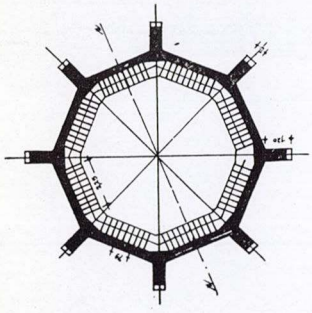


外　觀

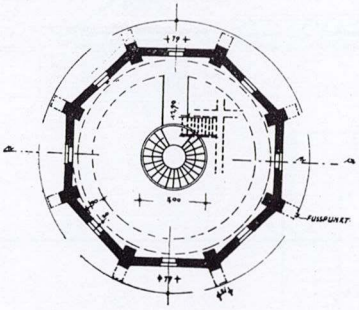
(Baumeister, Dez., 1939より)



斷　面　圖



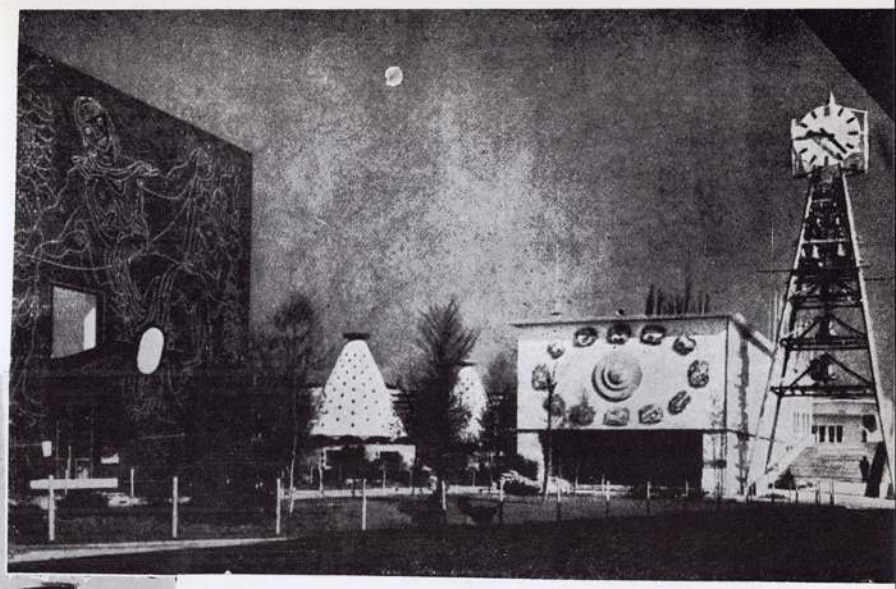
下部平面圖

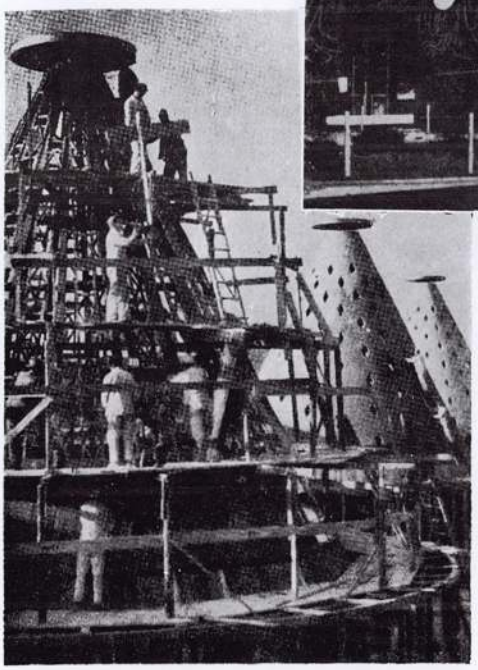


上端部平面圖

118　（ドイツ）　工場の貯水塔　　設計・Hans Mehrtens

左側「風習は人をつくる」と題する館。
右側，時 計 塔
少し奥まつた所に圓錐形の流行館。





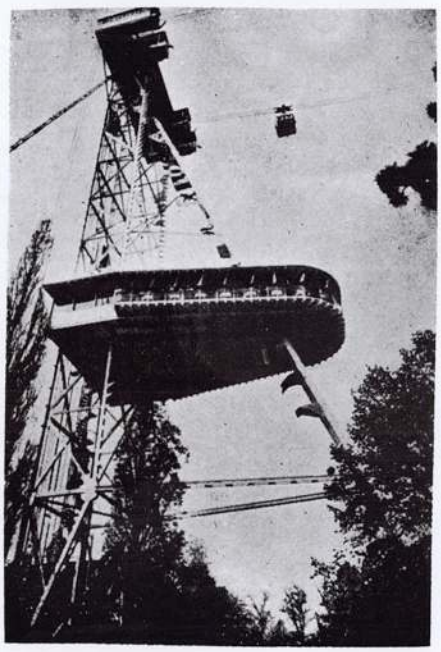
流行館の構成様式

チューリツヒはその名も同じチューリツヒ湖の北西部のレリーバツハとエンゲの二河の，この湖に注ぐ地點に位するが，この二河に沿つた市の兩端部の地にこの博覽會場が設けられた。この立地は論理的なものであるが，却つてこの博覽會をして殊さら人々を惹きつけるものにしてゐる。片方は主として農業に關する傳統の分野を展示し，他方はスイス國民精神の發揚を目ざして構成されてゐる。30,000平方米の地域に亘り數多く公園庭園地帶をとる外，道路に70,000，綠地帶に85,000平方米を夫々使用してゐる。

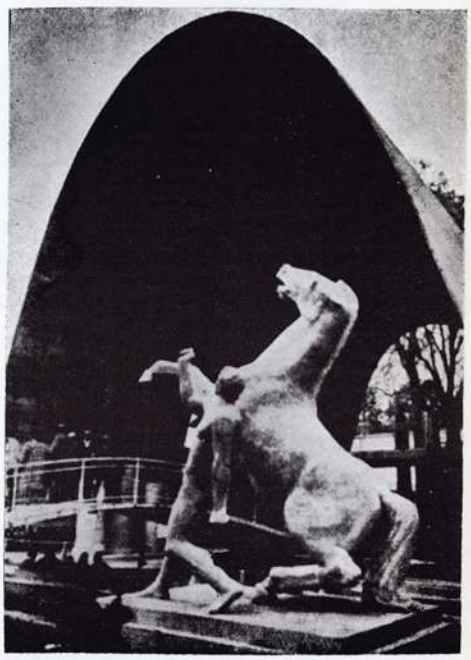
エンゲ河側の會場内には主要館を貫いて小運河を造りボートに乘りながら場内を一巡出來る仕組も面白い思付きである。

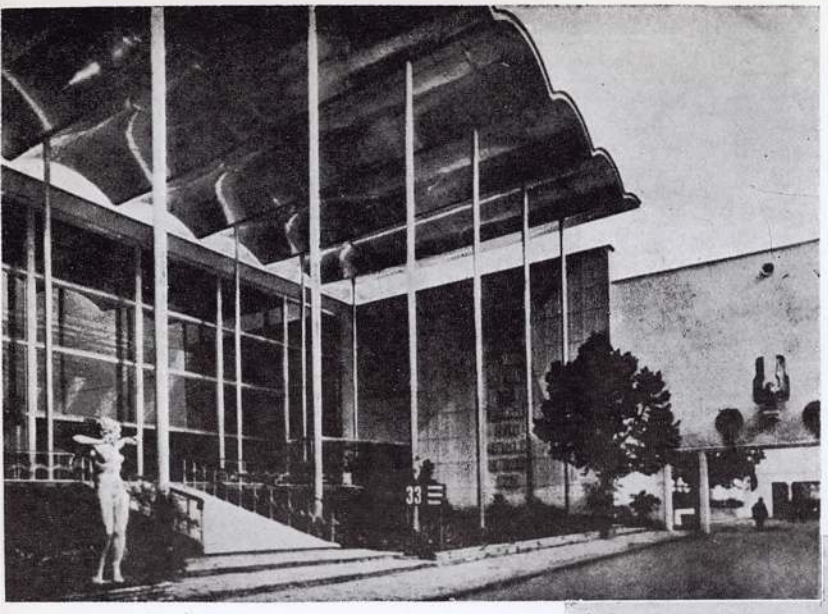
(Architettura, Nov., 1939より)

左岸會場に立つロープウエーの片側支柱。
高さの中程にレストラントを設けてゐる。高さ75米，この博覽會呼物の一つになつてゐる

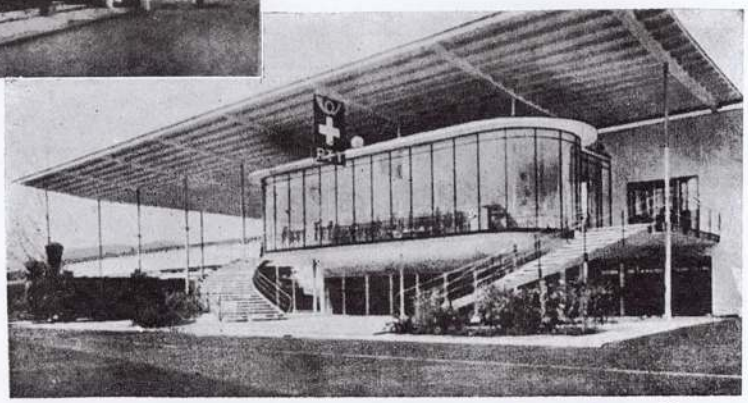


大窓硝のある構築館
巾　16米
高さ　15米
厚さ　6糎

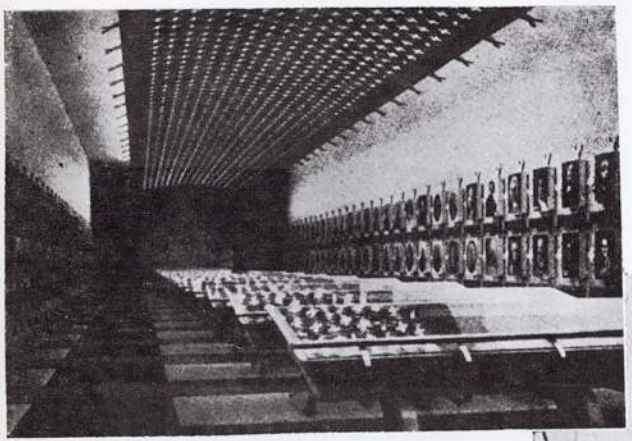




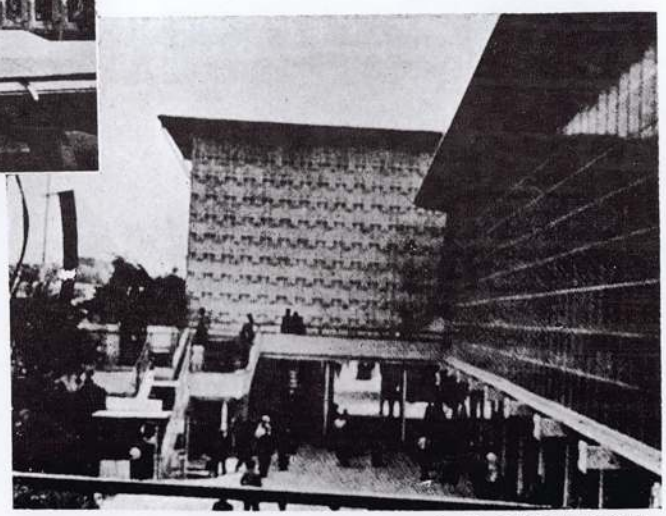
アルミニユーム館



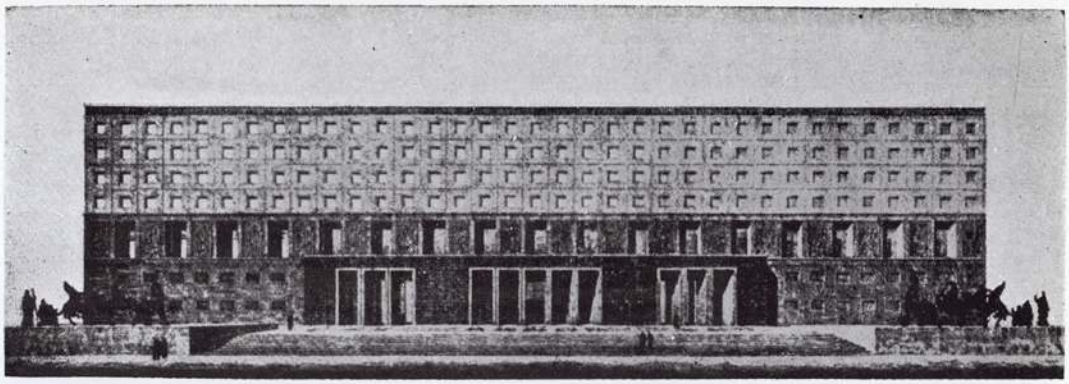
遞　信　館



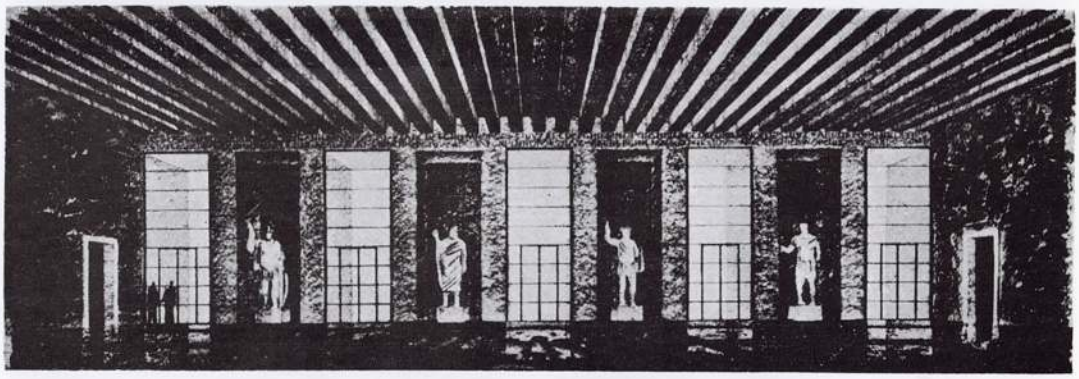
スイス功勞者展覽室



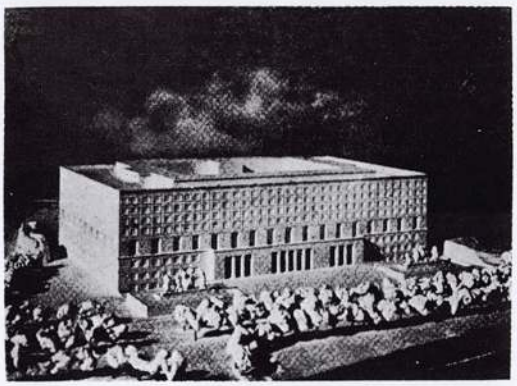
スイス功勞者展覽室外觀



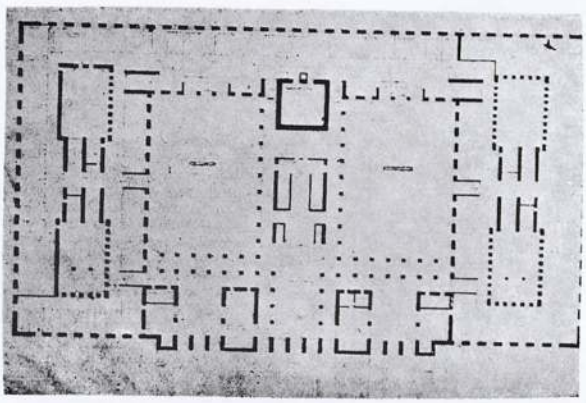
正面圖



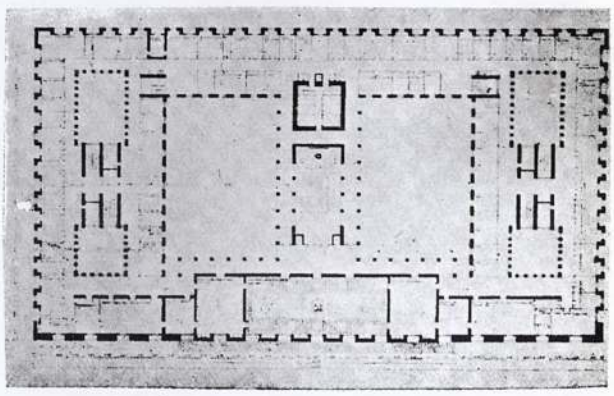
正廳の間



模型



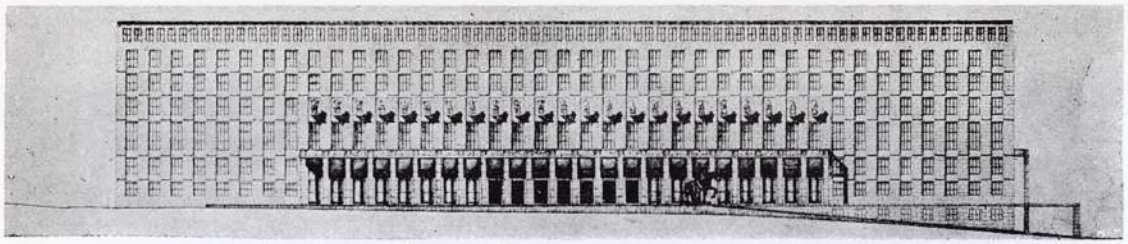
1 階平面圖



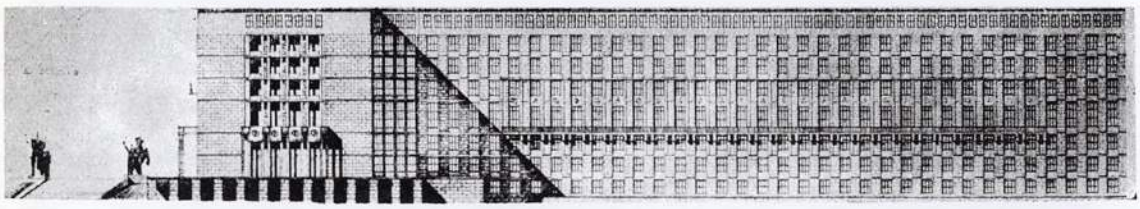
2 階平面圖

(イタリー)　ローマに建つアフリカ省建築競技設計當選案その1

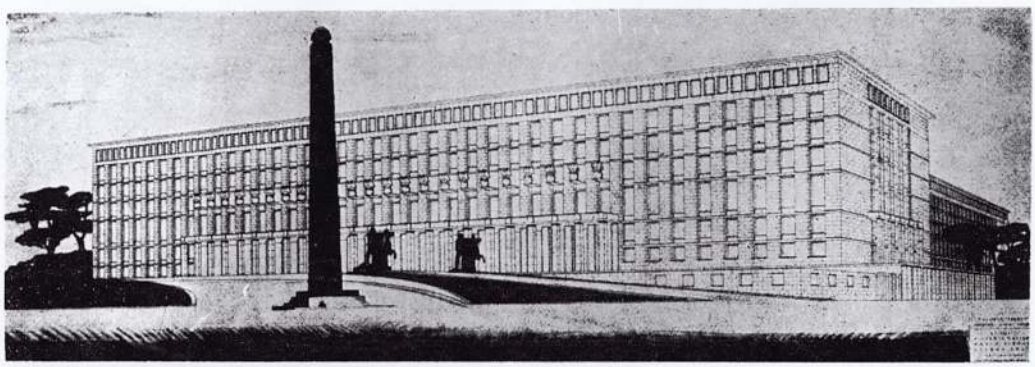
建築家・L. Brusa, G. Cancellotli, E. Montuori. 及び A. Scalpelli.



正　面　圖



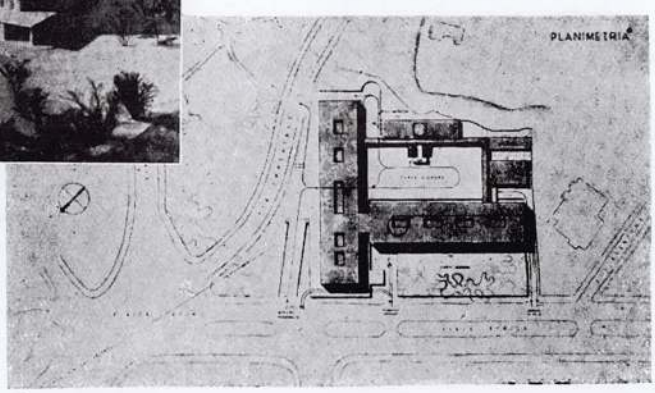
側　面　圖



配　景　圖



模　型



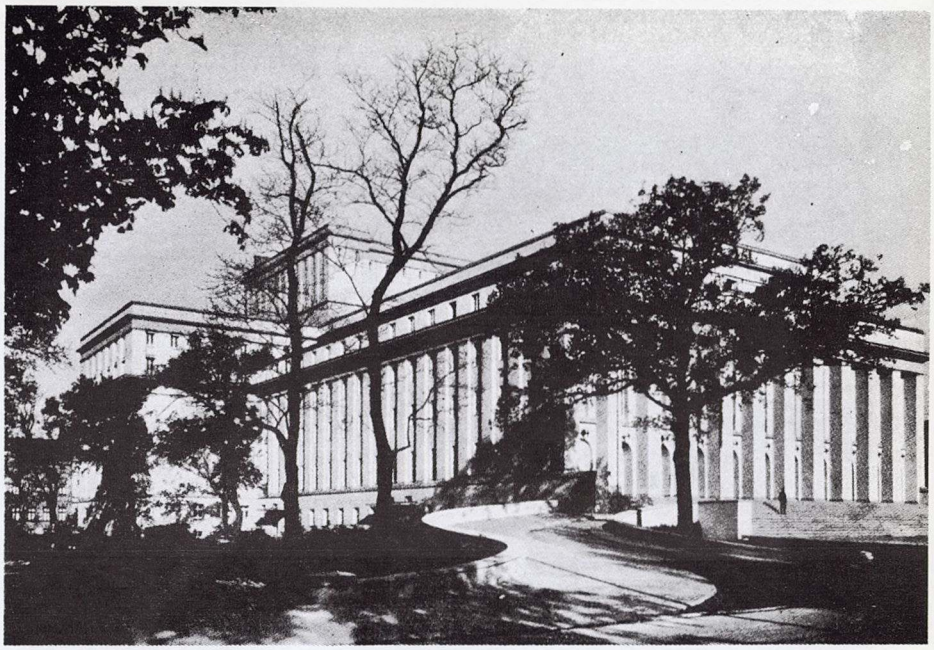
配　置　圖

II 12　ローマに建つアフリカ省建築競技當選圖案その2

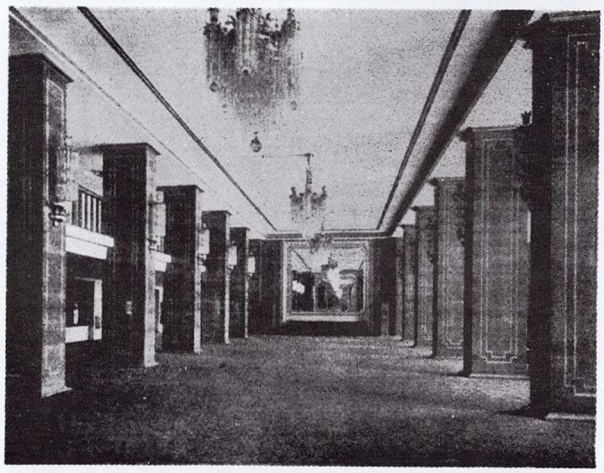
建築家及び技術家・V. Cafiero, E. Rossi, M. Ridolfi, 及 G. Rinaldi.

観客席に對して舞臺及その附屬室が大きく周圍の遊歩場も置くて氣持がよさそうである。

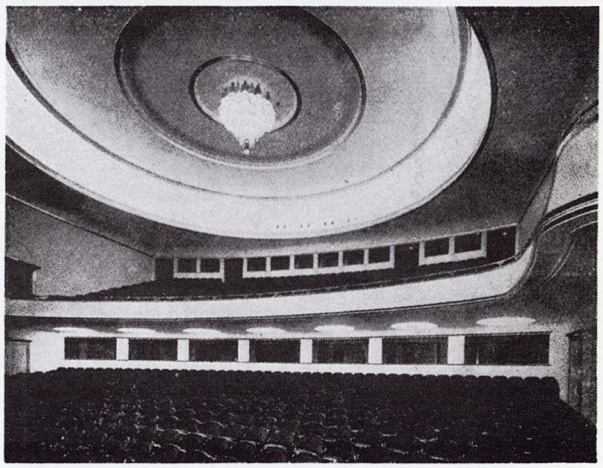
(Zentralblatt, Dez.. 1939より)



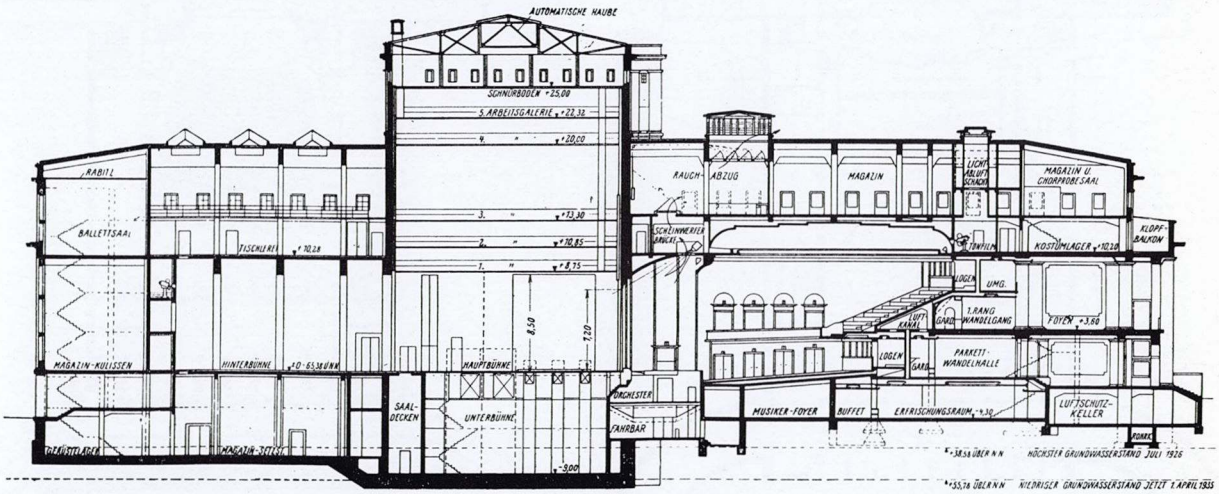
全　景



遊　歩　場

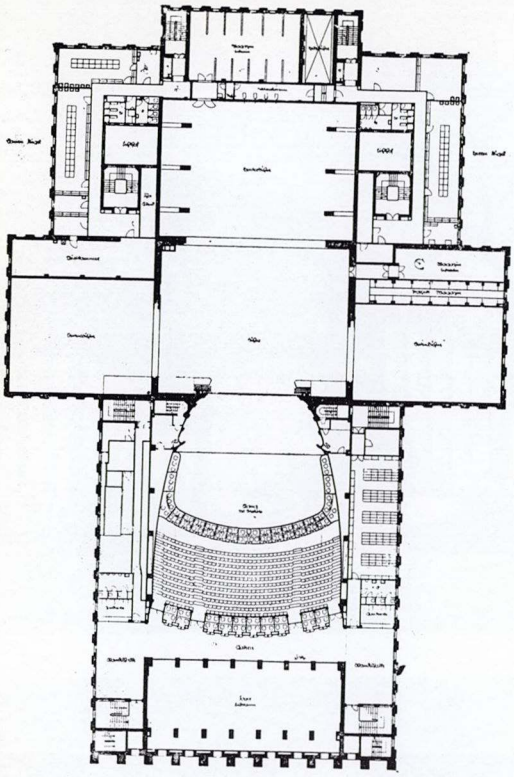


觀　客　席

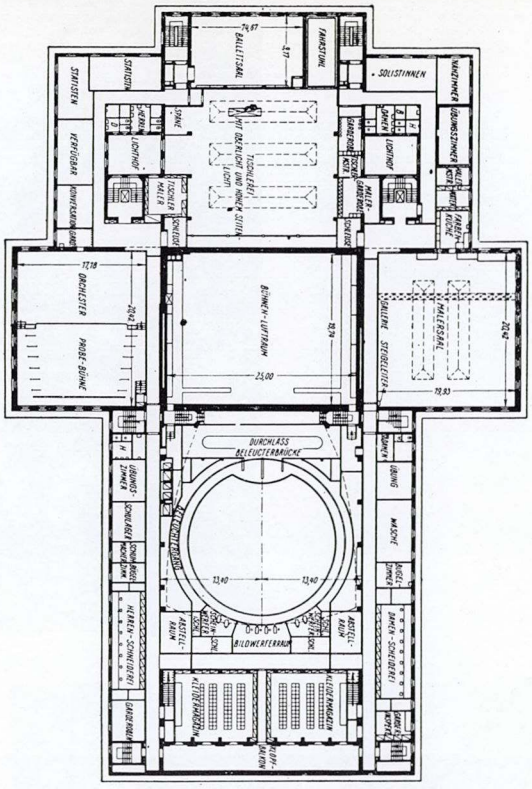


斷　面　圖

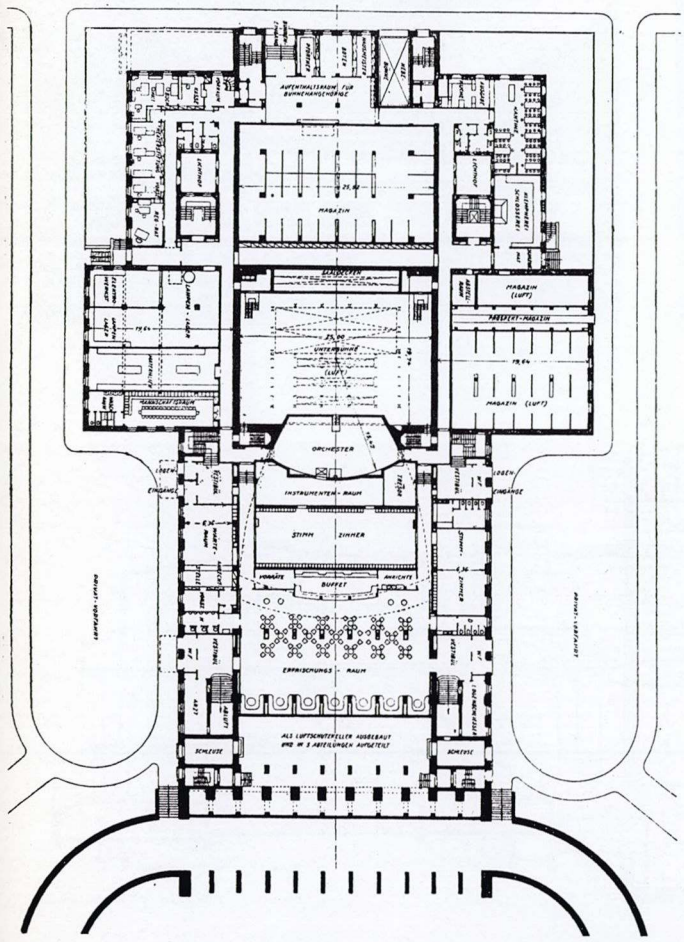
(ドイツ)　デツサウの劇場　建築家・Friedrich Lipp 及び Werry Roth



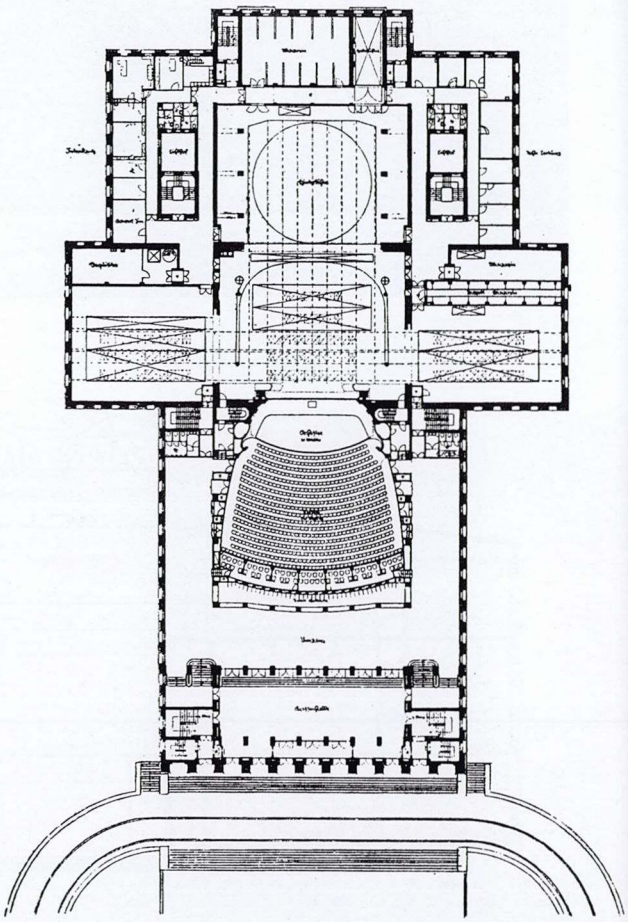
2 階平面圖



3 階平面圖

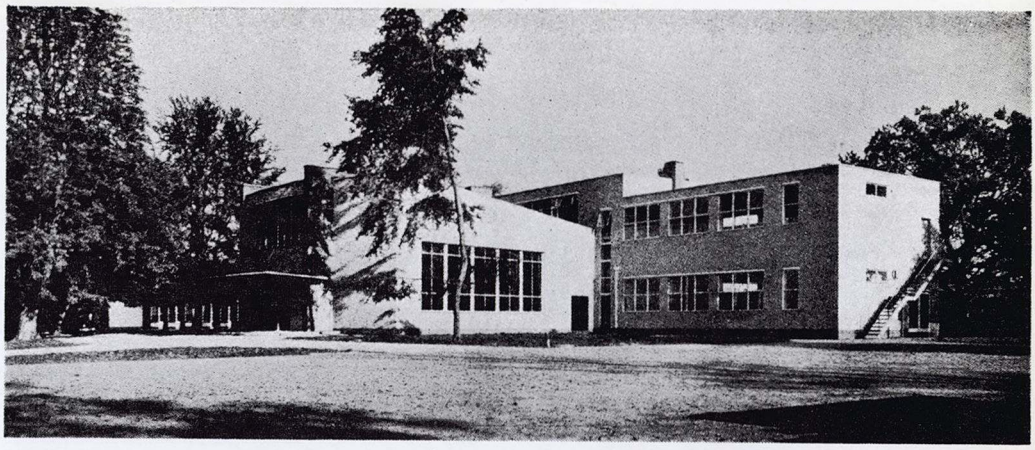


地階平面圖

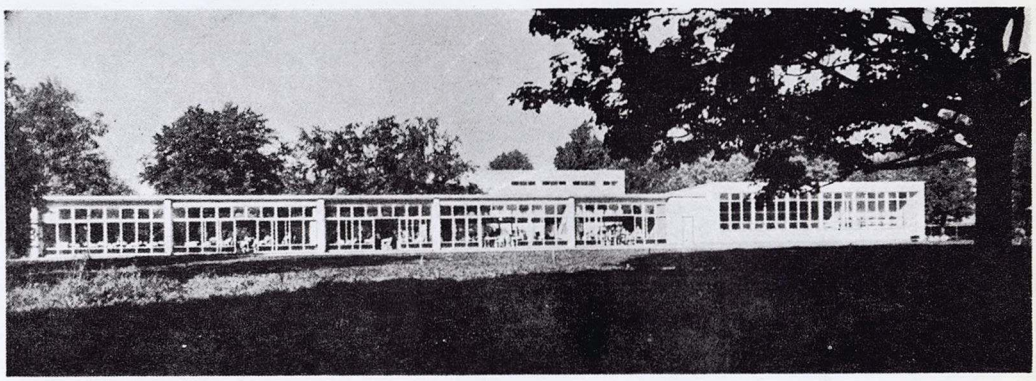


1 階平面圖

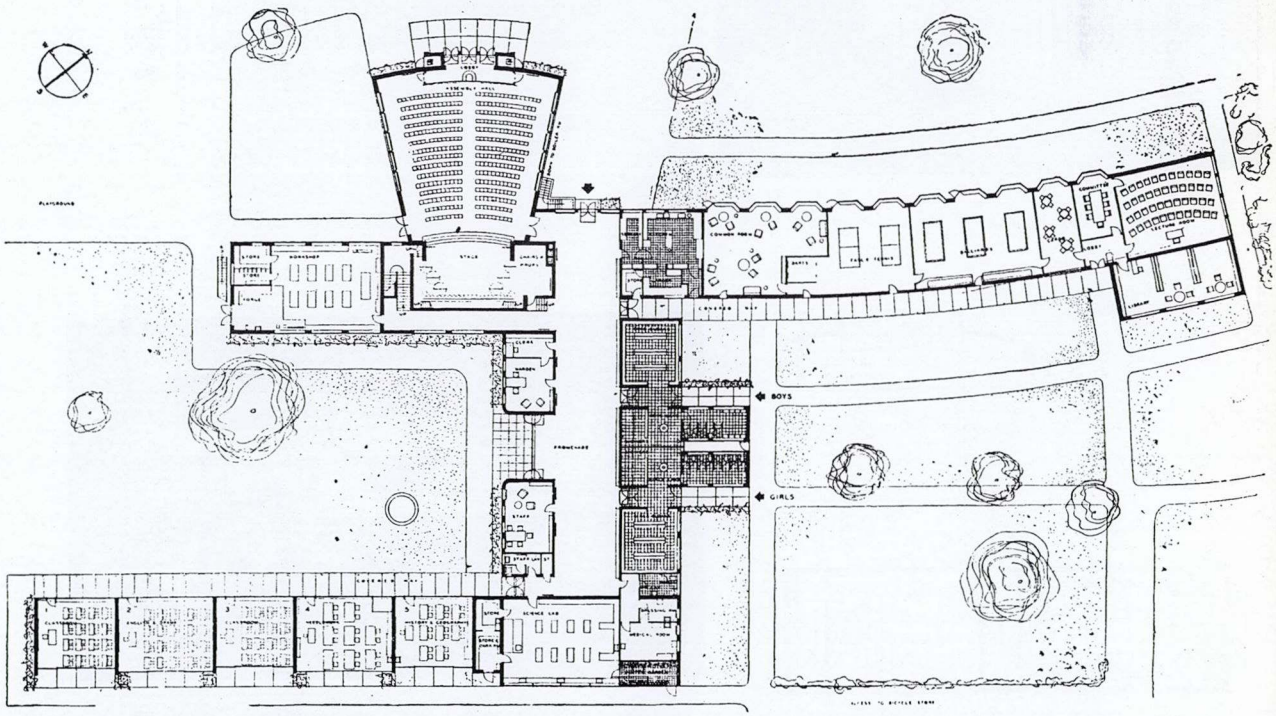
14 （ドイツ） デッサウの劇場 建築家・Friedrich Lipp 及び Werry Roth



西側外觀



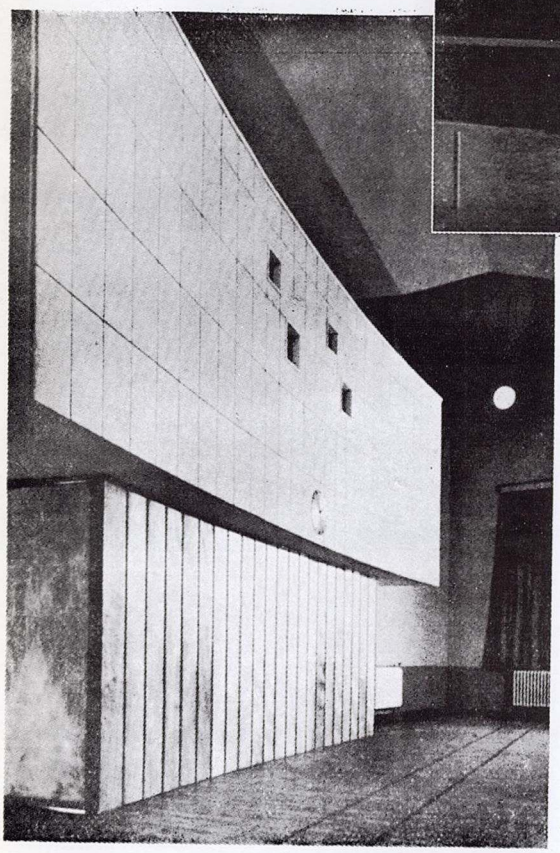
東南教室側外觀



1 階平面圖



圖　書　室



講　堂　背　面

Impington 村の專門學校は Cambridge 州內に建つ多くの村落專門學校の內の一つで，大部分は平家であるが講堂に接する部分のみ二階建となり，樹木の澤山ある廣い敷地を巧に利用して配置されてゐる。

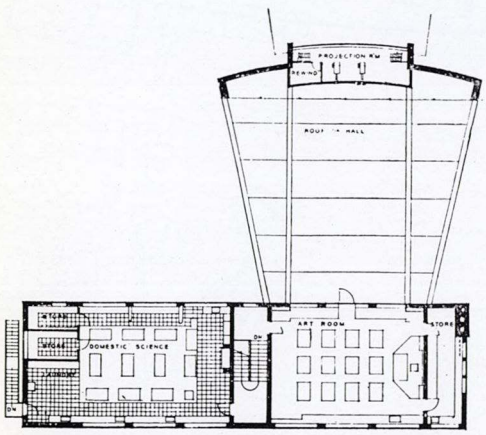
建物の一翼には普通教室2，地歷教室，裁縫教室，英語及演劇教室，理科教室が一列にならび，他の一翼には講義室，圖書室，球戲室，ピンポン室，談話室等がある。

晝間の生徒は12才乃至16才で定員240人(280人迄可能)，中央部の廣いプロムナードは之等の生徒の晝食用食堂として用ひる事が出來る。尙中央部2階には家事教室，圖書及手工教室があり，1階には火床，倉庫等の備つた作業室がある。之等の3室は晝間のみならず，夜間の青年教育に用ひられる。

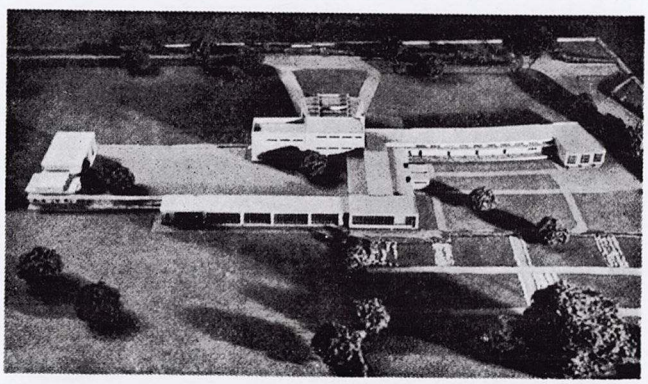
講堂は之だけを切り離して一般用とする事も出來，映畵，音樂，演劇，講義，何れにも適するやうに設計設備されてゐる。特に演壇の背景には Cyclorama が用ひられてゐる。收容人員360名。

壁體は煉瓦造で梁に L-beam を用ひてゐる。

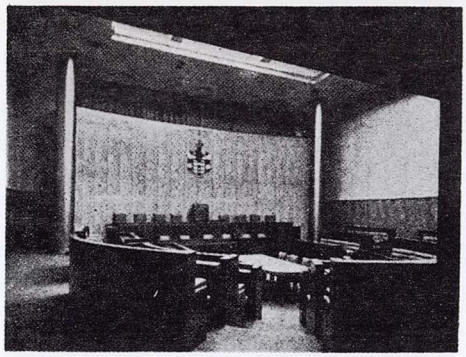
(Architectural Review, Dec., 1939 より)



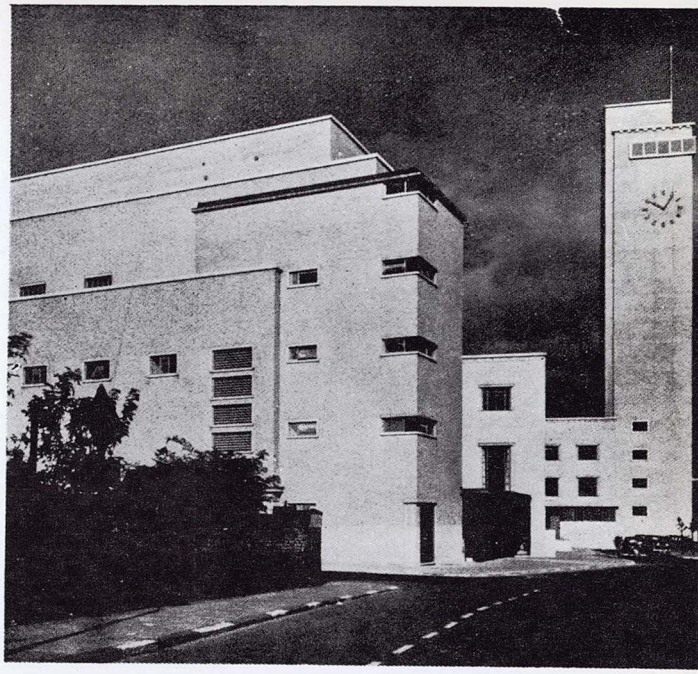
2 階 平 面 圖



全　　景



委員會室

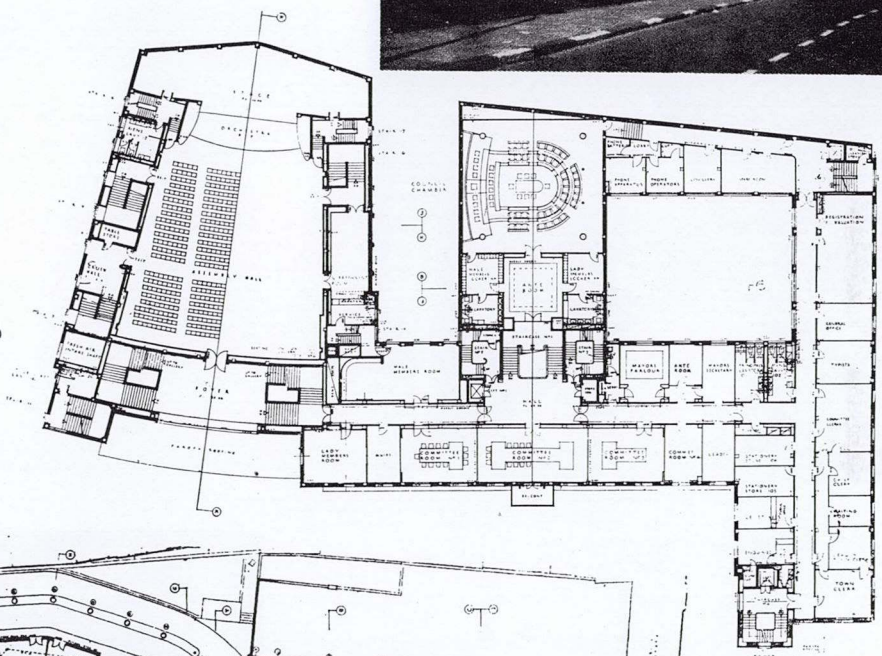


東南側外觀

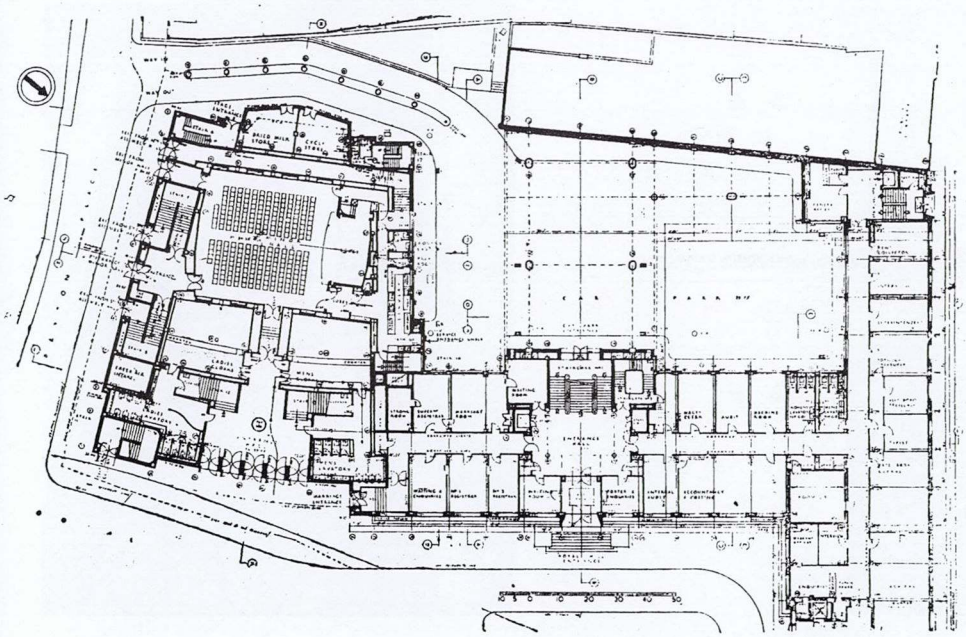
建物は2つの主要 Block からなり，一つは1階に小講堂，2階に大講堂を有する公會堂で，他は各種事務室及，議事堂である。大講堂は集會ダンス，映畫，演劇等に用ひられ，桟敷を合して座席773ある。

構造は公會堂の部分が鐵骨，其他は鐵筋コンクリート造で，外部は Orange色煉瓦張り，玄關廻り及び主要階段はトラバーチン張，床は各階段及1階床がテラゾーで，其他はオーク張である。

(Atchitectural Review,Dec., 1939より)

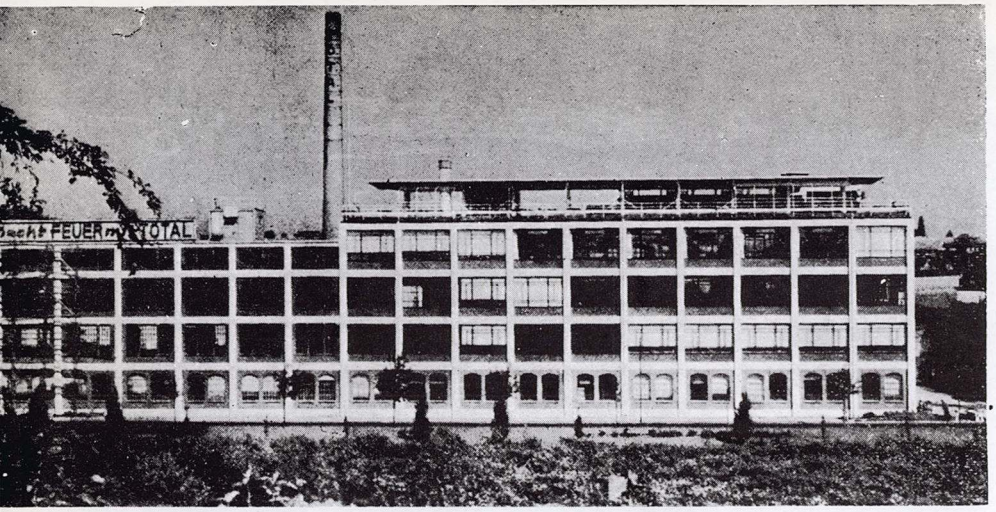


2階平面圖

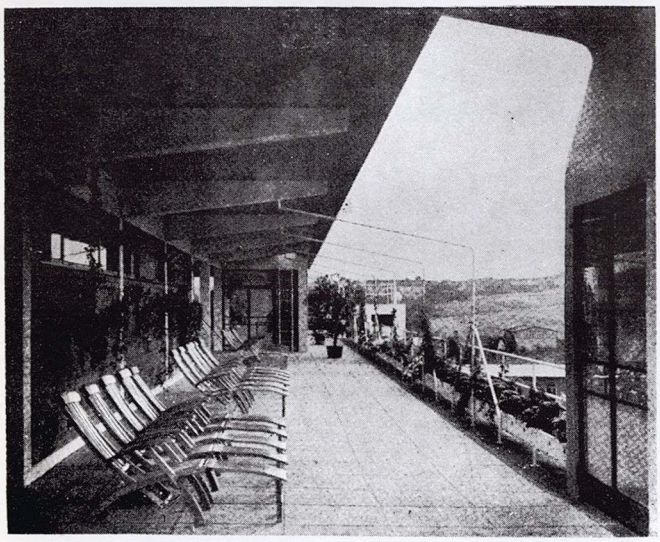


1階平面圖

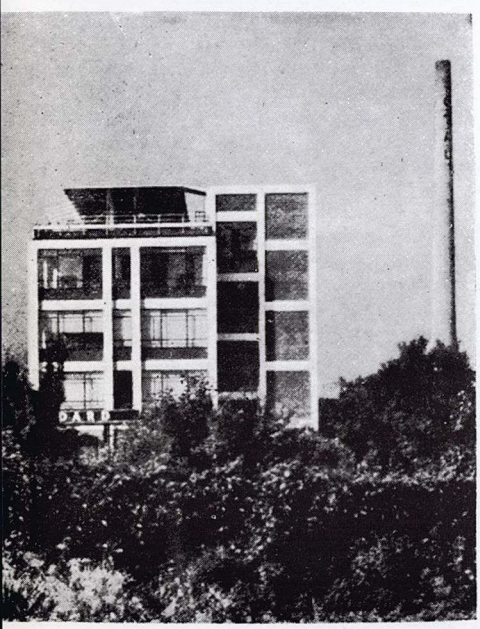
(イギリス) クリーニッチ市役所 建築家・Culpin 及び Son



工場の全景で左半分は改裝右半分は增築せる部分である。縱横の架構型に明色の氣持を現はし，新舊の型を統一してある。



屋上庭園で手摺に沿ふて植木鉢を並べておきパイプのパーゴラに針金が張りめぐらしてある。



左圖

側面景

增築の部分の側面で，右側が階段室となって居る

右圖

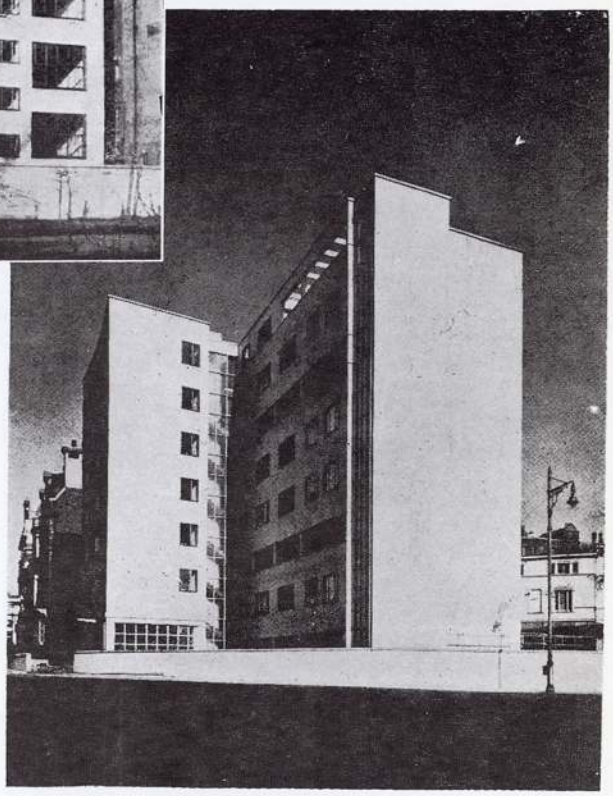
階段室

大きなガラス窓がとってある。

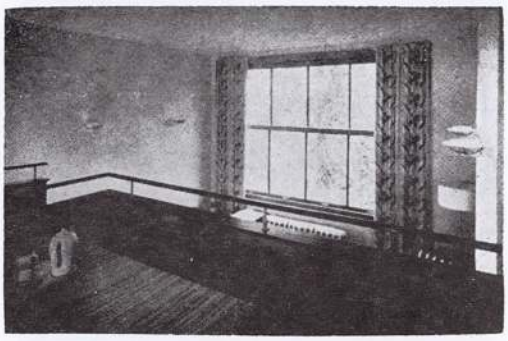




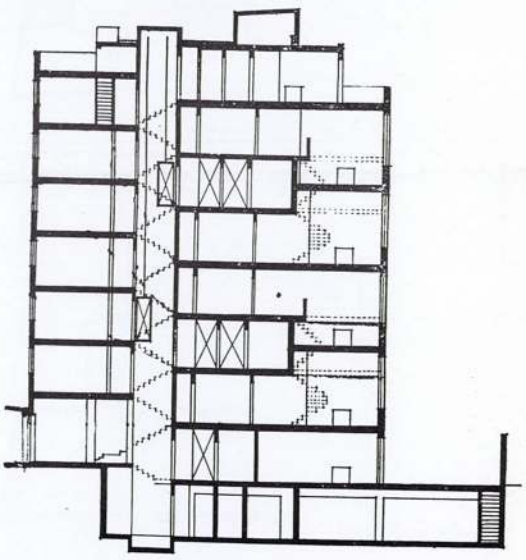
東面外観



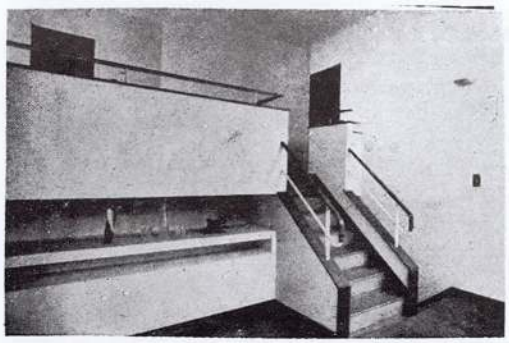
南面外観



上階食堂

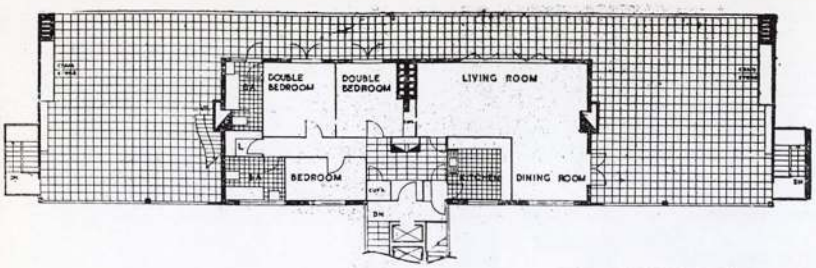


断面圖

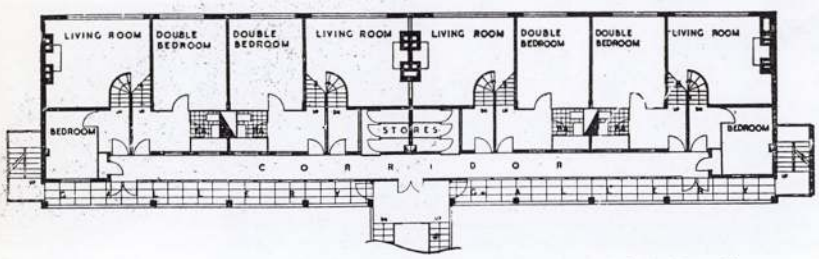


中階の居間

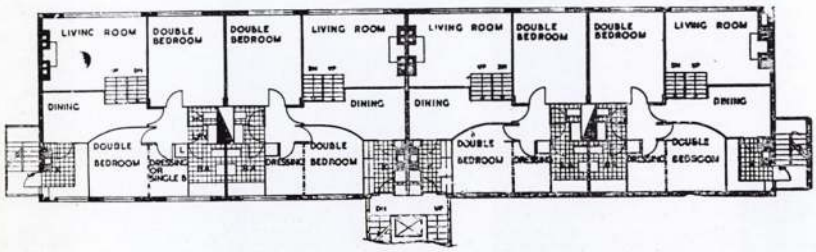
（イギリス）　ロンドンのアパートメント　建築家・Wells Coates



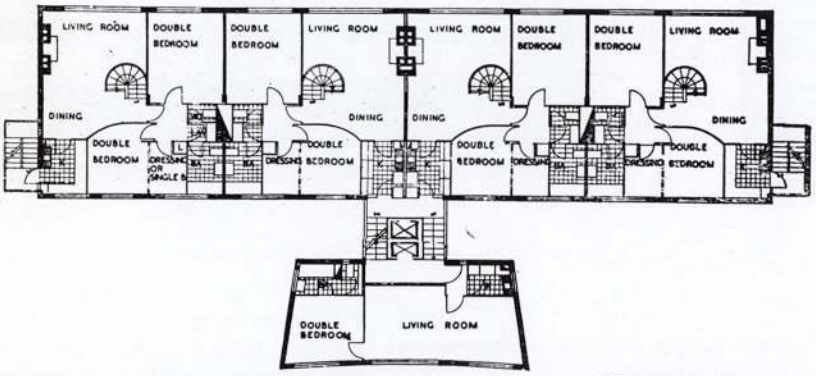
8階平面圖



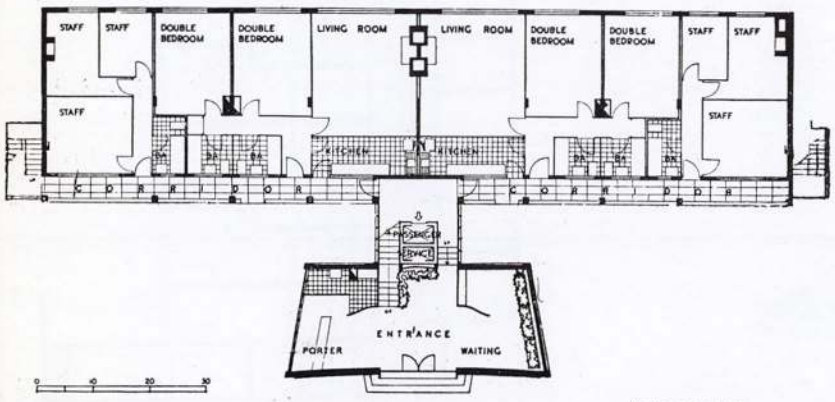
3.6階平面圖



4.7階平面圖



2.5階平面圖



1階平面圖

このアパートは寢室に許容さるべき室容積にとり，その階高を標準としその3層分を2分して，居室の階高としてゐる。即ち，中階にある玄關入口から下階へ降りればそこに居室，食堂，寢室（2）化粧室をもつ1戸があり，同じく中階玄關入口の階段を上ると別の家の居間と寢室があり，その居間の階段から上れば上階に食堂及び寢室（2）がある。尙この上階の家族の爲には玄關の階に別の寢室を持つてゐる。

卽，廊下は節約されて中階にのみあり（第4，7階）エレベーターもこの階にのみ止まる樣になつてゐる。居室を快適にする爲に，天井高を充分にとると共に，廊下であるべき處にまで部屋を設けて，有效にプラニングしたもので，從來平面的に計畫されてゐたものを，立體的にまで考へを延長したものである。

（Architectural Record, Nov., 1939より）

20 （イギリス） ロンドンのアパートメント 建築家・Wells Coates

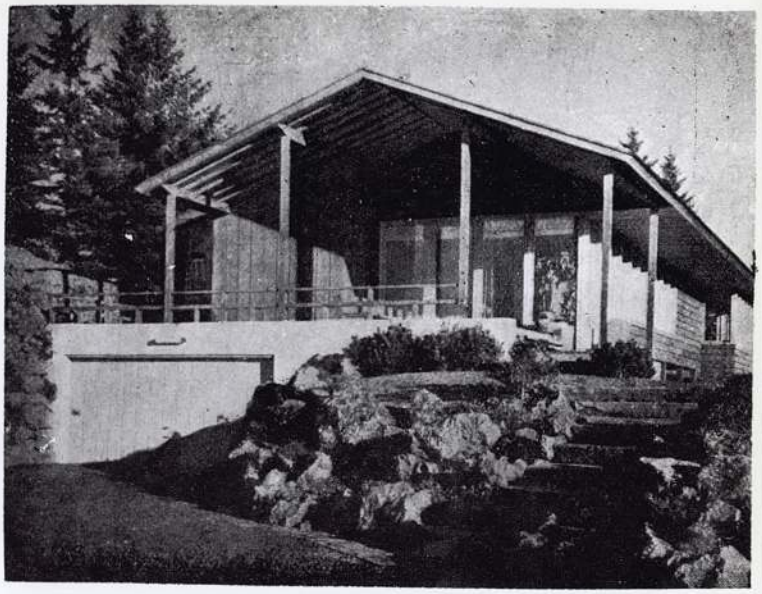
この住宅はプランを見ても解る様に，南方の眺めが素晴しいので——遙か彼方のカスゲード山脈，近くは廣やかな渓谷を持つて一，その展望を充分ならしめる爲にポーチを廣く，又ホール，居間及び寝室の窓が大きく廣やかにとられてゐる。

構造は木造であつて，屋根は杉のソギ板葺(1½寸厚)で外壁はラフなエゾ松の下見張，軒裏はプライウッド張となつてゐる。内壁は，漆喰塗，モミのパネル張，壁紙張，或は鏡張になつてゐる。

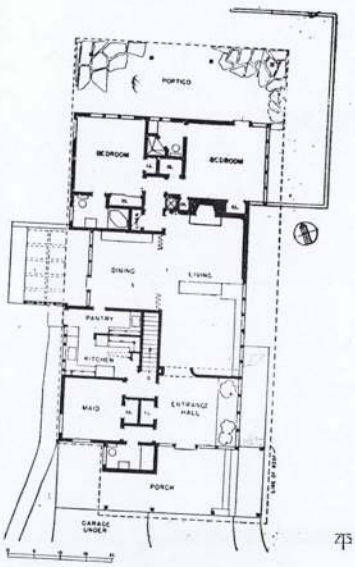
平面をみると，車庫には2臺の自動車が入る様になつてをり，居間がL型に設けられ，その西方が食堂にあてられ，居間とはカアテンで仕切る様になつてゐる。又居間は南半分には大きな窓をとり極明るく，ファイアプレースを圍む部分は落着を得る爲窓を全然設けず Zebla の化粧板で張詰めるなど，大膽な取扱をしてゐる。

厨房，女中室などの連絡もなかなかコムパクトに出來てゐる。

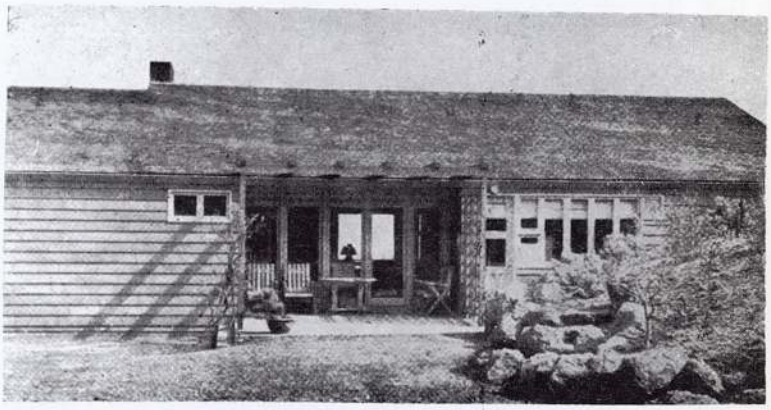
(Architectural Record, Nov., 1939より)



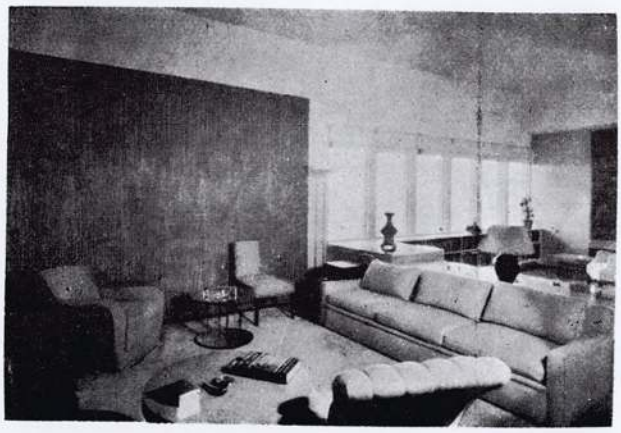
南側外觀



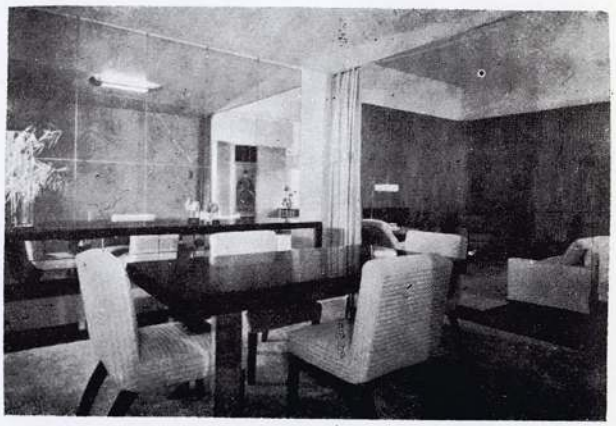
平面圖



西側外觀



居間



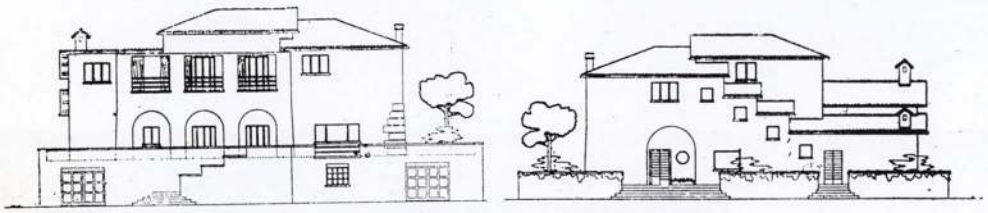
食堂



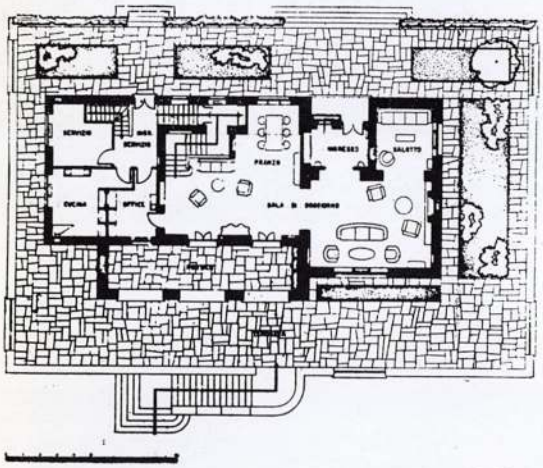
正面玄關側外觀



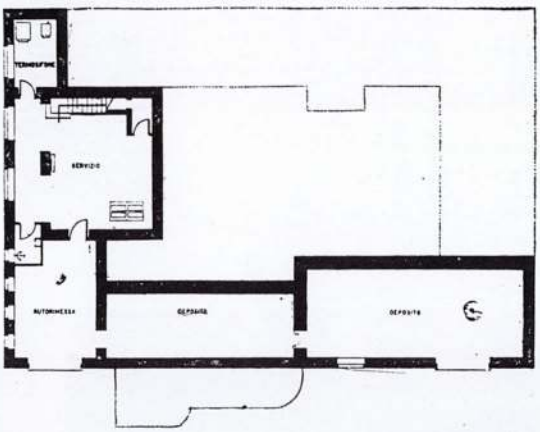
庭園側外觀



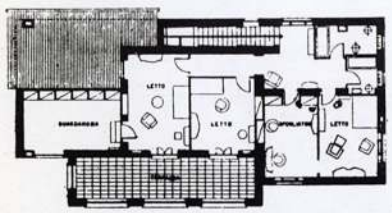
立面圖



1 階平面圖



中地階平面圖



2 階平面圖

この住宅は1934年末ローマ近郊アルバニ丘に建られた。この住宅はそれに集ふ人の爲めよりは寧ろその使用からヴイラ（Villa）とも名付けることが出來る，とは云へ建築家は環境と周りの風景に適合し，材料の使用に，形と色の取扱ひに，自然的にと名付けられるべく，簡潔に而も氣取らずにやつてゐる。その構成に土俗的に墮する所なく，獨自的に現存の流行にもとらわれてゐない。優れたモデルや不適合なものに追隨することなく，この建築は健全である。この住宅はコリ丘からローマ平野と海岸へ向ふ下り坂の上に建つがその部屋の構成その他は別圖の通りである。（Architettura, Nov., 1939 より）

22 （イタリー） 野外住宅 建築家・Mario Tufaroli Luciano

Somes Sound 灣の奥，岩の多い海岸の突端に建てられた一風變った夏の家。

設計者の Howe の言つてゐる如く，2本のカンテイレバーで海面に向つて長く突出された居間の部分に依つて，海陸の風景の間に渾然たる聯繫を生ぜしめる効果さへあるかに見える。

建物は木造平家建であるが，後部の主要建物は道路と同一面にあり，海に突出した居間の部分は約1階分だけ下方に位し，階段で聯絡せられてゐる。

居間の前面に更に張出された露臺からは，「幸運の岩」をはじめ灣内の風景が一望の下に收められ，恰も船の甲板上にゐる様な感があるといふ。

工事は機械設備を除くほか全部土地の施工者に依つて行はれ材料も大部分その地方に出るものを利用してゐる。例へば，建物の基礎や巨大な煙突等に使用した石は全て敷地附近から集めたもので，それを岩盤の上に少しも掘方をしないで積上げたものである。

その石の色と防腐劑塗の杉下見板と銀灰色の屋根板とがよく周圍の環境と調和を保つてゐる。

窓及手摺は淡灰を帶びた琥珀色に，庇裏は淡青灰色に塗られ，廣く開かれた窓は室内外を渾然一體のものとなしてゐる。

主要な部屋は全部南向きであるが，長い屋根庇が夏の太陽の直射を救ひ，又西南風の風通しは蟲を吹き散して蟲除網の必要を無くしてゐる。

配置圖に見られる様に，この建物は全計畫の一部で艇庫に連絡した子供達の住居と，主人の住居とは別に計畫せられてゐる。それ等が完成した暁には，この建物は客用として又全家族共通の居間及食堂として使用せられる豫定になつてゐる。

内部壁は主として¼吋厚のベニヤ板張で階段室には持主自身の作になる壁畫がある。

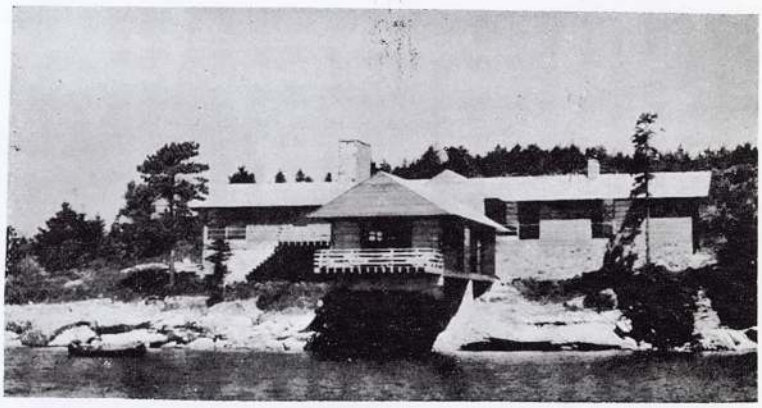
小屋組の蘿梁を延すことに依つて庇裏と室内天井とが同一面になる様に仕上げたのも一工夫である。

建具は何れも引戸，家具は輕快な木製で食堂用のものゝほか屋外，室内兩様に向く様に作られてゐる。

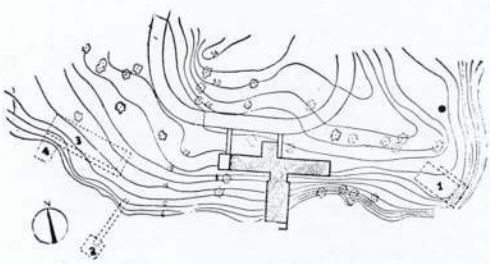
(Architectural Forum, Dec., 1939 より)



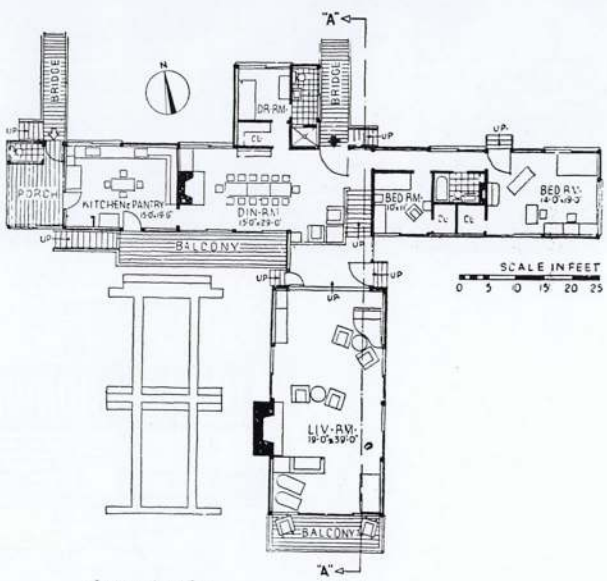
居間の部分外觀



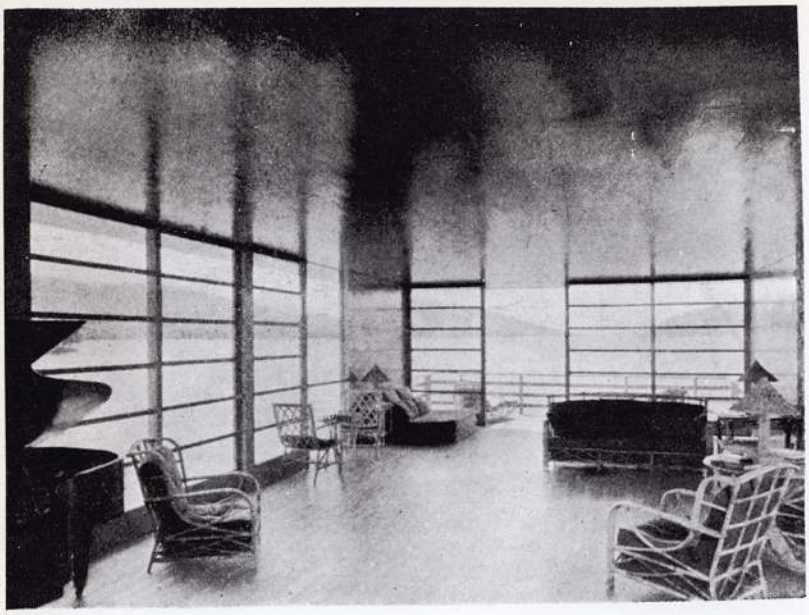
全　景



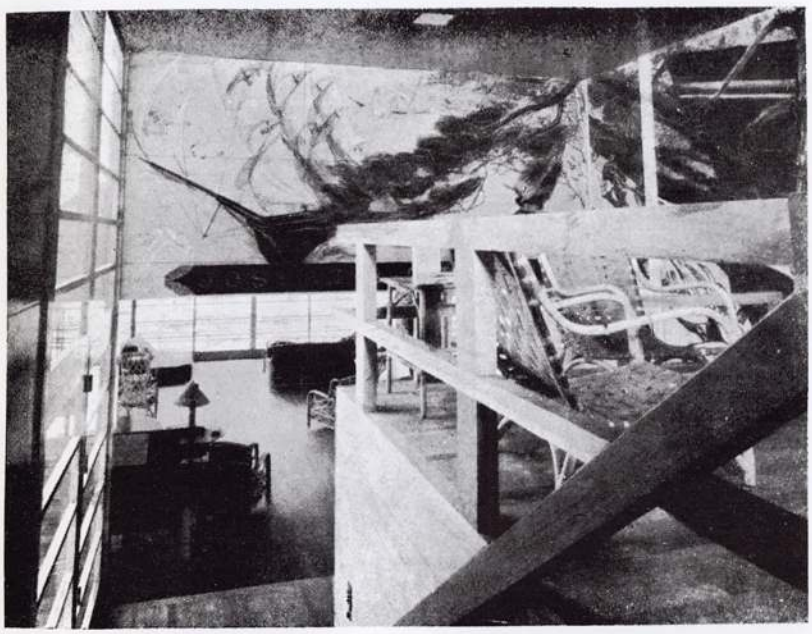
配　置　圖



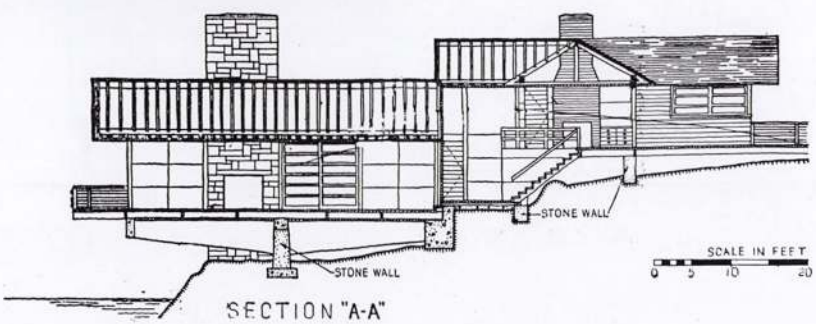
カンテイレバー
平　面　圖



居間内部

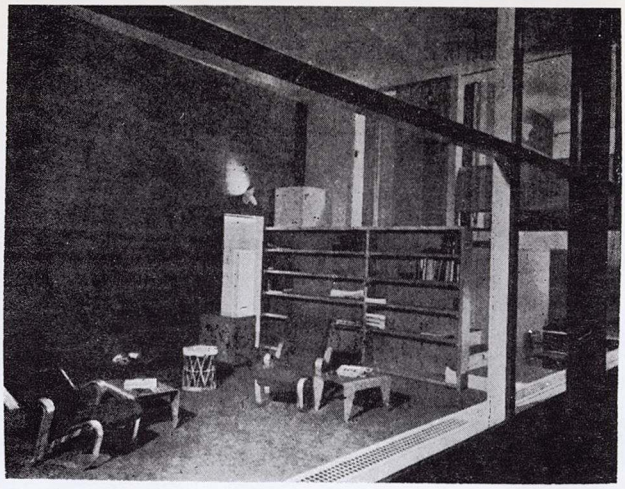


階段上部より居間を俯瞰す

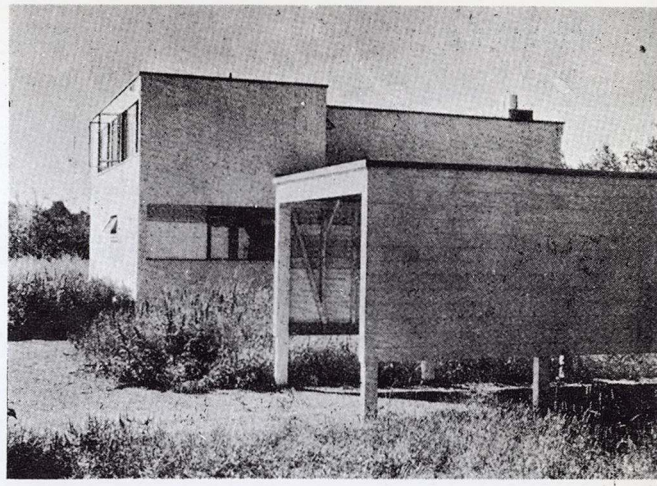


断面圖

24 （アメリカ） サンマー・ハウス 建築家・George Howe



居　　間



外　觀　1

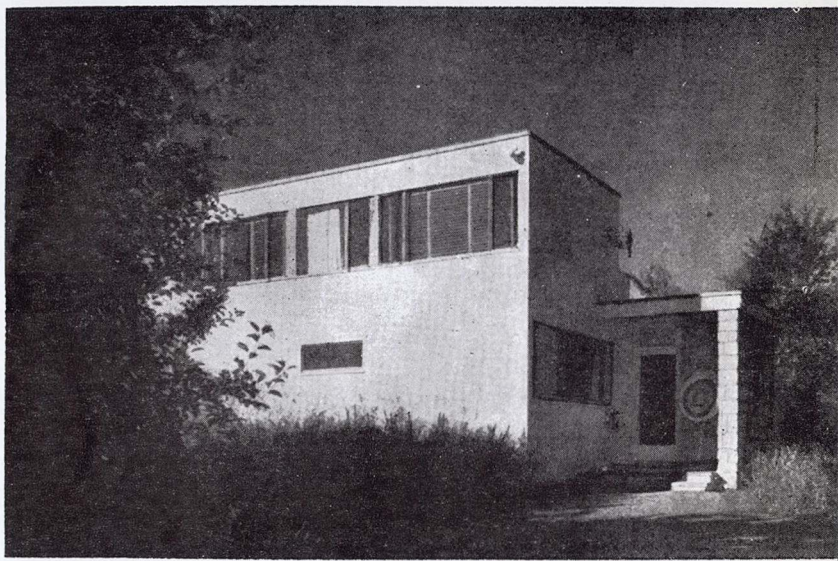
建築家 Breuer が自分の爲に設計し家賃を拂つて住んでゐるものである。

建物はポーチ，居間と寢室及び食堂と作業部の3部分に分たれ，木造と石積とを混用した壁體に依つて極めて幾何學的に區切られてゐる。居間の部分は2階分吹抜きで石積と羽目板張と巨大な格子窓とに依つて圍まれ，寢室は居間に面する中2階に設けられ簡單なスクリーンに依つて居間上部と區切られてゐるのみである。

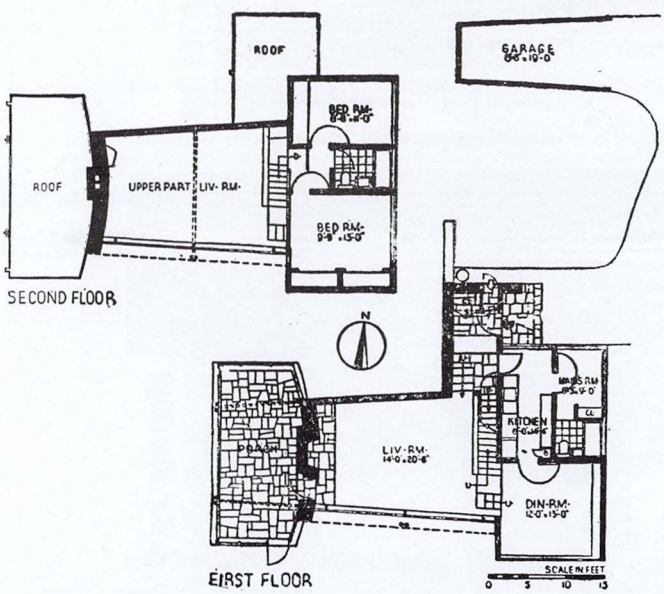
但，必要に應じてカーテンが閉められる。

照明は壁に取りつけられ望みの方向に向く樣に工夫せられたもの，家具は全て Breuer の設計でベニヤを曲げて作つたもの，英國では商品として製作されてゐる。

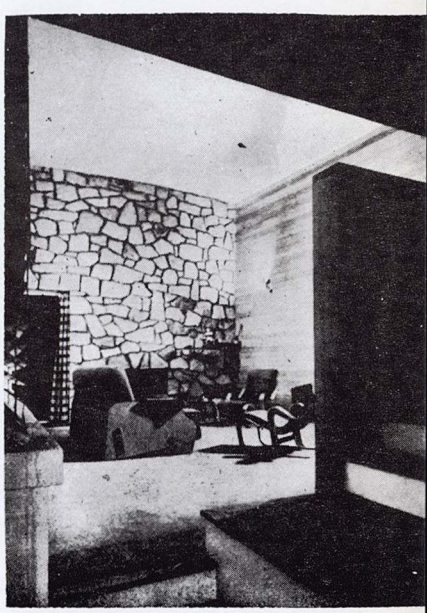
（Architectural Forum. Dec., 1939 より）



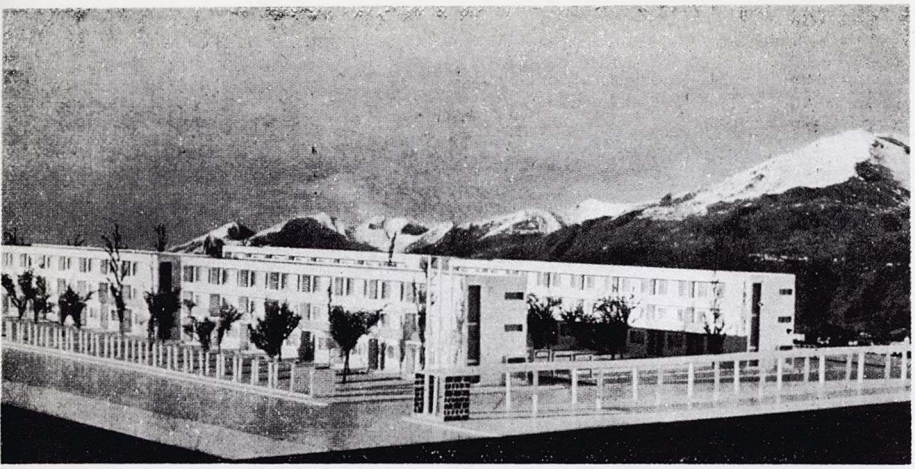
外　觀　2



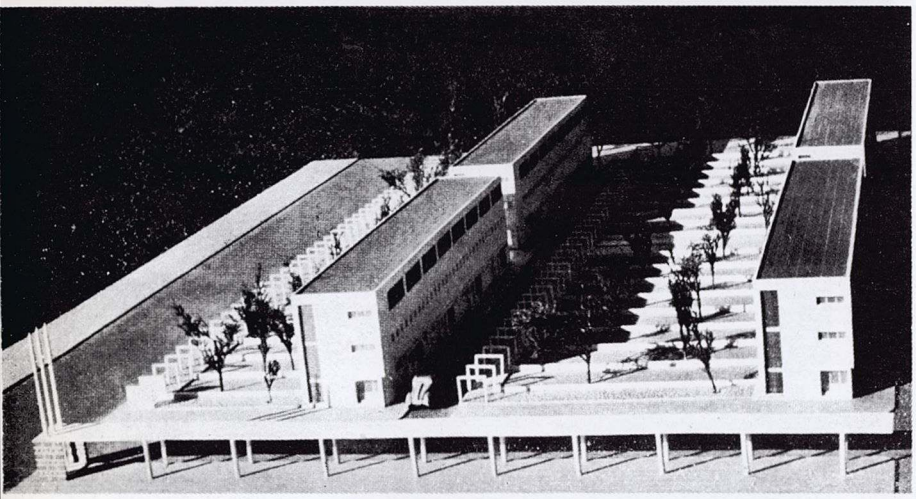
1 階 平 面 圖



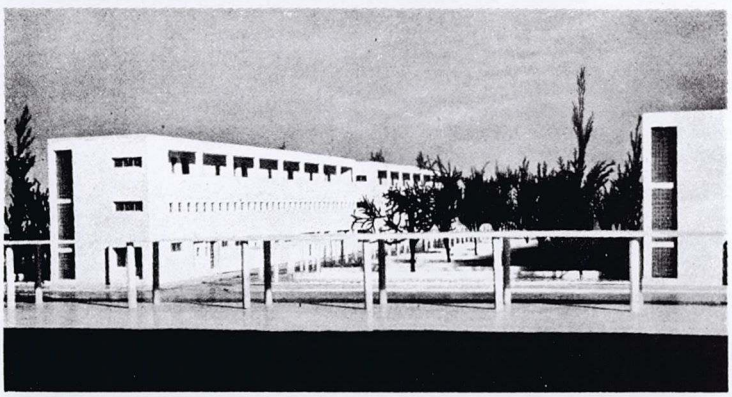
食堂より居間を望む



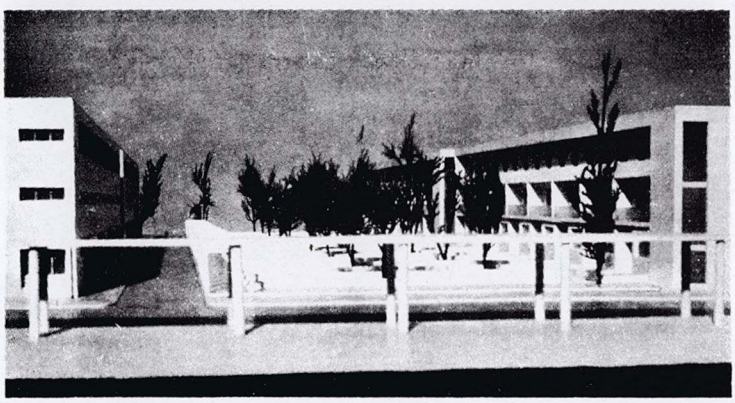
第1期計畫模型



第1期計畫模型

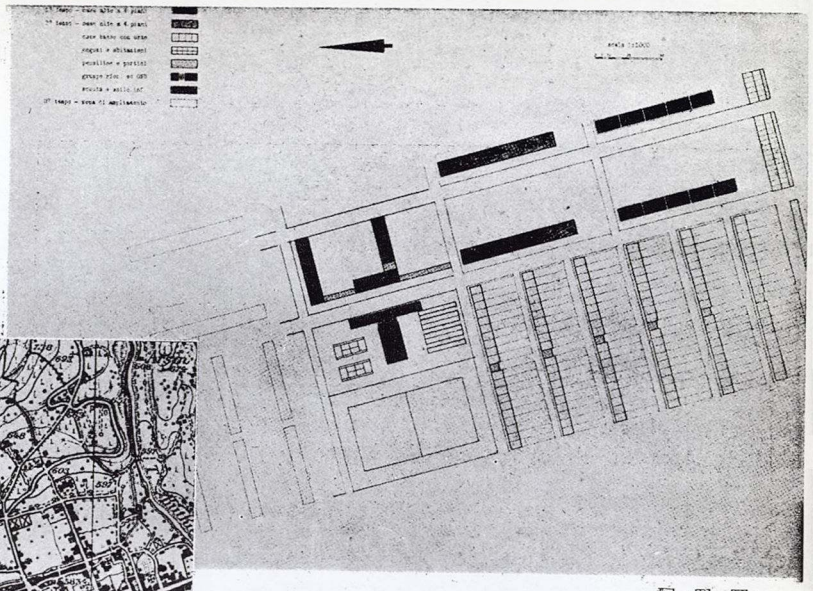


第1期計畫模型

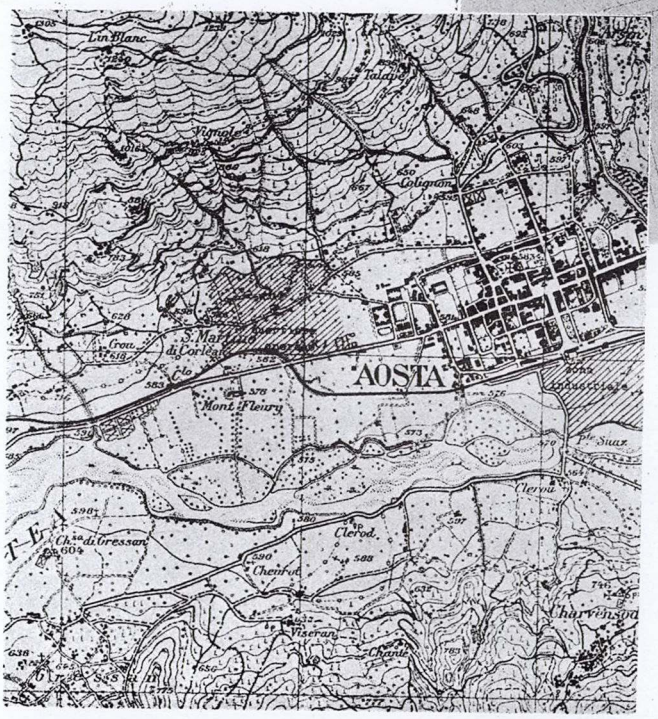


第1期計畫模型

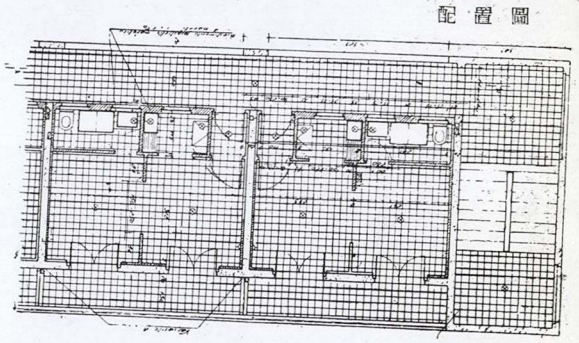
II 26　（イタリー）　Aosta の新住宅計畫　連築家・G. A. Bernasconi　技術家・I. Lauro



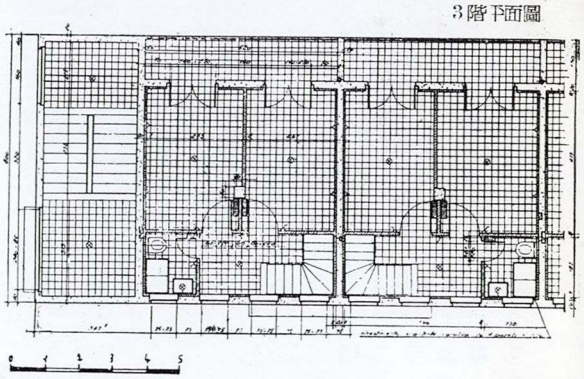
配置圖



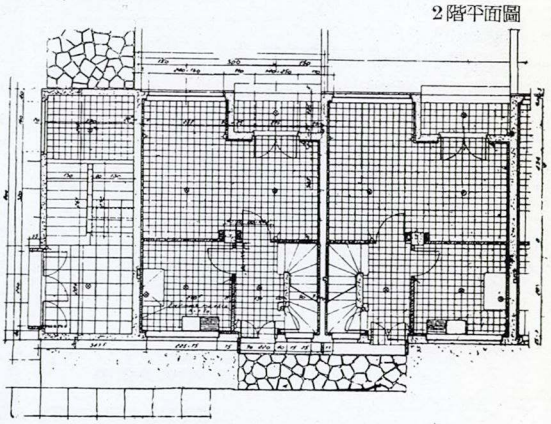
アオスタ溪谷地方の地圖



3階平面圖



2階平面圖



1階平面圖

アオスタ地方に於ける植民のための住居計畫である。

第1期計畫の地區面積ハ 130×80=10,400 平方米。

その解決は3階乃至4階の中層集合住宅を以てして居る。その建物を並列して配置し，方位はS－SE向きである。計畫には，その經濟的基礎も構造強度も詳細に計算されて居る。

第1期計畫の24戸の小住居(第3階)及び同數の普通住居（第1及び第2階)について，各々家賃80リレ及び200リレとなつて居る。

故に，200L×12ヶ月×24戸…… L 57,600
80 ×12 ×24 …… ” 23,040
計 L 80,640

他方經費は
土 地…… L 150,000
構 築 費…… L 1,150,000
そ の 他…… L 200,000
計 L 1,500,000

されば，その比率は 80,640÷1,500,000=5.38%
となつて居る。

構造で注意す可きはその屋根の，鐵筋コンクリート・シエル構造（シヤーレン）で，その詳細は第3圖の2に出て居る。

ひるがへつて伊太利最近の住居聚落計畫の發表されるものを見るに，ドイツとは行き方を逆にして中層或ひは高層の連續集合住宅が多いやうである。しかもその敷地割は單純な細長い格子型になつて居る。之は要するに土地利用狀態，國民生活樣式等によるものであらうが興味深い對照を示して居る。

(Casabella. Nov., 1939 より)

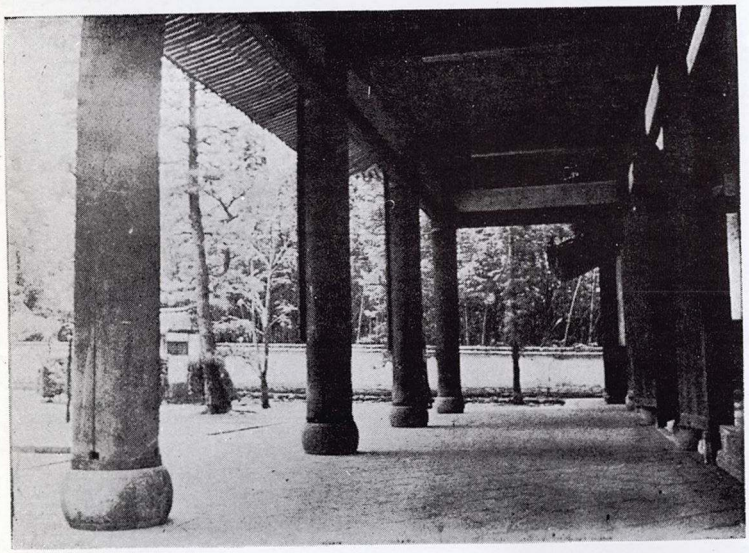
（イタリー） **Aosta の新住宅計畫** 建築家・G. A. Bernasconi 技術家・I. Lauro

古建築新抄 (12)

藤原義一



1. 萬福寺總門



2. 萬福寺三門

三門は三解脫門から來た言葉で山門とは意味がちがふ。三門は元來禪宗伽藍特有の門であるが禪宗以外の寺院にも時には見受けられる。

支那式建築

もともと日本の佛寺建築は支那から渡來したから支那式建築である。併し日本に入ると同時に日本化され，その後長きにわたつて日本的發展を遂げて來たのでこれは立派な日本建築である。その中に，或る特殊な事情に依つて純支那式をそのまゝうつして造られた伽藍がある。京都宇治の黃檗山萬福寺，長崎の崇福寺，興福寺，福濟寺等がこれで何れも禪宗一派の黃檗宗に屬し明の建築に成る。萬福寺は承應三年に來朝した支那僧隱元の開基で寬文元年に始め，元祿，寶永といふ頃に全伽藍が完成した。その配置は一般の禪宗伽藍と大體似てゐるが，特殊な箇所も少くない。

先づ總門があつて次に三門がありこれから奥へ一直線上に天王殿，佛殿，法堂が置かれ，天王殿の左右から奥へ廻廊が廻り，その兩方に鐘樓，伽藍堂，齋堂，鼓樓，祖師堂，禪堂が向ひ合つて建ち，法堂の兩脇には方丈もある。地形は前から奥へ行くにしたがひ建物は總門の形態が既に珍奇であり，大棟には鯱に似た摩伽羅を上げ，主要な建物には棟の中央に寶球をのせてゐる。圓窓を設けたり，蛇腹天井があつたり，太鼓の胴形の礎盤や一種の組子を組んだ勾欄など如何にも支那氣分を橫溢させてゐるが，この支那氣分の更に純粹で濃厚なのは長崎の諸伽藍である。

京都市の內外には尙ほ一二黃檗寺院があり，小規模ではあるがそれぞれに支那式を發揮してゐる。



3. 萬福寺佛殿

大雄寶殿とも云ふ，前方の石階を上つたところが月臺と稱する平場である。

4. 萬福寺佛殿內部

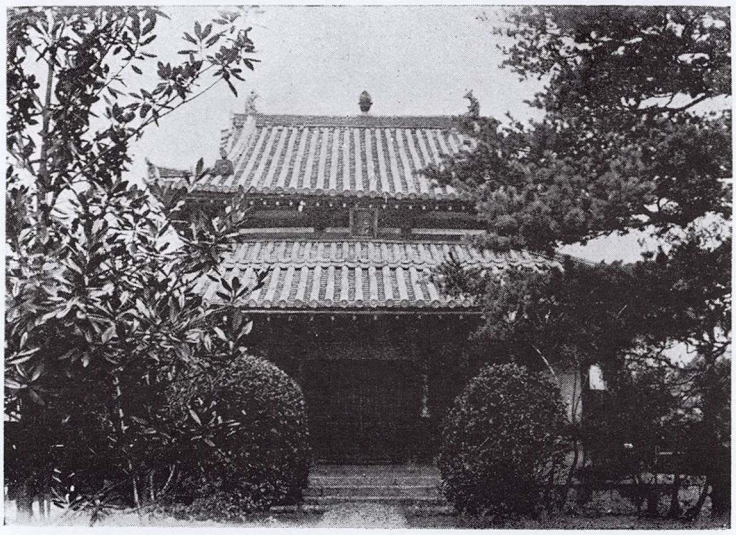
この建物の用材は當時輸入されたチーク材と傳へられてゐる。床には藁で編んだ圓座が多數並べてある。禪僧はこの上に伏して禮拜する。



5. 萬福寺法堂

正面一間通りは吹放となつて上は謂ゆる鏡天井である。突當りは方丈の上り口で旅僧らしいのが訪れて來て式臺のところに打ち伏してゐる。暑い頃で晝寢してゐる樣に見えるが中々どうして或るきびしい作法によつてこうして何時も頑張つてゐるらしい。





6. 黃蘗佛殿の一例

これは京都市內烏丸鞍馬口の西方程近いところにある黃蘗宗佛殿の一例で寺名も場所も今ははつきり覺えてゐないが江戶時代の中頃に造られた建物のやうに記憶してゐる。

ノボ アルミナセメント

超高級　耐鹹 耐寒 耐火

六時間コンクリート



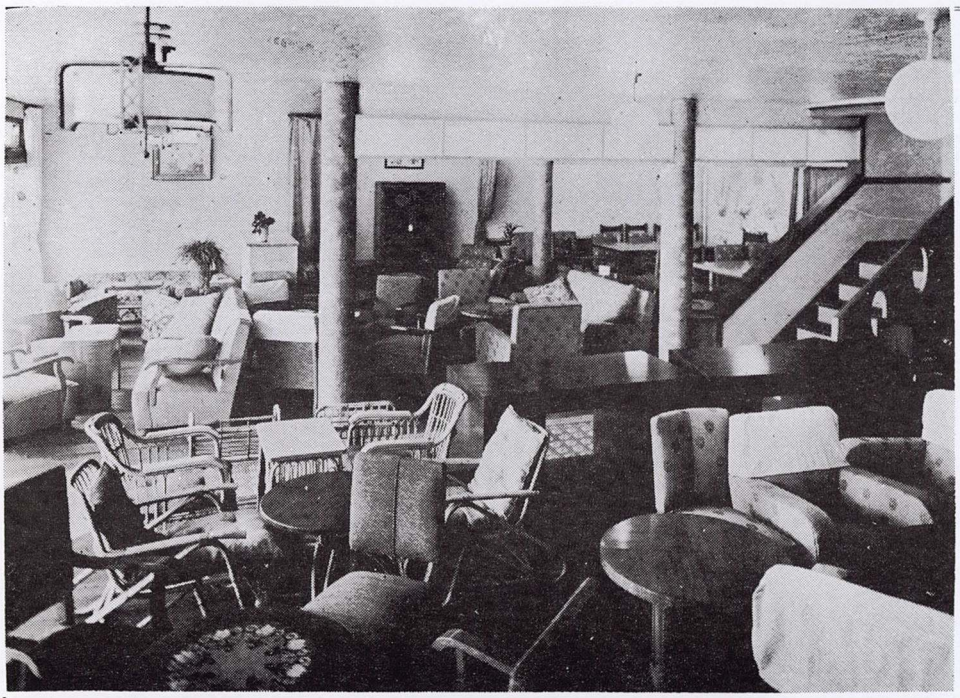
大阪窯業セメント株式會社

6 HOURS CONCRETE

1:2:4 水比 65 6時間 217㎏/㎠ 28日 410㎏/㎠

1:2:4 水比 45 6時間 300㎏/㎠ 28日 580㎏/㎠

施工6時間後
完全使用が
出来ます



作品陳列場

寧樂屋（ナラヤ）家具裝飾店

大阪市西區南堀江通1ノ34（木綿橋電停前）

電話 櫻川 ㊸ 2663. 7923



日本病

中筋麻芳

日本には、奇妙な風土病がある。風土病であるから、無論、日本獨特のものであつて、アメリカにも、ヨーロツパにも、アジアの他の國々にも、それは見られない。この病名を『日本病』と稱するに就いては、然し、一應の考慮をなす可きであらう。いまはしい病名に、貴い國の名を冠することは、私としても異論がある。にも拘はらず、强ひてかく名づけたわけは、患者に反省を求めるためには、たゞぼんやりと「日本の風土病」などと云ふより、その病氣の本性を現はすような病名を遠慮なく突きつけた方が、一層有效であらう、と考へたからである。

かゝる病名の風土病のあることを、遺憾とされる同志諸君は、私と共に、その撲滅に力を盡されるよう希望する。

さて、『日本病』とは、そも如何なる病氣か一言にして云へば、『日本人が日本にかぶれる病氣』である。又、『偏狹なる國粹主義』である。我々の歷史に於いて、かゝる病狀を呈した時代が、あつたかどうかを知らぬが、事を現在の狀態に限つて云ふならば、近頃の我々は、正しくこの病氣の患者である。

色々の文化的方面に於いて、我々は行きづまつてゐると稱せられる。建築の世界の行きづまりようは、又格別である。行きづまつて進まず、膠着の狀態から抜け切らうとして、多大の焦慮を感じ又極めて大なる足掻きをなすは當然である。こんな場合に、一片の藁片でもつかもうとするのは人情である。最近の數年間、我々の眼前に浮遊した藁片は、我々の過去の姿であつた。我々は祖先の殘したものの眞さが判りだして來たような氣持ちになり、あらゆる古いものに、大きな誘惑を感ずるに至つた。藁片が藁片としてではなく、立派な救命器に見え始めたのである。今、日本中の建築家を見廻して、その中に、一人として、かゝる心的經驗を持たなかつた人を發見することは出來ない。若し、私の觀察に洩れて、かゝる人があつたとすれば、その人こそ、『日本病』にかゝらなかつた幸運なる人と云ふべきであるが、恐らく、そんな人はあるまい。即ち、多くの、殆どすべての建築家は眼を我々の過去に轉じた。そこには、祖先の殘した傑作が賑々しく建ち列んで、色々のことを教へて呉れる教材の如くに發見された。そこで、我々は大きな喜びをもつて、機構の再檢討と稱し、或は、古代文化の精神の吸收であると稱して、その模倣を開始した。模倣は藝術の始めである。出發をそこに始めることに異論はない。ここまでは健全なる道である。然しながら、模倣することによつて果して何が得られたか。模倣は遂に模倣に終つた。模倣以上の何物でもなかつた。我々は古代の建築家の作つた美しい面を見た、それを己れのものにした人は然し幾人あつたであらうか。又、優れた比例を、構成を見た、然し、我々の中の幾人がそれを再現し得たであらうか。我々の爲したところは、茶室建築の再現であり、コンクリート製の唐破風であり、城郭の屋根の、壁のただそれだけの當り着であり、であるに過ぎなかつた。もつと悪いことは、現代人の生活をさへ、かゝる過去の方法によつて規定せんとする一般的傾向に對する、建築上の協力である。

かゝる過誤の原因を、私は行きづまり打開の窮策として說述したが、又、次のような原因も考へられる。即ち、世界が、化學の進歩によつて、非常に壓縮された、その結果、誰もが、知性に依る藝術の相違といふことを痛切に知らしめられた、といふことが、その藝術の時代に從ふ一貫として考へ始められたためでもあらう。又、明治、大正を通じて歐化への反動もあらう。然し、ここに、もつと大きな原因を擧げておかなくてはならぬ。それは我々の『無力』或ひは『空虛』といふことである。現代の時代的無力、時代的空虛が、この日本病につけこむ隙を與へたことは見逃せない事實である。我々は如何に無力か？又如何に空虛か？

我々は古社寺の修繕と稱して、つとめて、古い時代の佛を新しい材料の補ひを以つて、保とうとする。祖先の藝術を永へに殘さうとする努力である。かゝる事業の貴いこと、技術上の困難さ、從事する人々の眞摯な態度、すべては敬服の限りではあるが、（それは勿論、それでよいのであるが）我々は古代の塔を修繕してさへ居ればそれでよいのであらうか。塔を修繕する技術だけは昔なみのものを持つてゐるけれども、我々は一向に現代の塔を作らうとせぬではないか。新しく塔を欲する塔を求める、何物も我々にはないのではないか。建築とは、求めるものに形を與へる藝術である。求めるものさへないのにどうして形を與へることが出來よう。我々には希求する力さへない。氣力なく生きる我々である、無力そのものである。我々は空虛である。我々は、先代の商賣盛なりし時の大幅帳を出して眺めたり、古いのれんを持ち出して繕つたりしてゐる、あはれなる二代目である。商賣は地に落ち、やたい骨は傾いて、落日の悲運を昔に返す氣力なき三代目である。沒落は近きにある。かゝる悲境こそ、日本病にもつて來いの溫床であつた。

我々の祖先は、土地を求めて、この島に來り、類稀なる國家は建設された。以來、困難なる歩みはつづけられたが、それは專ら新しい文化への前進であつた。時に政治への努力であり、產業への整備であり、或ひは宗教への探求であり、日本精神の確立であつた。かかる努力の繼續のもとに、東洋の一小國は一歩一歩堅實なる前進をつづけて今日の世界の日本になつたのである。しかも、今日の建築家が爲し得るところは、祖先への弱々しい追從に過ぎない。榮光ある祖先の業に報ゆるしのが、現代建築家のこの無力なる追從であつて、果してそれでよいのであらうか。家財を蕩し果さうとしてゐる道樂息子 ── これが現代建築家の姿である。この道樂息子は祖先の苦勞して儲けた、小判を鑑賞し、これを撮影し、これに手入れをしこれを鑄つぶし、現代向きの金製品を作ることに馴れてゐる。然し、祖先が蓄財の努力を眞似ようとはしない。小判は色々と姿を變へて現はれるけれども、少しづつ消耗されて減つて行くのみである。紀元2600年の輝く年に生きて、我々がかかる態度を以つて歷史をたゞ日月だけの經過に放置することは許されない。

『我々は日本人である』『日本人には日本人の道がある』『よろしく、我々の祖先の道へ歸れ』などの聲が盛に聞かれる。これらの提唱はすべて正しい。然し、正しくないのはこれらのことばに與へられる解釋である。祖先の道は、實は、更にその祖先への復古ではなく、不撓不屈の研鑽であり、不斷の前進であつたことを見逃してはならぬ。傳統とは『不斷の前進』である。過去の研究は勿論必要なことである。が、過去の姿をそのまゝ、現代に再現することは、我々の建築が、生活が、復古展覽會のモデルでない限り、つつしまねばならぬ古代の遺構視るべし、古代の形態學ぶべし、が、それを製圖室にまで持ちこんではならない。

近い我々の祖先が、熱意を以て敢行したところの攘夷も、夷狄の壓力への手段で、あつてその文化をも斥けることではなかつた。

外來の文化を受け入れることは、それを機會に内面的なる發展を遂げることである。我々の間には、外來の文化を取り入れすぎたと稱して、過去への回想に專念するものもある。これは一種のノスタルジアである。外來文化の取り入れが過ぎたのではなくて、不消化に陷つたのである。消化力の足らぬ、食ひすぎである。まだまだ、外來文化の榮養を攝らねばならぬ。歷史をみよ。日本が新しい外來文化の受け入れを行つた場合には、必ず國家的自覺を持つてゐたことが、うかがれる。この國家的自覺の統理のもとに受け入れられた外來文化が、そのときまでになかつた新しい文化を建設した。その時期は日本が新し世界に君臨した時期と同時になつてゐる。我々の世界としてアジアを限つたとき、我々の世界として歐米を限つたときそして今我々の世界として新しく世界全體の世界に直面した時我々の國家的自覺は充分だ。日本病も、一つはこの國家的自覺の偏狹なる現はれの一つと見るべきかも知れない。然し今見逃すことの出來ないのは世界的理想への進攻である。國家的自覺を發展せしめて大きく日本を見るべきである。我々は一人殘らず大陸經營の大事業に參劃し新文化の形成に努力を致さねばならない。

『日本に歸れ』かゝる提唱は、風土に對する認識の如くであり、又國家的自覺の叫びでもあるかの如くであるが、實は、行きづまりに對する窮策であり、探し當てたところの迷路に過ぎない。日本から世界に出でよ。日本の門を世界に向つて大きく開け。我々はかかる門頭に立つ、生氣あり健全なる建築家である。日本病にかかつた建築家は、『日本に歸り』そして門を閉ぢる狹量なる心情の持ち主にすぎない。健全なる建築家は、この年、何をなすべきかを了得せられたであらう。單なる過去への回想は、回想だけで終ることは、イージーゴーイングの道を歩むものとして非難を甘受せねばならぬであらう。

我々はこの年を2600年の歷史の終止符としてはならぬ、新文化への第一段としてこの年を出發の時とすべきであらう。我々はかかる時に、幸にも生を享けたる建築家である。　(14.12.25.)

ベルツとタウト

堀口甚吉

☆ベルツは明治9年日本の地をふみ故國獨逸に歸りしは明治39年この30年間、日本醫學のため貢獻されし人で「ベルツさんでも草津の湯でも……」.

といふ歌がある。これは米國人で有名な「ヘボンさんでも……」と兩樣に云はれるが、とにかく日本に貢獻した獨逸人の醫者である。

☆ベルツの日本滯在中の日記の大部分が

「ベルツの日記」

と題して濱邊正彥氏によつて飜譯され昨年の夏岩波書店から出た。私は當時これを通讀し甚だ興味を感じ同じ頃に出版され且つ同じ頃讀んだ。タウトの「日本美の再發見」岩波新書と比較して、いろいろの考へがうかんだのである。

☆私の考へる所によればブルーノ、タウトは我が建築界から甚だ不當の過評を受けてゐる樣に思はれる。私はタウトの

「ニツポン」

「日本文化私觀」

の二册を通讀した所感をかつて本誌にのせ、彼の日本文化觀の極めて淺薄なものであることを述べたのであるが、これ等二書に對する他の建築家の批評を拜見すれば、タウトの考へに充分の讀辭を呈してゐた。私は當時からそれを不思議に感じてゐたのである。

☆建築世界14年12月にも白石博三氏は「日本的建築と滿洲建築」

なる文章中、タウトの言葉を何か權威ある樣に引用してゐられるから、まだタウトの言說を讀む

建築家も少からぬやうであるし、且「日本美の再發見」は文部省の推奨圖書にもなつてゐるので、一般人の讀者もあることと考へるので同書通讀の所感を記述する次第である。

☆タウトの日本觀に私があきたらぬのはタウトが日本に對していだいた根本觀念が、我が日本を目して劣等國視してゐることである。タウトの心酔者は、私の上の言葉に對してどの本の何頁に左樣な言葉があるかと、反問されるか知らないが、私はタウトの日本觀のすべての著作のすべての頁にありと答へたい。

このタウトの根本觀念を握持せずして、タウトの言說の末節に心酔するとは、如何に建築家が文化に貧弱なものであるかがわかるのである。

☆又或人は云はん、それは白人種すべての先入觀念で、この日本人劣等觀を持たぬ白人はないと。然し、同じ獨逸人であるベルツでも、又タウトが日本美の再發見に引用した米國人モース（Morse）でも、タウト程の日本人に對する輕侮感を持つてゐない。

明治9年來朝していくばくもたたぬベルツが書いた日記（タウトの如く公刊を目的とした日記でなきことに注意）に「…余は多數の學校同僚（帝大醫學部の外人教師）に面會したので、勢ひ、忽ち日本の國情に關する熱心な討論となつたのである。

余が此の夜聞いた總べては將に當面せんとする事物に對する余の考へを、破壞する事を目的としたものであつた。蓋し、人々は余を妄想に憑かれたる者と做し久しからずして此の妄想から覺醉せねばならぬ破目に屢々逢着するであらうと言つた。

余は直ちに言明した——余は冷靜な審判者として來朝せるもので、斷じて妄愛者として來れるものでない。且又、日本の萬物が必ずしも歐洲と同一でないのは自ら明かなる所であると思ふ、しかし余は、餘り失望しない。蓋し日本人が歐米人に對して不信なりとするも何等不思議が無いからである。日本人は嘗だ屢々欺かれた事があるのだ、要するに、余は靜かに待ち得る忍耐心を持つてゐる。また待つ事を得策なりと考へる。事實待つ決心であると。……」

以上をみても年齡27歲のベルツが、明治9年の未開の日本を如何に感じてゐたかがわかる。

此れと比較してタウトの「飛彈から裏日本」の旅行記に表はれた日本觀など、憤りさへ感じる位である。然るに「新建築」の記者は「日本美の再發見」を紹介した文に我々は顏を赤らめなければ讀めないやうな所がある……とかあつたが、私をしていはしめれば、こんなことを日本人として書くのはドウかしてゐるのでないかと思ふ。

☆タウトは「日本美の再發見」とか何とかいつたが伊勢神宮と桂離宮が美しい。秋田の子供の雪まつり「カマクラ」が面白い。といつた外に何があらう。

伊勢神宮、桂離宮の美、云々は我々日本人に於ては批評以外のものである。我々は建築樣式に於て伊勢神宮、桂離宮のことを學ぶも、これを美的評價の對象物にはしないのが日本人の魂である。美、壯、聖、總てを備へ、日本人としては、仰ぎながむるといふ事さへせぬが、眞のすがたである。誰れか神宮に參拜して、キヨロキヨロそこらに美を發見してゐる日本人があらうか、又離宮の拜觀に行つて、普通建築物と同列にこの美的鑑賞をしてゐるものがあらうか。これをなす人あらばその人は最早日本人の魂をなくしたんである。

☆又秋田の子供の雪まつりが何で面白い。これ等をとりあげて美を發見してもらはなければならぬ程、日本人の美に對する心持は粗大なものでない。我等がアイヌの小刀の毛彫彫刻をよろこび南洋土人の手細工を珍らしがるのとタウトの日本觀と何等の差がない。

☆タウトは日本現代の帝展をみせてもイカモノですべてをかたづけるであらう。只勝平氏等の版

書のみは面白いといつてみるか知れない。しかしこれがなんで日本美の再發見であらうか。

☆タウトは日光東照宮の建築をけなす。由來建築は東照宮の建築をけなすのを特權の如く考へてゐるが、これ等もどうかと思ふ。タウトは同書96頁に

おお小堀政一よ

おお芭蕉よ　日本よ

と變なことを書いてゐるが、

芭蕉は日光に詣でて

あら尊と青葉若葉の日の光り

といふ、私のすきな一句をよんでゐる。この味わからずして、日光をけなしても何にもならぬ。

日光東照宮に美なくば、桃山藝術に美はない。

☆建築物の美の認識はその建築の目的如何を考察に入れなければならぬ。皇祖をいつき祭る伊勢神宮と、あらひと神の御離宮と廟建築の東照宮の建築とを同じ見地からみるといふのがそもそも間違つてゐる。

☆タウトの藝術觀はクラシック偏重である日本の建築家にもこの弊は多い。女の美しさでも幼兒少女、處女、人妻、年增、老婆とそれぞれに見方をかへれば美があるのだ、滿艦飾は美しくないといふのはチトどうかしてゐる。

☆先般も都鳥の中野氏と話したのであるが元來タウトは日本の婦人に對して、人としての美を發見しなかつたのでないかと思ふ。それにくらべるとベルツは、後に日本婦人をめとつた事からもわかるやうに、日記の所々に日本婦人の美しさをといてゐる。ただ概念的に美をとくのでなく、個人個人に面接の場合、必ずその人の風姿を記述し、美の特徵を具體的に記述してゐる。その國に少くとも生活し、そこの婦人に美しさを感じないやうなものに決してそこの藝術がわかる筈がない。

☆原始的、プリミチブとして美しさを再發見してもらつて喜ぶ程、日本人は美に對して盲目でない。

☆「日本美の再發見」をほんとうに日本人に教へた人は歸朝當時の永井荷風氏である。荷風の

「紅茶の後」

「江戸藝術論」

「日和下駄」

等は日本美の發見に對して我等建築家の目をいか程ひらいてくれるかわからない。此等と比較したらタウトの日本觀など子供だましの外、何物でもない。（15年1月9日）

堂々たる咳

山口　正

どこの家庭でも見られる事であるが、親父の『エヘン』といふ咳拂が聞こへると、それまで爭つてゐた小さな兄弟は急にストツプして靜かになる。子供達は一つ屋根の下に親父のゐることを忘れる程の興奮に於て鬪ひを始めたのであるけれども、突如として起る警報に忽ち壯烈なる鬪爭に終局を與へてしまふ。こんな場合の咳拂は、いはば『靜かにせんか！』であり、『即時停戰』の威嚴的命令の咳である。筆者が日頃馴染んでゐる咳は上司の最も堂々たる咳拂であつて、夏日漸く鉛筆を落さんばかりの睡氣に襲はれる時、その一咳に遇へばあたかも氣合をかけられた如くに忽ち生氣を取り戻し、或は冬空のもの現場のストーブからミキサーの傍へ跳び出して行く程のものであるが漸して月給取根生は徒らにけむたつて、この咳拂故に命を縮める程の思をするものらしく、氣の小さい輩になると、びりびりして終には咳拂の假想に眞夜の夢を破られたりするそうである。筆者もとより、小心組で、一咳に遇へば忽ち心身共に縮みあがつてしまふ方であるけれども、妙なもので聞き馴れた咳拂のたまに聞こへない日があると、何か氣が拔けたようで物足りない事夥しい。そんな時には、この咳拂の妙味といふか醍醐味といふ

か、一種の清涼感が思はれて、平素は刺戟を感じる咳拂に懐しさを感じたりする。これはその咳拂の意志明瞭にして巍然たるものである事によるのかも知れない。思ふに、近頃人間はするく利口になつて、世渡りばかりが上手になり、こんにやく玉の如く角がとれて、旗織は頗る鮮明を缺き、堂々たる態度のもとに所信を斷行し毀譽褒貶に捕はれずといつた氣概の士は稀にしか見られぬ。多いのは筆者の所謂『流線型人物』で、この世のローズ物的役割を務める人々に過ぎない。堂々たるを放つて、威嚇もよし、指導もよし、統理もよし、所信に猛信して責任を明かにする如き人物が、建築界にも澤山登場されるよう希望してやまぬ次第である。

筆者もとより、自ら咳を拂つて人を導くの柄ではないが、（それどころか毎日縮みあがつてゐる組である。）試みに堂々たる咳拂を建築界に放つて見ようと思ふ。對象には、時局柄徒らに高度の空論に走らず、現實的な問題をのみ選ぶことにしよう。

衣

先づ婦人の頭髪の問題。パーマネントの發達を阻んだ最近の所業は、日本婦人の美しさの爲めに殘念な事であつたと思ふ。氣の利いた化物ならひつこむ頃になつて、今更パーマネント論でもあるまいが、日本婦人の從來の頭髪や姿態がどう考へてみても美し比例に於いて成立つてはゐなかつたのに、漸く、これによつて解決の端緒を摑んだと思つたのも束の間、猛烈なる野次馬的追從迎合者の排斥に逢つて、影を潜めてしまつた。筆者とてもこの頭髪の形式が最上のものと思ふ者ではないけれども、これを以つて日本婦人の姿態美をいくらか增すことは出來たとは思ふのである。たゞここに指摘しておきたいのは、その追從迎合者達の排斥論の立論の虚弱さである。形態美に於いては無論從來に比を見ぬ優秀さを持つて居るから、この點誹謗の餘地はないし、假りに毛髪の衛生を云々爲するとしても、一方には頭そのもののための充分な通風性に償はれて餘りあり、婦人の活潑なる動作を助ける上からは完全に近いこの髪であるこういふ完全なものに缺點を與へるために、彼等が指示したのは、その舶來の故に日本精神に悖るといふのである。この云ひ方が既に間違つてゐるが何れにしても、婦人の風俗を支配し決定するものは、男性の嗜好そのものなのであるから、その責を婦人に附する如き言動は男性としては愼愼すべき事で、男性こそ自ら反省すべきものである。斷つておくが、筆者は、この頭髪の形式に蠱惑的な美を感ずるとか隨喜讃歎する態の精神病者ではない。而かも、尙將來の日本婦人頭髪の形式はこの形式に近似せるものに決定されることを豫言してはばからない次第である。

今年は國民服が制定されそうな氣運にある。喜ばしい事で、待ちどうしい限りである。制服によつて、職業を見透される事を極度に嫌がる日本人の狹量さを以つてしても、國民全體が身につける國民服といふ事になれば、否應なしに着用する事にならう。本當は國民服を態々考へるといふ事に一寸遊びの意識があるのであつて、そこが實は問題なのである。現在、國民服に對して我々の抱いてゐる觀念に從へば、それは從來の衣服とは全々別に、一つの衣服の形式を編み出す事であつて、我々の衣服が國民服のそれだけしかないようになるといつた尖鋭化たし衣の問題ではないのである。であるから、我々期待し得るものは、婦人にはモンペを穿かせ、男子には腰にバンドのある少しは寛いだ樣の洋服を決定する事位のものである。であるから、結局は世の中を一層複雜にするか、或ひは、例へば婦人の袖を切つたり、外套の飾ボタンの列を廢止するといふような、些細ではありながら、なかなか實行しがたい（が、實は最も重要な）案件に對する口ふさぎの態度のものであらうと思はれる。結局は、我々の衣服は婦人がズボンを穿くようになり、男子の服裝に於ける無

意味な飾ボタンの式のものがすべて除去されるようになつて、そうする傾向が自然に決定するであらう終局の形式こそ本當の國民服なのである、と筆者は考へる。我々は、我々の袖に幾つかの飾りボタンを附け、ズボンの裾をダブルにして、そして貧乏して、ゐるのである。

住

雨が多くて、蒸し暑くて、どうしても夏を本位の開放的なものにしなければならないし、風雨に備へて軒の出を深くもしなければならない。ことは、我々の住宅の本質的な形式を規定するものであつて、これが地域的な特性を示し、又美しさも增すのであるが、これは、風雨に曝され、又直接の、及び反射の强烈なる日光を浴びるような、郊外地の住宅に於いてこそ妥當なる方法であるけれども、家宅稠密し風雨の和げられた都會地に於いてまで同じ方法を採る事には一應の吟味の餘地があらう。煤煙のために日影は薄らぎ、狹い道路の兩側に軒を連ね壁を接して立ちならんでゐる家々電柱や街燈が更に道を狹くし、ひつかかりの多い構成に一層の混雜を醸成してゐる都會地に於いては、むしろこの合目的性のあると思はれてゐるところの軒をすつぽり切り落して、洋風の或ひはせめて土藏位の程度の軒や蟇羽を構成すべきであらう。而して、吹降り等に對する安心の爲めには、入口、窓その他の開口部の直上に小廂を附ければよい。而かも事實は、この小廂の類にさへも透光性を需め、室內に光線を導入する事を要求してゐる。軒の出る代る僅かな廂でさへもその遮光性の故に室內屋外も暗くしてゐる寃物なのである。切角1間餘りの幅員を持つ道路に接しながらその軒の出の深さの故に視界を狹められ、僅か1尺巾の細長い青空をしか眺められないような街衢の實例を誰も知つてゐるであらう。筆者はそんな隘路に立つて空を仰ぎ、或ひは隣の軒と我が家のそれで切角の小庭に慈雨の見舞を拒んでゐるような長屋建を見てはこの思を深くするのである。

軒を縮めて、青空を思ふ存分仰ぎ、光も雨も充分に迎へ得るような住宅を都會に與へたいと思ふ。昔風の家の軒の深い美しさに魅せられ、或ひはヨーロツパから逆輸入せられた軒線禮讃型に誘惑されて、洋風のビルデイングさへもがその各層に深い軒のようなものを附けられたりしてゐる現況である。我々の祖先は恐らく、今日の密集都會を想像もせずに、深い軒の家を作つたであらうし又、祖先達が今生きてゐたら、うんと軒の淺い家を作つたであらうことは想像に難くない。古い物の形式美に日本的なものを感じたり、魅せられたりする感傷は斥けられねばならない。その發生に於いて合目的なものでも、その素因に變化があれば單なる虛飾に過ぎない、時代の急激な進展は建築家の頭腦にも限りなき進歩を要求する。深い軒の出、我々は機能に竿さして實は傳統に溺れてゐるのである。

軒を切れ。そこには大きな材料の節約と防火の効果さへも附隨するのである。

文字

上述の頭髮の事衣服の事、住宅の事、それらの事にかゝる眞の改良を阻む妖しい氣分が漲つてゐることは見逃せない。妖しい氣分それは所謂日本的なるものへの憧れであつて、本當の日本の道へ歸るのではなく、過去の形骸的なものへの歸順に過ぎない。これが、社會の上層や、僅かな智識階級や事毎に社會の表面に躍り出て愛國に名を藉る陋劣なる追隨の曲を一さし舞はねば氣のすまぬ連中に限られた狂信である間は氣にもならないが、次第に浸潤の度を高めて、平素默々として働く健氣にして單純なる人々の腦裡を占めるようになつては、最早默つて見逃してはおけない。その結果は、大衆の行爲の端々にも現はれ、衣食住その外の凡ての改良論を支配する慨るべき結果を生むことになるからである。この誤謬に於て我々は文化的な退歩や國力の減退等悲しい事を負はされるのである。文字の橫書きの事メートル法實行の停滯

の事など明かにこの例である。文字を横書きにする場合右から書くか左からにするかに就いて、昨年本誌に於いても、の該博なる智識により中尾保氏が懇切なる説明を以つて左横書きの決定的なる事を說かれ、本多正道氏亦明瞭な讀成論を書かれたので、重ねて詳述の要はないが、百の說明よりも本文の如きものが右横書きになつてゐる場合を想像すれば可否自ら判然するであらう。であるにも拘はらず、今頃になつて右横書きの横行はこれ一重に誤れる日本的なるものへの追慕の麗辭である。例へば、大阪鐵道局の如き他の鐵道局や民間に率先して左横書きをポタースに採用したに拘はらず、最近『興亞奉公日』や『聖地參拜』のポスターに限つて俄かに右横書きに逆戻りした如き、明かに日本的へのあやまてる憧れの伏流があることの證據である。

3圓から3000圓まで

これは日本の問題ではない。とつくにの噂話によつて、筆者がそのとつくにの建築界に投げる一咳に過ぎないから、氣樂に讀んでもらひたい。その國の建築界のある元老がある年齡に達したので盛大な祝宴を催し、續いて、記念事業のためか或ひは記念金品贈與のためかは知らないが、兎も角建築界から金を募る事が企てられた。その寄附金高表を見ると最低は3圓位から上は3000圓位まですらりと並んでゐる。この祝はれてゐる元老は教育家でもあるし、よく後輩の面倒をみる人だとの事であるから、かかる意味で恩を受けた人々が3圓5圓或ひは100圓200圓身分相應の金額でこの擧に參加する事は美しい事でこそあれ何の不思議もないが、解きがたいのは、1000圓3000圓組がかかる大金を醵出する心理とその醵出者の顏ぶれの問題である。かゝる金額がどういふ意味合ひからその醵出者によつて奉納されたのであるかは、我々の普通の常識では解き切れぬために、我々は自分達の智腦の不足を棚にあげて、この醵出者達に共通な點や何やかやに色々と考を進めたりするのである。然し、解釋しにくひといふ事は何もその故に異議を申し立てる筋合にならないので、誰か親切な人に解り易い教示を以つて筆者の常識を補つて欲しいと云ふ、これは到つて弱々しい一咳なのである。こんなとつくにの噂話に神經を尖らす必要はお互無いのであるが、自分達の身の上に引き較べて考へてみる事も强ち考へ過ぎとも云はれまい。

人

最後に人の問題、建築界の人の問題に就いて一咳を試みる事を許されたい。長與善郎氏は『外交といふもの』の中に、『外交がいかに人生一般の事であり、又人の本能であると云つて、藝術界とか、學界とか、……餘りその必要もなかるべき筈の方面でまで自分の勢力張りにか、實名のためにか、外交的衝動が本職のようになり、誰彼は策士であるのどういふ策動をしてゐるのと云ふ話を屢々聞くのは、苦笑の限りである。生活上の必要もあつての事であらうが、多寡の知れた知惠で賢いこととも思はれない。その間にもつと優れた仕事をする勉强でもしたらよさそうなものを御苦勞さんな話である。』と述べてゐる。筆者の記述の一部を消してこの一文を借りて來た位であるから、全く同感である、こんな陳腐な問題は甚だ近代的ではないのであるがいつ迄たつてもこんな問題を取上げてものを云はねばならないような世の中なのである。永らく不景氣にさいなまれた建築家達がこの時勢に遇ふや、利害打算に憂き身を窶す有樣はどうだ。いかにそれが、生活苦から逃れるための、家族愛への、或ひはよき仕事を求めて、道であるとかなんとかかんとかの理由はつけてみても、卿か醜顏の態ではないか。假に、そのよき轉身に就いては語らずとするも、かりそめにもそんな事を考へてみる暇があつたら優れた仕事をするための勉强をしたらどうでせう。碁やら魚釣りやらで、よい仕事が出來たり生活が樂になると思つてゐたりしたら大きな間違である。いやこの問題

は諸君へでなしに、筆者自らを鞭撻するための大きな咳拂である。（15.1.1.）

田舎に歸つてみて

大石忠夫

舊臘高知に歸省した。ひどく混雜する列車の窓より眺めてみるに山間の極く小さい驛にも木炭や薪が山の様に積まれて居るのには聊か驚かされた小さい驛の荷物置場には收容し切れないので露天の下に積まれて居る。斯様な現象は其線を度々通過する自分には全く始めての事である。所に依つては米俵も一緒に山を爲して居るのもあつた。今年の冬は木炭が少ないとか無いと言はれて居るのに是は少々おかしい事だと其時は居眠りしつゝ考へて居たのであつた。

偖て高知に歸つてからの1日、昨年より開港場となつた高知港の岸壁に行くと可成りの廣さを持つて居る其敷地一杯に木材が積まれて居る。平地の猫額大しかない土地柄だけに伐り出せば木材は幾らでも出る。其伐り出された木材は大半海路をとつて大阪邊りにやつて來る。其運送の役を引き受けて居る補助帆船の相當數は軍の徴發を受けて揚子江に活躍して居るとか聞くが、未だ相當に殘つて居る。其の殘つて居るので全能力を發揮して運送すれば宜いのに其何れもが殆んど動いて居ない。肝腎の燃料の配給が充分でない。岸壁では荷役が捗どらない。爲に岸壁まで運び出された木材の山も、少しも低くならないと言ふ譯である。

先の木炭の場合も品物は相當にあるが運ぶ爲の貨車が無い。或は殆んどないと言つてもよい位に輸送の圓滑を缺いて居る。其爲に需要地への發送が出來ない。然う聞かされては成程と頷かれる。各驛に1輛のあいた貨車がない。貨客列車にしても急ぐ小荷物で一杯だし、第一、人間の輸送も圓滑に行つてない。まして木炭や木材に於ておやと言ふ處らしい。

農村に入ると此1年間に大分變つて居る。何となく活氣がある様に感ぜられる。兵隊に行つてない青年は多く都會に出て人手の乏いため百姓の日傭給料もなかなか高くなつて居る。町に手傳に行けば2圓50錢位になると言ふので、ちよつとした日傭ひにも2圓は出さねばならない。2～3年前に80錢だつたのに照して其飛躍振りに驚かされる。多人數の日傭を使つて居る農家はさぞやり難い事だらう。肥料は騰る、雜貨も騰る、其れだのに米の値段は騰らないとあつては副業を持たない、山林を持たない農家は嘸やり難い事だらうと考へられる。公定値段さへ無ければ高く賣れるものを、其れがある爲に今日も41圓90錢の値段で50石の米を賣らねばならないと、人の好い村の舊家の老人は信用組合に出懸けて行つた。

山林と副業を持たない農家は困つて居るだらうと書いたが杉を始めとして木材の値段は騰つたので其れを賣れば相當まとまつた收入になる。又山村では和紙の原料である三椏の値段が暴騰したので甚だ好況と聞く。すつと山奥で水田が殆んど營み得ない様な處で三椏は盛に栽培されて居り、其處に住む人達は米を常食とせず粟類を主食にして居る様な有様であつた。其人達に數千圓の收入があるものだから急激に、そして餘計な購買力を見せて居たりする。

もつとも滿洲の苦力でも日給1圓50錢を貰つて居る今日だから內地の日傭人夫でも3圓位をとるのは敢て不思議でない。寧ろ當然の事だらう。だが此現象は購買力の增加、ひいては通貨の膨脹に關聯し益々物價高の、時局と相容れ難い現象を將來しつゝある事は眞に痛心に耐へない。

こんな話を聞いた。高知の市價で2圓50錢位の酒を大阪商人は3圓50錢の値段で仕入れて行く。大量にとは言へ1圓も高く買ひ大阪に運送する費用だけでも相當な額になる。公定最高値段は3圓

50錢になつて居るものを其上に運送費を加算して大阪商人のやる事は分らないと政府の命令に忠實な田舍の商人は呆れて居た。そんな酒を飲んで居るかも知れない、吾々こそ考へて見ればいゝ面の皮だ。

1月6日歸途につく。高知驛では乘れまいとあつて、一驛先に廻る。急いだので車に交渉したが市內70錢均一のため幾分遠い驛には行つてくれない。超滿員のバスで行つてみると驛も汽車も滿員鮨詰め。辛じて席に就いて行けば次の驛では完全に超滿員。征く赤襷の青年に對して見送りの子供達が……なんで命が惜しからう……なんと唄つて居る。宇野岡山間超滿員のため中間の茶屋町驛では車の中程の立錐の餘地あるを見て、驛員が窓から數名の男女客を車室內に押し入れると言ふ風景も見られた。こんな混雜の中に入ると自分の旅行して居るのを忘れて終つて、なんで斯樣に多くの人々が旅行して居るのか不思議に思はれて來たりする。

斯樣に輸送機關は混雜して居て人間も充分に運送し切れない。まして當張つた木炭、木材、其他の物資が圓滑に輸送出來樣筈がない、と考へられたのである。（1月10日）

建築協會・靜岡市大火災へ技術的調査のメス

一瞬にして 6.700戶を灰燼に歸した靜岡市の大火災に對し、我が建築協會では直ちに調査員を派遣し災害に對する各角度からの調査を行ふことになつた。因に協會として現地に急行した調査員は下記の諸氏である。

本會災害强度委員會委員

矢　田　鐵　藏　氏
長　尾　清　一　氏

尙ほ本會員にしてそれぞれの部所を代表して現地に赴いた調査員は下の如し

平　野　忠　雄　氏　（大阪府警察部建築課）
錦　田　直　一　氏　（大阪府警察部建築課）
相　本　楠　雄　氏　（大阪市防護課）
井　手　正　雄　氏　（大阪市建設課）
佐々木　俊　期　氏　（セメント同業會）
龜　井　幸次郎　氏　（日本技術協會）

其の他地方會員しとて現地に赴いた調査員は

後　藤　米太郎　氏　（愛知縣營繕課）
田　中　彌　一　氏　（愛知縣都市計畫課）
渡　邊　　要　氏　（名古屋高工）　等であつた。

以上の諸氏が、協會調査員と協力して、各々その分擔を定めて綜合的調査を行つた。

未だ、關係各方面の調査團が急派されてないやさきであつたので、協會を中心とした此の調査團の報告は、各方面から期待されて居る故、目下鋭意資料の整理に各調査員が全力を擧げて之にあたつてゐる。

協會としては、三月號の建築と社會の全頁を擧げて「災害と建築」の特輯號と銘打つて、此の火災の調査報告をなす筈である。

農耕地帶システム*

龜井幸次郎・譯

譯者のことば、日支事變後早くも二ケ年半は經過した。現下の情勢は漸く我國は食糧問題の痛切性を各個人生活の内に經驗する樣になつた。同時に國力と云ふものが農業生產と工業生產に存外緊密なる直接的關係にある事を理解せしめられつゝある。此の秋に、復雜怪奇の稱ある歐洲の國際情勢は突如として第二次の歐戰大戰を招來せしめた而も彼等は第一次歐洲大戰によつて得た實物的教訓を基礎にあらゆる國力を動員して戰つて居る。殊に食糧問題の解決とその確保と云ふ事は、第一次歐洲大戰終了直後直ちに各國共準備に着手した程の重大な事柄であつた事は、文獻に新聞によつて周知の事實である。

此の故に第一次歐洲大戰に於ける食糧問題は都市計畫に如何なる事柄を反省せしめたかを顧みるは、現下の我國の事情に鑑みて他山の石たる意義は充分有すると思ふ。此の意味に於て、彼の大戰當時ロンドンが身を以つて體驗した辛苦をば土臺として提唱せしめた C. B. Purdom; による衛星都市の建設に於ける農耕地帶システム論は譯者の特別に注意を惹いた一節である。以下此處に譯出したものは彼の此の問題に關する所論である。

× × ×

自由な善政の施かれた社會建設の最善の手段と云ふことは人間社會の相互的義務の遂行に依存すると云ふことゝ同意義であり、且つ又それによつてのみあらゆる社會組織を構成する各メムバー間の信賴と云ふものが創造されるものである。ジエームス・シチユワード卿（The Building of 1805）

1

都市開發に於て田園都市理論の所謂農耕地帶（Agricultural Belts）と云ふものは、ロンドン協會のロンドン發達圖（London Society's Development Map of London）のなかに示された樣なものや或は又米國の或る都市の如く公園地帶を留保すると云つた樣に、都市の周圍に帶狀の綠地を留保する事を意味しない。此處に謂ふ農耕地帶と云ふのは都市を包圍して廣大に擴がつた地域で而も都市經濟の完全なる部分として留保するべき食糧生產地（Food--producing land）なのである。が然し此の農耕地帶に關する問題は都市建設と云ふことが創案されると同時に考へられた問題なのである。古代及中世紀の都市計畫を研究する場合、何人と雖も先づ第一に農耕地と都市との關係が如何に重要な事柄であるかを認めないで研究を進める事は不可能である。即ち都市の敷地が選定されると必要なる食糧の供給と云ふ事と關連しつゝ都市計畫が行はれて居つたのである。ギリシヤやローマ等の都市家國（City—States）では、都市と田舍とが經濟的にも政治的にも全體的に組織されて居つたのである。而も其處には所謂〝**田舍、都會及商業等の各々生活間の健全なる相互作用**〟と稱するものの提唱がすつと繼續されて來たと云ふことは、當時最善を盡した文化の特徵であつた。斯樣にして中世紀の都市はそれを包圍する農耕地に對する通常の注意を怠らなかつたのである。[1] 中世紀の英國產業は主として都市に集中されたとは云へ、大部分は未だ田舍の村落地方に分散されて居つたので人々は屢々他の業務を兼ねながら農業に從事して居つたのである。然るに19世紀に到達するや俄然機械工業の勃興となり、交通運輸機構は發達を促進され、米大陸に於ては全土に至つて夢生產の可能性が認識されて來たのである。斯くして都市社會の重大性が益々增大して來ると農村社會への交涉が益々無視され始めたのである。かゝる傾向を契機として、產業都市は農業にサーヴイスする努力も時間もそして興味さへも失ひつゝあり、人々は事實上田舍を追はれて都市に居住する樣になつたのである。而も前世紀より存在して

1）產業地としての伊太利の大都市は、その都市に吸引されて集中して來た人口或はその城廓内で自然に增加した大多數の人口に對して、食糧の充分なる供給が比較的困難であつたのである。然るにヴエニスは都市領域内で農業生產を統制することが强制されて居つた。…… Florence 及 Milan, Bern 及 Basel, Ulm 及 Strasbourg 等では同樣に食糧の供給問題に彼等の注意が充分拂はれて居つたのである。……Cambridge, Modern History, Vol. I. P. 516.

*C. B. Purdom; The Building of Satellite Cities, Part IV, Ch.III., The System of Agricultural Belts. P. 316.～329.

居つた都市と云ふものが益々地方人の企業心を刺戟する様になるとあらゆる種類の産業が、基本産業としての農業に依存せねばならぬといふ根本概念の片鱗さへも大多數の人々が懐かないと云ふ現象を呈する様になつたのである。その反面に英國は世界の工場（Workshop）になるべきで國家は地方に發達の必要もない農業の様な原始的産業を殘して置く餘裕が果してあるのであらうか？と云ふ疑問を抱く様になり同時に英本國から農業を驅逐して仕舞はねばならないと云のが多くの産業家の夢であつた。然し乍ら歐洲大戰（第一次）は、僅かの期間で、此の事は實に愚かな夢である事を彼等に學ばしめたのである。と云ふのは、此の大戰によつて都市民が食糧供給の重要性を無理矢理に教へ込まれたからである。けれども、此の時既に農業と他の産業との分離が非常に徹底して居つたので、かゝる教訓にも拘らず社會は此の事實を殆んど忘却して居つたと云ふ程度の影響しか與へなかつたのである。從來から我々は英國に於て食糧品の供給には事を缺かさなかつたと云ふ事に慣らされて居つたのであるが、若し世界の食糧市場としての地位にある米國の生産力の驚くべき增加が伴はず、而も此處數年間の内に食糧が米國内の需用すら充し得ないと云ふ程度の收穫減に關する警告に逢着したとするならば、我々は最大に擴張して行ふべき我々の農業資源開發への貧困に對し充分覺醒さるべきである。元來都市と田舍の對立相剋と云ふことは全く意味もない事である。何故なれば都市は農民への市場であり又田舍が都市を依存せしめて居るからである。此の二者の間には不可分の利害關係（Common interest）が存在すべき筈のものである故に、都市は過去と同樣に今日でも尙ほ計畫と擴張が持續さるべきであるといふ必然性は、農業的要求と關連してなさるべきである。にも拘らず産業擴張の重大時期を通じて行はれて來たものは農業と無關係に都市の擴張が繼續されて來たもので、かゝる都市の發展性は市境域の擴張と課稅價値の增加とを用意するのみであつた。而もそれは食糧生活の問題が如何にならうとも、それには無關係であつた。農業に關する都市民の興味と云ふものは、只單に彼等の生活費に關連する場合のみであつて、而も近郊の農耕地が建築工事施行者によつて宅地化されて行く事が彼等の食料品の漸進的昂騰の故に彼等自身の損害でもあると云ふ事に氣が付かないのである。曾てPoplar※がロンドンへ食糧供給の大部分を引き受けて居つたと云ふことを今日果して幾人の人々が知つて居るであらうか？ロンドンに近接して居る Essex の肥沃なる原野が都市建設者によつて獲得された時は既にスラム化の經過を辿つて居り而も Poplar の此の狀態に反對する者が殆んどなかつたのである。

§ 2

農耕地帶とは何にか？即ちそれは、或る特殊都市の指導下にあり且つ都市との有機的關係を常に持續し得る農耕地である。あらゆる都市若くは都市集團は或る意味に於て彼等の農耕地帶を何處かに持つて居ると云へるのである。即ちロンドンでさへ彼が依存するところの農耕地を持つて居ると云へるのである。が然しそれは曾に英本國の田舍地方のみならずカナダ及アルゼンチ等の原野をも意味して居る事を注意せねばならない。此の故に全世界の都市を考へるならば、實にそれ等の都市は適當に全世界の農耕地で〻繞されて居ると云ふ見方も可能な譯である。若しさうでないとするならば今日我々は如何して生存して居るのであらうか？我々は食糧の成長し得る地上に現實的に存在すると云ふ長所の故に生きて居るのである。故に農耕地の住民は曾に彼等自身の爲のみならず、食糧の生産を知らない人々の爲にも充分なる食糧生産を行ふと同時に餘剩生産に對する吐口に關する道を講じておく必要がある。そして此の事に無關係には都市的産業も商業もそして文化さへも不必要なのである。それにも拘らず此處に所謂農耕地帶を定義付ける爲にかゝる一般的農耕地を持つて來る事は出來ないのである。故に著者は此の特定な農耕地に對し假の定義を試みたのである。即ち**或る都市の支配下にあり且つその都市と經濟的關係を持續し得る都市を包圍する農耕的區域を云ふ**と。

§ 3

レツチワス及ウエルウインの二つの田園都市を解釋するに此の定義を觀察してごらんなさい。何故なれば此の農耕地帶の理論を實際的に理解出來るからである。だからと云つて此の事に關連して農耕地と云ふのは田園都市會社によつて購入された特別の土地に對してであるとその概念を制限して仕舞ふのも間違ひである。農耕地帶を形成する様な部分の土地は田園都市に最も影響を與へる部

※1924年版のスタンダード辭典によると英國のロンドンの一區名にして〝A Parliamentary boroughin London, England〟とあるを以つて我國の所謂選擧區に相當するものならん。（譯者註）

分である。が然し此の所謂地帶と云ふ概念を、會社が實際に所有して居る土地であるとか又は特殊の地方行政單位の地域と云つた樣に或る制限された概念のなかに入れて仕舞ふのはよくない。農耕地帶として會社に所有されて居る土地はレッチワスに於ては3.000英町の廣大なるものであるが、之は會社が土地を購入する必要がたまたま生じたからである。又ウエルウインに於ける農耕地帶として會社に所有されて居るのは1.000英町を下らない程度の廣さであるが、之も前者と全く同じ理由で得た土地である。然し乍らレッチワスに於ける眞の農耕地帶と云ふのは、北方はArlesey に延長し、西方はHitchin に伸び、東方はRoystone の近隣地帶に擴りそして南方は Stevenage に接續して居る廣大な原野である。而もそれ等はいづれも都市と經濟的關係を持ち且つ又此の範圍内で田舍から或は又都市から人口の交流を行なひながら交互に影響し合つて居る地域である。ウエルウインに於ける眞の農耕地帶と云ふのは St. Albans, Luton, Hitchin, Hertford 及 Barnet の方面に擴つて居る區域である。要するに此の農耕地帶と云ふのは此の二つの都市を以つて囑矢とすると云へやう。

此の故に田園都市と云ふものと他の諸都市との區別は、田園都市は農耕地帶を持つて居り他の諸都市はそれを有して居らないと云ふことになる。而も田園都市に於いては都市單位として農耕地は維持され購入され、且つ又都市の他の何れの部分も同樣に開發し得るものである。然るに他の諸都市（但し舊式な地方小都市を除く）に於ては、包圍して居る農耕地域と都市自體との間に何等社會的利害關係が存在する譯でなく、只單にそれは未建築敷地（Not-yet-built-up land）として存在するに過ぎないのである。

ξ 4

農耕地帶の經濟的價値と云ふものは、その目的によつて決定されるものである。然らばその目的とは何んであるか？新鮮なる空氣、美學的價値、多數の住民による食料品の生產、と云つた類ひのものは疑ひもなく確保される事である。若しさうでないとしたら、それ等の物事はいづれも無駄なものになる。それは謂はゞ都市とそれを圍繞する地帶との間に於ける〝緩衝國〟（buffee state）である。而もそれは些かも贅澤なものでないと云ふ事である。[2] 果たして農業的產業と云ふものは國家的贅澤であり得るだらうか？かゝる申出は途方もない事である。田園都市の根底に橫はる建設的理想は、農村と都市の利害關係を平等にせんとするのであるから、共に彼等は健全なる社會を組織せんとするのである。此の故に農耕地帶とは田舍と都會の平等性を齎すことを意味するのである。此の事の本質的概念は都市が商業及產業活動の建設中心であると同時に圍繞する周圍の農耕的原野は組織化された社會のあらゆる資源を確保すべきものと云ふことから成立するのである。——即ち都市は田舍に依存すべきものである同時に田舍も亦都市に依存して居る事が明確にされる事によつて此の根本概念が理解されるのである。

此の農耕地帶と云ふのは、都市への食糧供給の本質的生產方法として最も顯著なものゝ一つである。一般的に牛乳生產地又は酪乳場に關する限り其の都市の需要を充し得る程度の專用地を用意すべきである。市場、農藝園、果實、肉類及他の生產物は土地の性質に依存すべきであるが、凡ての種類の商品の最大生產を行ふことは確に經濟的ではある。都市の需要性が遭遇する苦の限界性は農耕地帶の廣さ並に土壤の適應性に依存する。同時に技術の熟練性と資本によつて決定されるものである。

ξ 5

殆んど凡ての農業家の意見であつた所謂農業と云ふものは、行政區域内の純粹田舍的の事柄であると云ふ概念は、此の田園都市の場合に於ては行政組織内の一單位にして、村落も包含した田舍地で圍繞された都市たる田園都市システムの下に於ける農耕地帶であると云ふ概念に置き代えられるべきであらう。此の事は農民の社交的及經濟的孤立性を救濟するばかりでなく彼等の手近に都市生活の便宜を齎す事なのであつて農民に取つて非常に有利である事が立證さるべき筈である。田園地で働く人々の孤立性といふことは、彼等が交互に甘受すべき娛樂機關や修養機關や成功の機會を缺乏さすと云ふ農業に關する重壓なるハンデキアップなのである。自動車及乘合自動車、ラヂオや新聞紙等は彼等の孤立性を緩和せしめるのに役立つものであるが、又一方彼等に華かな變化に富んだ都市生活への憧憬を非常に增大せしめるものであると云ふことを忘れてはならぬ。或は又歐洲大戰後（第一次）英國政府は傷痍軍人を歸農せし

2) 敎育的にも倫理的にも50.000英町の土地が都市に接續すると云ふことは、荒れはてた博物館より大なる價値があるであらう。（English Farming Past and Present, by Rowland E. Prothero～2nd edition, 1917～P. 400.）

める事の實際的に不可能であるばかりでなく、彼性患者でさへ田舍地方へ行く事を好まないと云ふ事實を發見したのである。何故なれば一般的に人々は農村生活を好まないばかりでなく、より大なる都會に於ける活動を欲するからである。[3] 此の故に衛星都市と云ふものは田舍の人々により手近に於て都會の利益を齎し得るであらうと云ふのであつた。斯くして農民は都會的刺戟の下に置かれる事になり、彼等の産業は都市産業に接觸する機會を得ると云ふのである。故に生産に關し他の形式にも適用出來ると云ふ商業的可能性は農業に對しても利用し得るものになるのである。

農業生産は一般産業中の例外であると云ふ考へ方がある。それは專用地によつて作業が行はれるものである。即ち農民は土地がその仕事の手段であり而もその土地たるや總面積が制限され且つ如何に土地擴大の要求があつてもそれは不可能なのである。此の故に彼が土地を所有する限り他の凡てを排除せねばならないのである。この事は農民に一つの利益を齎すものである。が然し彼れが外國貿易によつて影響される程度を除いては他の凡ての競爭を打破らねば此の利益は遞減するのである。而してその事は農民に重大なる責務を擔はしむる事になると同時にそれは社會が農民の勞働の效果に就て特別な興味を抱かしむべき必要性を起さしめる事になるのである。即ち農民がそれを占有するものとするならば都市は農民自身を襲擊する義務がある。何故なれば若し農民が彼の土地を最善のものとなし得なかつた場合には、生産者の何人もが充分その能力を發揮し得ないと云ふ場合より、更に重大に都市に取つては容易ならざる直接的結果を招來するからであり、又農民の不充分な能力にも拘らず或程度の收獲を齎らしたとしても、國家に對する損失はその事に關係なく事實であるからである。此の故に土地は可及的多く生産可能な樣になすべきであり且つ生産物增收を助成し得るあらゆる人々はそれに必要な土地を所有すべきである。何故なれば國に取つて土地からの生産物は國民の生活必需品となるからである。國家的利益と云ふものは、地上に、出來得るだけ多くの人々が働いたからと云つて獲ち得るものでない。が然し最も效果的な生産を行ふ爲には可及的多くの人々が要求されるのである。勿論、地上に働くと云ふことは工場内で働くより更に多く保健的な方法であると云ふ事は眞である。が然し此處ではだからと云つて出來得るだけ多くの人々が地上勞働に從事すべきであると主張するのではない。若しかゝる主張が適用されたとするならばそれは農業耕作に機械を使用し且つあらゆる農業勞力を省かんとする方法に反對してゐあらう。然し乍ら結局所謂の結果に對して更に多くの勞力を要する場合は不經濟である。故ににかゝる場合は各所で利用されて居る如く、勞力を省く爲のあらゆる手段方法が奬勵されねばならない。此の問題に關しては個人的經驗に對し或る程度の主張の自由が許されなければならないのは勿論である。若も、蒸汽助力による犂を使用する代りに馬力による犂を使用する人々があるとしても、彼等の撰り好みが國策或は地方的政策として産業上固定さるべきであるといふ彼等の要求がない限り彼等の好むまゝにされねばならぬと云ふことは考慮されてよい。

都市と田舍とが互に接近し合ふと云ふ此の會社(Association)に發起された此の新しい狀態下に於ては、古いタイプの農民を無くする事は可能である。高度に資本化された協同體(Corporations)によつて使用し得る土地は、廣大な地域となるか若くは個々の農業共同組合によつて交互的に經營されるかである。現在では全體として農業生産は資本化されて居るが、その大部分は全體的に見て都市生産程度に企業化されない。農業狀態の研究家の何人でも、例へそれが個人的努力によつてよりよく組織され且つ又國家的事業としての形式を以つて或る程度の安全性が與へられて居るとしても産業といふものはいくらでも廣大に展開し得るものであると云ふ樣に說服せしめられるのである。かゝる傾向に於て決定的手段は農業を他の産業と更に緊密なる關係を持續せしめる事である。而もそれは廣大なる田舍地域を一體とした新しい都市

3) 本書(C. B. Purdom; The Building of Satellit Towns)の第2編に於て既に解說した如く農耕地帶で圍繞されたレッチワス建設の效果と云ふものは周圍の田舍地方全體に輝かしい影響を與へたのである。即ち農村人口は漸次增加の傾向を辿つたのである。此の事の一つの明かな事實は Hitchin Rural District Council が既に農民の爲に 420 戸の新しい民家を新築し更に約200戸以上もの新築が開始されたと云ふ事が裏書をする。

形態にまで都市社會を押廣める事によつて齎し得るものである。故に若しも都市を田舍地方に分散したとするならば、農業問題の特殊性を全體的に變へ得たかも知れない。[4] 農業と云ふものは、熟練性、高度な技術的訓練、主導的にして充分なる經驗の受容力を備へねばならぬ職業である。而も斯くの如き職業は、若しも都市がその作業場の中心となるならば再び大變なことになるのである。農業と關連して他の產業が考察されて來たと云ふことは通常ならざることであるが、それは家內工業的な形態のもとであつた。だが然し產業生活は農業開發の要素たり得るであらうと云ふ一般的豫想は不可能である。故に此の田園都市的概念に於ては、農業と工業に關し手工業的のものと小作人的產業とが一緒にされると考へる譯には行かない。工業經營者及勞働者の目標として居るところは、只單に農業的興味を持つ樣になると云ふ程度に限定さるべきで、若し斯くの如く都市整理が完成した場合には人々が土に親しみ得る程度に工業勞働が奬勵さるべきである。更に又農作物の收獲期に於ける農業勞働の需用と他の產業の需用に對して人的要素を讓り合ふと云ふこの二つの間に或る程度の關連性が保持さるべきである。果實をもぎ取つたり、ポツプの實を摘んだり、馬鈴薯を堀つたりと云つた類ひの仕事の爲に都市勞働者を利用すると云ふことは、生產の基礎機構であつた農業手段下に於ては取らざるところである。故に要求されるところのものは當に農業家仲間の協力ばかりでなく所謂農業生產と他の產業との協同組織が必要であると云ふのである。而して此の問題に對して田園都市の模型とも云ふべき此の小都市は或る程度寄與するところあると信ずる。[5]

§ 6

かゝる小都市に於ては各戶の家近くに實際に充分なる耕作に適した菜園を設ける事は可能である。大戰中（第一次）の經驗によれば、若しも各家庭が野菜を自給自足し得る程度の土地を所有して居つたならばそれは宏大無邊なる利益を齎し得る事を暗示したと謂はれて居る。即ち人口50.000人位の小都市ならば或る程度の野菜の生產に關して大部分の要求に對し自給し得る可能性を持つ。だからと云つて各家庭の家婦が菜園へ行つて働き得る譯でも或は又斯く願望し得る筈のものでないのは勿論である。が然し多くの居住者が菜園で働くとせば剩餘ある生產品として或程度の收獲を豫想することが出來るのである。ウエルウイン田園都市に存在する樣な中央配給事務局（distributive agency）は菜園を持たざる人に野菜を供給するばかりでなく、充分野菜の栽培が出來なくつて收獲の見込がない家庭にも供給して、かゝる餘剩生產物を處分する爲の施設となし得るのである。何故なれば野菜の栽培に關し或る人は栽培に特別なる器用さを持つて居るかと思へば、他の人は全然栽培の能力を備へないと云ふ人もあるからである。

§ 7

農耕地帶に關する財政は一般的に云つて農耕地維持費と何等差異はないのである。然し乍らかゝる土地は土地の一齊區劃を形成する爲の市街地の部分となつて居るので、單一の所有者によつて維持されて居るが故に、經濟的差異は存在するのである。若し農耕地を保持する爲に誰にでもその負擔を負はせるものとするならば、それは隣接する人々が負擔すべきである。何故なれば、土地と云ふものはそれが農耕用地としても人口集中の中心地に近い程地價を昂騰さす傾向があると云ふ經濟的事實をよく知つて居るからである。現在以上に更に廣大な範圍の田舍地方に都市を分散せしめると云ふ效果は、農耕地としての彼等の近隣地方に於て、農耕地の地價を昂騰し得るものである。然し乍ら土地に對して價値を與へるところのものは人口である。衛星都市に於ける人口の分布は農業

4) Sir Theodore G. Chamber; "The Rural Problem" (Journal of the Farmer's Club, April 1914) 及 "The Repopulation of our Rural Districts" (Transactions of the Surveyor's Institution, 1917, Vol. XLIX., P. 57.). 參照。

5) 獨逸の Leberechr Migge とその他の連中によつて提唱された所謂〃綠地帶〃(Greend girdle)〃綠地圍〃(Grüngarteln) 都市は、隣接して定まつた農耕地を留保し、そしてその土地を協同的基礎を持つ居住者によつて開發させると云ふ組織であつた。而もそれは農耕地帶の實際的設定とその取扱方に對して頗る興味ある論文である。Worpswede b. Bremen に於て發行の Der Ausbau eines Grüngürtels du Stadt kiel (1922) 及 Siedlungs—Wirtschaft 誌を參照。

工業と協同體としての農業開發に關する興味ある例はプロシヤの Eberswalde の Hirsh Copper 及 Brass Works Company によつて創立されたものである。此の全體的計畫は Der Neubau, Aug., 1924 誌上に發表されてある。

生産に或る刺戟を與へ且つその事によつて農耕地の價値を增加し得るものであらう。[6]

土地の持つ利益に關する差異を除いては、田園都市會社の所有する農耕地帶と他の農耕地とを區別し得る條件が何も存在しないのである。此の意味で田園都市會社は農耕地を保持し得るものでない事が示唆されて居る。[7] 又例へそれが何人によつても維持し得ないものとしても、小さく保持する事（Smoll-holding）は、非常なる無駄なしには開發が出來ないと云ふことも亦農耕地に反對する一つの主張として充分示唆の含んで居るものである。けれども小さく分割して保持して開發すると云ふことゝ都市の周圍に農耕地を確保すると云ふことの間に關連性を持たせる必要はないのである。何故なれば是等の農耕地帶と云ふものは農耕用として經濟的に利用する樣に明確に仕向けられねばならないからである。而もかゝる農耕地から全面的に充分價値を獲得せんとする爲には、時間と資本が必要であるばかりでなく土壤の組織（texture）をも改善する必要があるのである。交通運輸、建物、諸設備裝置及勞働等は、此の新しいアイヂアが容認されると同時に要求されねばならない。斯くの如き農耕地帶を存在せしめることは〝調和性のある土地〟（accommodation land）にふりかゝつて來る不確定なる都市近隣地方の土地を救助し、又實際、それを培養する人々の確信を增進せしめる事によつて農業的價値を更に增進せしめ得るのである。

若し田園都市會社が上記の如き農業價値を有する土地を收得し得たか或はかゝる眞價ある土地を購買し得たとしても、それを適當にマネーヂする事が足らないならば、會社は處置を誤つた時と同樣の財政的困難に遭遇するか、若くはかゝる事業の他の如何なる部分でも不運なる事態に襲はれる事になるのである。

§ 8

農耕地帶の機能は都市の快適と經濟的地位を確保するにあるのである。故に此の點に關する財政的利益に就ては、相當重んじられてよいものがある。都市を圍繞する農耕地帶は同樣に住家の周圍の庭園であり、そして都市の快適と實際的の商業的價値とは正比例し、住家の庭園としても稗益するところのものである。何故なれば田園都市は農業地帶の經費に耐へ得るからである。換言すれば農耕地からの1年間の利益は市街地より受取る利潤より低いと云ふことに耐へると云ふことであるが然し都市敷地の厚生的價値に寄與すると云ふことによつて、都市に於ける特質を保ち、その價値をさへ增進し得るものであり且つ又之によつて農耕地帶と云ふものが經濟的に辨證されるのである。[8] 更に注目に價する重要な點は、此のヴエルト地を持たない新しい都市人口によつて創出せしめられた地價と云ふものは自然的に圍繞する周圍の土地に影響して行くであらうと云ふことである。而もかゝる傾向は或る他の場合を除いて或る部分の統制なき地價の增進を許し都市近郊の寄生的發展を奬勵すると云ふ結果を生するかも知れないのである。此の故に農耕地帶と云ふものはより擴大なる方がよい。[9]

§ 9

田園都市企業の財政に關しては、農業價値の剩餘に對して支拂はるべき代價の範圍を限度として農耕地の費用を市街地に對して部分的に附課さるべきである。ウエルウイン田園都市に於ては農耕地帶の代價の割合とは開發地の代價をも含ませて居るのである。そして農耕地の地價が實際的に支拂はれる地價を保つかに就て或は全經營地の平均價額を維持する代りに土地の純收入が田園都市事

---

6) 地上に人口の增加する效果に就て Marshall 敎授の言葉を引用するならば、〜〝栽培者は彼の生産物を賣るよき市場を得ると同時に彼れの要求するものを供給するよい市場を獲得するのである。そして彼はより安價なものを仕入ると同時に彼等の生産物をより高價に賣るのである。而して又社會生活の便宜及樂しみを、彼等の達し得る圈內に齎したのである。〟〜Principles of Economics, Bk, V., Ch.XI., §1 及同著の cf, also Bk. IV., Ch. III. §6. 參照。

7) Sir H. Trustram Eve 氏の "The Agricultural Belt of Garden Cities" (Town—Planning Institute Papers, Vol. Vll., P.55) は結論に達しないほんの概論的論文であるが、此の問題に貢獻するところ頗る多い稀に見る興味ある論文の一つである。

8) Marshall 博士は〝もの事を實現する或る程度の努力が要請されるとしても〟都市に隣する自然的美しさは直接的に貨幣價値のあるものである事を指摘して居る。(Principles of Economics, BK. IV., Ch. III., §7.)

9) 此の問題に就ては本著（C. B. Purdom; The Building of Satellire Towns）の Part IV., Chll., §5 及 §6 を參照。

業費に支拂はるべき平均の利益を生み出す様な形態を維持すべき様にしてある。例へば、經營地を平均一英町40磅で購入したとするならば、純益を3%とし田園都市會社の財政計畫は5%の基礎の上に樹てるべきである。故、農耕地の代價は、24磅を取るべきものとするならば結局總額として5%の收益が計上し得るやう差引16磅の價は、市街地の代價の一部として取扱はるべきものである。然し乍ら農耕地帶の價と云ふものは、普通の農耕地のそれより遙かに大きいものである事を見落してはならぬ。或は曾て都市として開發されたところ又はそれに類するところでは、一英町に付き40磅以上の價を示すのは殆んど確かである。だが然しそれらの價額は都市開發が適當に行はれ人口が集中して來るまでは存在するものではないのである。故に事業開始當時に於ては、或る施設を行ふのに之を負擔すべき相當な經費が用意されねばならない。

§10

理想的には、農業地帶は市街地中心地と全然一同に取扱はれるべきもので、而も田園都市會社は此の企業に影響される土地の全區域を購入すべきであると云ふことになる。が然しそれは殆んど實際的ではないのである。此の故に市街地の周圍に有効なる農耕地帶として充分なる土地が存在する限り、用地を購入する必要はないのである。だが然し此處に最も大切な要件は、都市設計の特質或は都市計畫の準備などは、それを圍繞する農耕地によつて徹底的な影響を受けると云ふことである。そこで農耕地帶と云ふ概念が都市の規模を制限すると云ふ理想と結び付いて來るのは、必然的な事なのである。故に土地は農耕用の目的の爲に一時的に留保されるのではなくして、寧ろ決定的な目的の下で永久的なものとなるのである。土地利用に關する限り或る程度の調節と、あまり極端でない面積上の制限は大いに顧慮に價するものと思ふ。けれども原則的な主たる方針は保持される様計畫しておく必要がある。何故なれば此の事は農業開發と同程度に工業開發にも影響を及ぼす都市の遠大る計畫をなすべき重大なる誘因をなすからである。

§11

農耕地帶として要求される面積は、周圍の狀況によつて定るのである。食糧の供給と經濟的保護と此の二つの主たる機能は充分心に留めておかねばならない事である。此の故に通常ではないが否寧ろ稀ではあるが、都市の要求する食糧を充分供給し得る、而も別にその爲の企畫をする必要もないと云つた様な好適な土地を獲得し得る場合もあるかも知れない。が然し此處に望ましき事は農耕地帶と云ふものは本質的に食糧の供給に貢獻すべき事であると云ふ事である。而も土地はかゝる要求に對して最善的に適合する様に利用さるべきである。若し其の區域が公園用地とか牧場用地とか或は又野原として利用可能地であると云つた類ひの如何なる理由があるにしても、以上の理由以外に其處が泥沼地又は濕地或は岩床地などであつた場合には、食糧生產用地としては不適當であらう。だが然し實際問題として大低の用地は必要な牛乳や搾乳生產物が或る程度の果實や野菜と共に割合よく生產し得る可能性を見出すものである。其の他に明確に期待されて居るのは、例へば農耕地帶に於て都市への牛乳を生產すると云ふことは運搬費と濫費とを救濟し且つ新鮮にして正確なる供給が確保されると云ふ事である。が然しかゝる期待に對し一體如何程の廣さの用地が必要とされるであらうか？此の質問に對し正確に說明し得る形態に達するのは容易ではないのである。何故なれば農耕作業の條件と實際的の耕作とはその結果が本質的に異なるからである。であるから若も我々が用地を酪農場として開墾するに適し且つ各牛毎に2.6英町の用地が必要であると假定するならば、[10] 年平均620ガロンの牛乳を收獲し得るであらうし、更に又我々は液體牛乳の每日の消費量を人口1人に付き半パイント※と假定せば[11] 人口50.000の場合には每日3.125ガロンを必要とし、從てつ此

10）此の事の說明の根據は R. Silcock and Son, Ltd., Liverpool. の "Dairy Farming on Arable Land" による。此の著書は此の問題に關し5つの論文より成り、大體此處で說明した程度の平均値を取つてある。

※ Pint（パイント）は桝目の名で我國の三合一勺半が1パイントに相當する。

11）ウエルウイン田園都市に於ける牛乳の消費量は1日1人に付き½パイントであるが、之は若干多過ぎる様に思はれる。 Lond Dawson of Penn "Report of Proceedings of the National Milk Conference," 1823. P. 39. によれば英國に於ける1日の牛乳消費量は平均½パイントであるのに米國合衆國に於てはその3倍も多く消費すると謂はれて居る。

の liquid milk のみとしても約4.784英町の面積が要求される譯である。故にクリームやチーズ及他の生産物及養鷄場、養豚場、菜園、果實園等の爲に更に廣大なる用地を必要とするのである。が然し以上の目的に要求される用地の廣さと云ふものは、牛乳の場合より比較的狹小の廣さで間に合ふのである。

平均奥行最低1哩の範圍内は明かに田舍的特徴を保持し得る程度とし、同時に他の建築物を發達せしめて都市と分離せしめる樣になすことが望ましい。若も都市用地の一部分が海や丘陵地又は自然的地勢等によつて境界される場合には、此の保護地帶は、例へばかゝる自然的地勢が如何樣であらうともそれを度外視して、要求されて居る農耕地をダイアグラムの形式を以つて表現すると云ふ方法を採用してよい。50.000人の居住者を持つ都市によつて占有されて居る面積を各戸毎の人口を4.5人とし1英町5戸と云ふ根據を以つて計算するならば2.222英町の廣さになる。圓形體を取るものとして考へると、かゝる都市は1.0513哩の半徑を持つことになる。レッチワスは都市面積として1.482英町(人口33.000人に對して)と農耕地帶として3.066英町合計4.548英町の土地を有して居り、ウエルウイン田園都市は都市面積1.770英町(人口40.000人に對して)と農耕地帶として608英町合計2.378英町の土地を有して居るのである。之等兩者の農耕地帶計畫を比較するに、特にウエルウインの方が不充分である。が然し此の場合兩者の都市限界として眞の農耕地帶は田園都市會社の實際的に所有する土地より遙かに越えた廣大なものであることを記憶せねばならない。都市が全く建築し盡され、農耕地帶の擴張が必要となつて來た樣な場合には、都市が隣接地を要求し得る樣にするか若くは農業的特質のあるものを留保するに必要なる土地を全體的に用意しておくか二者の内そのいづれかによつてかゝる處置を實行する樣前以つて準備しておく必要がある。

今此處に示すダイアグラムは人口50.000人が居住する都市の周圍に奥行1哩から7哩までの農耕地帶の比較を示したものである。若しも理想的計畫になる都市から4哩離れた間隔毎に建設されたとするならば、各都市は約15平方哩の農耕地帶を持つことになる。そして此の地方に居る多數の勞働者は都市に住み得る樣になり且つ實質的に農耕地によつて生活して行かねばならない勞働者には、都市生活のあらゆる施設を享有すべく都市に充分接近して生活し得るのである。又農耕地帶に病院、運動場及公園等の用地が最も經濟的に獲得し得るのである。

12

都市の市域内に農耕地を持つ現在の都市限界と云ふものは殆んど實認し得るものでない。にも拘らず多くの都市は彼等が欲するなば、その市域内に都市計畫の配置方法如何によつては、すくなくとも本質的に部分的ではあるが農耕地帶を取得することが出來るのである。1913年に於ける地方行政廳[12] (the Local Government Board) によつて用意された統計は、農耕地に關しその範圍がイングランド及ウエルズに於ける Municipal borough と他の市街區域との範圍まで及ぼして居る事を示



12) 此の統計は England 及 Wales に於ける各都市又は他の都市區域に關する 1911～12の1年間のもので Borough 又は District 及農耕地面積を英町で表した面積を示して居る。(H. M.Stationery Office, 1913.)

して居る。1896年の Agricultural Rate Acts の第9章に定義として農耕地を、耕作し得る利用々地ならば、草地と云はず牧場といはず、或は½英町を越える家庭農園でも、市場農藝園（Market-Garden）でも、果樹園又は菜園でもいづれも農耕地を意味すると規定して居る。但し莊園、庭園及前記以外の娯樂用地等で家屋と共に占有されて居る土地、或は如何なる土地でも、主としてスポーツ用又は厚生用の目的に對する專用地として留保された土地或はレースコース用として利用される用地等は此のなかに含まないとされて居る。其の當時の統計には Municipal borough と他の市街區域と云ふのが1.136あつた。その内1.076からの報告が受取られたのであつた。之等總區域の計畫は3.884.139英町で殆んどその⅘即ち2.533.035英町が農耕地であつたのである。而もそれ等の農耕用地面積を分類してみると22.000英町（Holbeach）から7英町（Stow-on-the-Wold）までの種別に分ける事が出來る。尙此の外に農耕地の範圍が非常に狹いものや或は價が非常に高いので考慮外とした二・三特別な例外はあつた。が然し更に數個の市街地に於ては單位面積の地價（acreage value）が4磅前後のものもあつた。次表に示すものは人口50.000を近隣に持つ都市の實例である。

都　市　名	總　面　積（含農耕地）英町	農耕地面積　英町	市街地面積　英町	人　口（1911センサス）
Aberdare	15.183	13.965	1.218	50.830
Barnsley	2.385	1.064	1.321	50.614
Carlisle	2.025	800	1.225	46.420
Cheltenham	4.726	2.659	2.067	48.942
Colchester	11.355	9.009	2.346	43.452
Dewsbury	6.720	4.299	2.421	53.351
Dudley	3.536	1.628	1.908	51.079
Eastbourne	6.833	4.075	2.758	52.542
Exeter	3.168	1.272	1.896	48.664
Gloucester	2.315	791	1.524	50.034
Keighley	3.902	2.551	1.351	43.487
Luton	3.134	1.421	1.713	49.978
Oxford	4.719	2.135	2.584	53.048
Swindon	4.265	2.624	1.641	50.751
Wakefield	4.059	2.624	1.435	51.511
Watford	2.064	474	1.590	40.939

※ 此の面積のなかには農耕地の定義の埒外のものも凡て含む。

農耕地を留保し得る是等の都市（1913年以後には多分もつと行けるかも知れない）の能力と云ふものはあらゆる種類の利權や將來の建築用地としての價値によつて著しく制限されて居るものである。地方當局が、かゝる機會に對し敏感に活動し得たならば、都市の郊外は多くの要求に從つて留保地を得ることが出來るのである。田園都市に於ける此の問題には、利權が侵蝕して來る前に彼等自身で關係し得るのである。

§ 13

多くの都市サーヴイスの内で、農耕地帶のなし得るところのものは、都市に健康にして秩序整然たる高雅な環境を保持せしめる事にある。一時的な建築物が不適當に累加されたり、役に立たぬものを多數堆積したり、或は又**我が都市の殆んど凡の周邊を破壞して行くところの未建築地**（Vacant building Sites）**程、非常に惡影響を與へるものはない。**故に森林、公園、丘陵及水流や舊村落や地方都市を最も魅力ある田園地（Country Side）となすため、自然風致の破壞を防止する爲の風致保存をなし、而して吾人の都市周圍に新鮮なる空氣條件を齎す事は現代の最も緊急なる問題なのであ

る。今にして此の時期を逸すると云ふことは、大自然と我等の祖先我等に殘して行つた貴重なる遺産たる家庭と田園に對して人間のみが持つあの美しい愛着心の多くを失ふ事になる。衛星都市の發達の體系を確保すると云ふことは、前記の遺産の保護に特別なる工夫を必要としないで自然的な寧ろ最も單純な素朴な狀態に於て、田地、農園、小麥畑、牧場及市場農藝園と云つた類ひのものを自然のまゝに、かゝる新しい都市が發展して行く間に保護されると云ふことになるのである。之即ち此の事が正しい都市構成の部分として農耕地帶を用意する事によつて成し得るところの凡てなのである。

靜岡市復興の內務省局議

靜岡市の復興計畫は19日の內務省局議で防火都市計畫の根幹をなす綠地道路(Green Belt)と新設公園が先づ決定した。このグリーン・ベルトはいづれも幅員36メートルで左右各9メートルに人道、車道を作り、中央18メートルは鬱蒼たる綠樹地帶となすもので、こゝには椎や樫のやうな育ちの早い常綠樹を植え、防火の壁とするもので

（1） 市の中心部舊御用邸裏から7間町通に平行して寺町4丁目に至る。

（2） 中央國道に平行して前記グリーン・ベルトと寺町4丁目でT字型をなすもの。

（3） 久能街道に沿つてゐる市の都市計畫街路（台所町より森下町に至る。）

の3本で何れも燒失區域內である。公園は5個所で坪數、位置詳細は20日に決まる。19日の局議は罹災地側川村市土木部長、勾坂田中縣都市技師、山越同建築技師、本省側松村都計局長、山田課長、春藤第一、中澤第二兩技術課長以下關係官の間で午後1時半から同5時半まで地元案を中心に討議されたもので、同三日中には更に細・道路網も決る豫定である。而してこの道路を基準にして各個人の私有地を決めることになるが、この測量に當る8班のうち4班は、東京、大阪、神奈川、愛知の四府縣で編成應援する事に決定した。尙防空建築法を適用すべしと云ふ聲が建築學會その他各方面より相當起つてゐるが之が適用如何に付ては內務省當局も愼重な態度をとり研究の餘地ありとしてゐる。（1.21 報知）

建築學會が技術的援助

6.700戶を灰燼に歸した靜岡市の大火に關しては商工省初め各官廳に於て復舊對策を講じ資金、資材、勞力の配給に萬全を期す事となつたが、建築學會に於ても16日夜同學會々議室に於て對策緊急協議會を開會、靜岡市火災復舊に付、技術的に援助する事に決定し早大教授工學博士吉田亨二氏を主とする遞信省、內務省計畫局、防空研究所、東京工業大學、早稻田大學、東京帝國大學、東京市、警視廳、鐵道省の關係技術家30數氏は20日夜災害狀況視察の途に上る。而して右視察團は充分建築に關する復興對策を調査の上23日頃歸京する豫定であるが、同學會では可及的速かに靜岡市復興對策座談會を開催、復興建築に關して技術家の立場より之を檢討することになつた。尙同學會では右座談會の結果必要あるときは同學會內に復興建築に關する小委員會を設置して關係官廳の諮問に應じ復興事業に資する事も考慮してゐる。（1.19.日工）

會報

本協會員中軍務公用者氏名

前號發表後に於ける本協會員中の軍務公用者下記の通りであります（受付順）

地方會員　大西次郎君　普通賛助員　平田廣次君　東木貞一君

會員 故 八木盛二氏



昭和15年1月12日會員八木盛二氏病を以て逝去せらる。

氏は昭和4年11月21日本會會員として入會爾來評議員、常務等の役員に當選本會のため盡力せられしが病のために急逝せらる。洵に哀悼に禁へず茲に肖照と略歴を掲げ謹んで弔意を表す。

1. 氏は明治26年10月6日鹿兒島縣日置郡郡山村に生る。
1. 明治42年7月關西商工學校建築科卒業
1. 同40年4月辰野片岡建築事務所に入所現場係及建築係を拜命
1. 大正6年4月株式會社佐伯組に就職建築部長を拜命
1. 同14年3月獨立し土木建築請負業を經營其後合名會社八木工務店に改組今日に至る
1. 昭和15年1月12日腦溢血にて逝去享年48歳

昭和15年1月15日阿倍野新喪場に於て葬儀執行本會より常務藏中一夏氏會葬の上下記弔詞を代讀す

弔詞

茲に社團法人日本建築協會會員一同を代表して恭しく故元本會常務合名會社八木工務店代表社員八木盛二氏の英靈に告ぐ

我日本建築協會が夙に建築界の振作革新を以て關西の一角に其の旗幟を樹つるや氏は昭和4年11月籍を本會々員の一員に置き爾來我協會の役員、委員に當選し斯界の功績鮮からず殊に我協會が將來の施設に於て氏に俟つ處亦尠からざるものあるの秋忽然として幽界に歸せらる痛惜寫ぞ禁へん爰に本會會員一同の赤忱を捧げ切に哀悼の意を表す

冀くは英靈夫れ冥冥として來り饗けよ

昭和15年1月15日

社團法人日本建築協會

會長　工學博士　片岡　安

常務打合會

時　1月8日午後6時30分—9時

所　陳列場別室

出席者　伊藤主記　北垣主記　玉置主記　三浦主記　藪中主記　岩尾主計　桐本主計　亀井編輯　政岡編輯

議事

1. 1月例會に關する件
2. 委員會規程改正に關する件
3. 委員幹事豫選の件
4. 15年度大體方針
5. 其他

常務會（第1回）

時　1月12日午後5時30分—7時

所　協會倶樂部室

出席者　理事　片岡會長　今林副會長　坂副會長

監事　井上監事　鈴木監事
常務　伊藤主記　北垣主記
玉置主記　三浦主記
藪中主記　岩尾主計
桐本主計　龜井編輯
棚橋編輯　政岡編輯

議　事

1. 1月例會開催に關する件
2. 評議員會開催に關する件
3. 會費其他取立不能金補塡整理に關する件
4. 出征、入營、應徵者に對する未收入會費取扱に關する件
5. 勞務者住宅設計圖案懸賞募集の件
6. 役員、委員會等に要する食券價格に關する件
7. 委員會、幹事會規程改正の件
8. 委員、幹事委囑の件
9. 引繼事項檢討の件
10. 會員詮衡

報　告

1. 常務逝去報告
2. 出征者報告

一月例會（懇親晩餐會）

時　1月19日午後6時10分—8時50分
所　南海高島屋サロン特別食堂
出席者　淺井欽治郎、青木康純、池田　實
池田宮彦、池田弘純、井上一雄
飯田賢次、石井春雄、岩元熊雄
馬野七登、大嶋太一郎、小川安一郎
河津喜之助、片山信一、木村小治郎
木村梅次郎、神足繁雄、近藤與三次
白川雄一、清水榮二、島　熊平
島田眞幹、須藤員雄、錢高久吉
園部泰文、塚本猛次、田中　容
津村芳三、坪井誠一、中西六郎
野中駒市、濱田茂喜、堀內四知丸
松本儀八、松涙太郎、松久保敬三
三藤清三、宮川豐藏、村井　毅
山本　潔、渡邊義三、若宮松藏
和田友吉、若松　甫、今林彦太郎
井上福藏、伊藤正文、岩尾保衛
藪中一眞　（敬稱略、五十音順）
大和書記長、戸川書記、山內書記
近藤助手

1. 午後6時10分一同食堂に着席開宴
1. 同7時30分今林副會長座長となり本夕1月例會として懇談會を催したる旨を述べて開會の挨拶あり
1. 出席會員各位より會に對する意見、希望等の開陳ありて1時間半に亘りて種々有意義なる懇談を重ぬ
1. 午後8時50分今林副會長より閉會の挨拶あり盛會裡に一同解散す

常務打合會

時　1月20日午後6時20分—8時30分
所　陳列場別室
出席者　伊藤主記、北垣主記、玉置主記
三浦主記、藪中主記、岩尾主計
龜井編輯、北川編輯

議　事

1. 委員會、幹事會規程の件
2. 委員、幹事人選の件
3. 集團住宅敷地設計圖案懸賞募集の件

常務會（第2回）

時　1月23日午後5時20分—6時40分
所　陳列場別室
出席者　理事　片岡會長　今林副會長
坂　副會長
監事　井上監事
常務　伊藤主記　北垣主記
三浦主記　藪中主記
岩尾主計　龜井編輯
棚橋編輯　政岡編輯

議　事

1. 2月例會に關する件
2. 評議員補缺に關する件
3. 昭和14年度收支決算に關する件
4. 同剩餘金處分に關する件
5. 委員會、幹事會規程改正の件
6. 委員、幹事委囑の件
7. 昭和15年度版市街地建築物法令發刊の件
8. 集團住宅設計圖案懸賞募集の件
9. 靜岡火災調査員派遣の件
10. 住宅改良會より申出に係る住宅設計圖案懸賞募集規程會誌に掲載依頼の件
11. 帝國圖書館より申出に係る雜誌寄贈方依頼の件

12. 會員詮衡

報　　告

1. 1月例會終了報告
2. 元常務八木盛二氏逝去報告
3. 出征者報告

評　議　員　會

1. 昭和15年1月23日大阪市北區中之島3丁目3番地朝日ビルデイングに於て評議員會を開會す。
1. 出席者下記の通り評議員23名、監事1名

伊藤正文	石井春雄	岩尾保衛
宇都宮藤次郎	荻田眞之助	龜井幸次郎
北垣熊之介	久保田種吉	黒田　茂
棚橋　諒	塚本猛次	中島喜平
中野順次郎	長尾清一	野中駒市
羽原德衛	花輪正虎	政岡基次
增井敏克	藪中一夏	片岡　安
今林彦太郎	坂　靜雄	（以上評議員）
井上福藏		（以上監事）

1. 午後6時15分開會會長理事片岡安氏議長となり只今出席者23名にして定款第24條に依り評議員定員の2分の1以上の出席に付本會成立の旨を告げ開會を宣し豫告の通り議事進行に入る旨を告ぐ。
1. 第1號議案常務1名補缺選擧の件

元常務米倉威夫氏逝去に伴ひ1名補缺の旨を述べ其の選擧方法を議場に諮る久保田評議員より前例により會長指名の詮衡委員を設け一任しては如何との提案あり贊成の聲多し議長より贊否を問ひたるに異議なしの聲ありたり依りて茲に詮衡委員制に依ることに決定、次いで詮衡委員は3名にて差支へなきやを諮りて此れが贊成を得たるを以て議長は左の3名を指名し其の承認を得たり。

中野順次郎氏、黒田　茂氏、藪中一夏氏

1. 議長只今の3氏は直ちに別室に於て詮衡されたしと述べよつて3氏は別室に入りて詮衡に着手す。
1. 第2號議案　評議員1名補缺に關する件

評議員米倉威夫氏逝去に伴ひ評議員1名缺員となりたるが右は目下の處會務進行上支障なく又總會開催を必要とするため且緊急を要するものに非ざる故當分缺員の儘としては如何と議場に諮りたるに異議なし異議なしの聲ありよりて本案は當分缺員の儘とし其機を得て更に協議することに議決す。

1. 第3號議案　昭和14年度收支決算に關する件

岩尾常務起立し豫ねて配付の決算表により詳細に說明をなす井上監事起立して只今岩尾常務より報告せられたる內容に就ては檢閲の結果總て合法的にして正確なる旨を證明せり議長は更に住友信託株式會社によりて內容詳細に亘り會計檢査を受け居る旨附言し尙質問なきやを問ふ。質問者なし議長質問なければ承認として差支へなきやを再び議場に諮り異議者なきに依り本議案は承認と議決

1. 第4號議案昭和14年度剩餘金處分に關する件

議長より豫め配布せる處分案表によりて說明の上贊否を諮る。異議なし異議なしの聲あり依りて議長本案は之れにて議決する旨を述ぶ。

1. 次いで議長只今詮衡委員より詮衡の結果を受けたる故報告すとて左の通り發表す。

常務（主計）久保田種吉氏

右米倉氏の補缺として決定せる旨告ぐ（一同拍手）

1. 夫れより議長は本會議事錄の代表署名者に左の二氏を指名し其承諾を得たり

野中駒市氏　　長尾清一氏

1. 議長此れを以て本日の議案全部終了したるを以て本日の評議員會は閉會すと宣し散會す

時に午後7時20分

會　員　動　靜

入　會　者

會　　員

天池嘉平治君	尼崎市外立花村水堂字石田196（株式會社竹中工務店）
石橋光雄君	府下三島郡島本村大字山崎（大阪市役所經理部營繕課）
上田泰三君	奈良縣生駒郡都跡村大字佐紀（〃）
大村　勇君	西成區南神合町53（株式會社竹中工務店設計部）
岡本正次郎君	京都市上京區等持院北町8（京都府警察部建築工場課）

清水　要君　京都市伏見區深草中島町26（〃）
鈴木重久君　大正區三軒家濱通4ノ10　東洋紡績株式會社三軒家工場營繕課內（東洋紡績株式會社營繕課）
末廣健次郎君　西淀川區加島濱之町1.333（三菱倉庫株式會社大阪支店建築係）
福島榮郎君　普通贊助員より轉格
藤井忠義君　京都市左京區修學院藥師堂町26（京都府警察部建築工場課）
森　武夫君　府下泉南郡佐野町濱山町4.638（自營）
八尾政二君　住吉區安立町4ノ39（津田建築事務所）
鰍訪秀夫君　西成區橘通2ノ1（自營）
上田司郎君　堺市大豆塚町224　西島太三郎方（梅鉢車輛株式會社工務部設備課）
大村重吉君　西宮市津門稻荷町48（株式會社竹中工務店神戶支店）
西澤藤生君　兵庫縣武庫郡精道村三條西夏手119（株式會社大林組）
阪本忠義君　北區中崎町50（株式會社中村工務店）
中村武臣君　南區鰻町1ノ19中村工務店內（〃）
佐藤　司君　兵庫縣川邊郡立花村塚口　三和銀行塚口寄宿舍內（三和銀行）
鹿田久藏君　神戶市灘區森後町3ノ16（山森工務店）
三國利道君　兵庫縣川邊郡園田村森236（自營）
岩戶　讓君　北區芝田町49（清水工務店）

地方會員

管田登美雄君　北京內六區南池子大街29號　大林組北京支店內（株式會社大林組北京支店）
多田　武君　東京市芝區濱松町1ノ1野澤藤吉方

特別贊助員

中島彥六君　兵庫縣武庫郡本山村森（株式會社須賀商會）
淺尾覺太郎君　南區安堂寺橋通1ノ3（淺尾建材商店・淺尾工務店　自營）

普通贊助員

生田種治郎君　堺市寺地町西3丁33（自營）
山里長治君　旭區左專道町2　白井千二郎方（陸軍造兵廠大阪工廠技術課）

轉居・轉勤

會員

堀田好三君　和歌山市上野町2丁目　島岡眞太郎方
藤田靜雄君　山口縣龜濱　德山曹達株式會社建築課
中野吉禰君　東淀川區國次町193
島田良馨君　住吉區万代町西2ノ27
田靡勝利君　住吉區万代町西2ノ33　株式會社鹿島組大阪營業所內
並木長吉君　府下北河內郡枚方町岡新町75ノ12
木村利久次君　小倉市足原町神獄40　日本電建株式會社小倉支店
山本正重君　愛媛縣越智郡鏡村肥海181
須藤員雄君　府下豐能郡南豐津村原田730
寺門四志猪君　京都市右京區龍安西ノ川町8ノ1
橘　由春君　堺市霞ヶ丘町
栗栖信一君　兵庫縣飾磨郡八幡村才272
松永　巖君　石川縣河北郡森本村株式會社石川製作所內　東畑建築事務所出張所
伊藤　弘君　兵庫縣武庫郡鳴尾村川添
三好喜三郎君　兵庫縣武庫郡住吉村古新田1470
有馬　正君　名古屋市昭和區雁道3ノ16

地方會員

岩波　楊君　神奈川縣大磯町　好大寺內
村田俊郎君　福岡市東中洲　日產自動車販賣株式會社福岡營業所內
中澤吉郎君　岩手縣釜石市清水町　前田住宅內
岩井金三郎君　天津日本租界常盤街10　竹中工務店天津支店內
米澤直治君　京城府錦町142　朝鮮總督府企畫部
鳥井捨藏君　京城府新堂町290ノ50（電本局8007）
石山松之助君　府下豐能郡中豐島村曾根342
坪川　忠君　東區京橋3　株式會社大林組設計部內
安田勇吉君　臺北市大安十二甲277

普通贊助員

鳥居正男君　橫須賀市　橫須賀航空隊內　八木工務店作業所內
芳川時男君　西淀川區野里町252　谷通方（大阪鑛山監督局鑛業警察課）

辻本 孝一君　朝鮮咸鏡南道豐山郡天南濱君里
長津江水電株式會社　虚川江建設
事務所建築係
舟津 重夫君　哈爾賓市馬家溝永和寮15（哈爾賓
鐵道局工務課建築係）
水本 喜晴君　關東軍司令部けい5ノ10
上井 茂介君　岡山縣兒島郡日比町大字玉10　玉
造船所構內　大倉土木株式會社作
業所內
山下源太郎君　東鵠舞市中舞鵠　山下六藏方

改　姓　名

會　　員

粉川 進一君（舊姓戸川屋）

地 方 會 員

池田 梅親君（舊名訓章）

死　　亡

會　　員

米倉 威夫君（昭和15年1月5日逝去）
八木 盛二君（同　15年1月12日逝去）
（謹んで哀悼の意を表す）

會　　告

今般常務（主計）米倉威夫氏逝去に付昭和15年1月23日開會の評議員會に於て補缺選擧を執行致しました結果下記の通り當選相成りました。

常務主計　久保田種吉氏

昭和15年2月

社團法人日本建築協會

編輯後記

☆大家の年頭所感で飾られた新年號の後を受けて本號は元氣潑剌たる新進建築家の建築論特輯を以て望んだ。何れも新鋭の意氣高らかな建築家の筆になるもので、どうかすると沈まうとする今年の業界展望への大きい刺激劑となる事を確信してゐる。

☆山口氏の「事變と建築家」は事變第4周年目を迎へた今日あらゆる角度から建築家に對して極めて興味ある問題を供してゐる。渡邊氏の「滿洲國建築展望」は居ながらにして滿洲國の建物の概略を彷彿せしめるであらう。附記にある開拓民の住居に關する御寄稿を鶴首する次第である。

☆當麻二氏、中村俊一氏、賀崎靖氏の各異つた方向からの建築行政と都市の建築に關する論文は、この方面に異常の進展變更を行ひつゝある現情に則して大に有益なものと信ずる

☆遠山正瑛氏の「建築家と建築」は前年來受續いだ重大問題への警鐘で如何にも〃緊褌一番しつかりやらうぜ〃を感ぜしめる。

☆裝潢室は大家の御寄稿もあつて極めて賑々しい。何れも新年早々松の内から御執筆を賜つたもので、こゝに執筆者各位に深甚の敬意を表する次第である。

☆都市の防火改修・建築資材の拂底が叫ばれてゐる矢先、靜岡市の大火が起つた。廣大な地域を一瞬にして燒野原と化せしめた事は如何にも勿體なく、又寒い最中に燒け出された罹災者へは滿腔の同情を禁じ得ない次第である。

☆協會からは調査を依囑してお二方の御出張を煩した。次號はその報告を中心に編輯される豫定である。（政岡基次）

建築と社會

第23輯　第2號

毎月1回1日發行　定價　1冊　50錢（郵稅3錢）
12冊　6圓（〃36錢）
昭和15年1月25日印刷　昭和15年2月1日發行

發行・編輯兼印刷人　戸川弘
大阪市北區朝日ビル日本建築協會內

印刷所　ブラトン印刷社
大阪市西區江戸堀南通2丁目13番地

發行所　社團法人　日本建築協會
大阪市北區中之島3ノ3　朝日ビル
電話長北濱(23)4501番(9)
振替口座大阪39975番

特約販賣店　柳々堂書店
大阪市西區京町堀羽子板橋西
電話土佐堀2440番
振替口座大阪2084番

禁轉載

本號に掲載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

廣告掲載料金

普通	1頁	1回	15,00
普通	半頁	1回	8,00
普通（前羽第1頁）	1頁	1回	45,00
普通（前羽第2頁）	1頁	1回	40,00
普通（後羽第1及最終頁）	1頁	1回	25,00
アート（中揷）	半頁	1回	20,00
表紙2	1頁	1回	60,00
表紙3	1頁	1回	45,00
表紙4	1頁	1回	80,00
建築事務所錄	1欄	1回	1,50
（建築關係業者案內）	1欄	1回	5,00

廣告掲載御申込は本會へ直接願ひます。
本誌購讀御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ、振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます。郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

“建築と社會”第23輯第2號　廣告索引

ア　旭硝子株式會社……10
淺野スレート株式會社……13
旭レール株式會社……1
エ　榮進社……21
荏原製作所……25
オ　大阪窯業セメント株式會社……中挿
大阪伊丹商店……2
大野製作所……表紙 2
岡田建材店……19
奥村重兵衛商店……20
カ　關城化學工業株式會社……表紙 4
キ　桐田商會……16
ク　久保商店……17
サ　佐久間工業株式會社……11
坂田ベンチレーター製作所……4
三正商會……17
セ　政正合資會社……8
タ　田島應用化工株式會社……26
田中タイリング商會……2
大洋組……3
ト　東京芝浦電氣株式會社マツダ支社……23
東洋リノリユーム株式會社……表紙 3
ナ　南滿鑛業建材合資會社……14
寧樂屋家具裝飾店……中挿
ニ　日本建築紙工株式會社……14
日本陶機株式會社……4
日東物産株式會社……12
日本機械工業株式會社……24
西原衛生工業所……9
西孫南店建築金物部……6
ノ　野澤幸三郎商店……5
ヒ　平松釣戸車製造所……18
マ　松井商店……8
ミ　三井物産株式會社……7
ム　村田商會……前附 1
ヤ　矢橋大理石商店……6
ヨ　横河橋梁製作所……15
淀川鐵工所……19